金沢工業大学　御中

平成18年度　授業調査　報告書

2007.08.01

INDEX

＜1＞本調査の全体像	2
＜2＞基本的な分析	8
＜3＞学年別の分析	14
＜4＞学年毎･学期毎の分析	20
＜5＞学部･学科別の分析	33
＜6＞科目区分別の分析	42
＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	50
＜8＞全体のまとめ	56

＜1＞本調査の全体像

＜1-1＞全体概略

1）調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学（以下、KIT）の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度から質問項目を変更しており今回が2年目となるため、今回は時系列比較を行って学生の実態がどの様に変わっているかを確かめることが可能となっている。

2）調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>有効回答数</td><td>1年次生 48,302件
2年次生 32,727件
3年次生 19,587件
Sクラス 1,439件
合計有効回答数 102,055件

※留年して平成18年度もJクラスである学生の回答が53件、同様にCクラスである学生の回答が1,028件あったが、これらを集計に加えると新旧の学科が混在してしまうため、JクラスとCクラスは集計から除外した。また、クラス未記入の2件も集計から除いた。</td></tr>
<tr><td>年別回答数推移</td><td>回答数の推移は下記の通り。
<table>
<tr><th>年度</th><th>春学期（夏期特別含む）</th><th>秋学期</th><th>冬学期</th><th>全回答数</th></tr>
<tr><td>平成15年度</td><td>30,514</td><td>28,157</td><td>25,464</td><td>84,135</td></tr>
<tr><td>平成16年度</td><td>31,463</td><td>31,855</td><td>29,601</td><td>92,919</td></tr>
<tr><td>平成17年度</td><td>36,766</td><td>33,361</td><td>30,653</td><td>100,780</td></tr>
<tr><td>平成18年度（今回）</td><td>36,518</td><td>33,803</td><td>31,734</td><td>102,055</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>対象科目</td><td>686科目</td></tr>
<tr><td>集計上の留意点</td><td>• 平成16年度の入学者より学科体制が変わっているため、集計に関しては1年次生～3年次生は新学科体制で集計、Sクラスは旧学科体制で集計を行った。
• 上記の学科体制の変更に伴い、学系が「7学系」より「3学部15学科」になったため、変更前後の学系同士の比較は行っていない。また、新学科体制に関しては学部毎、学科毎の比較を行った。科目区分の考え方も変更になったため、変更前後の科目区分による比較も行っていない。</td></tr>
<tr><td>実施方法</td><td>• 実施期間：各学期の各授業科目の最終日に実施した。
• 実施方法：記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、ならびに回収を行った。
• 回答用紙はOCR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。</td></tr>
<tr><td>調査主体</td><td>学校法人 金沢工業大学</td></tr>
<tr><td>集計</td><td>有限会社 アイ・ポイント</td></tr>
</table>

3）設問見直しの考え方

平成17年度（前回）の設問見直しは下記のような観点で行った。

- 学生から見た各科目の受講の流れを整理し、「受講前」「受講当初」「受講中」「受講後」という場面に分けて聞くことで、授業改善に役立てやすいデータを収集することとした。
- また、各設問の内容も整理し、「授業内容」「授業支援」「学生の姿勢」「教員の姿勢」「総合満足度」に分けて聞くことで、課題が絞りやすくなるようにした。
- 今までは学生の取組姿勢だけを聞いていたが、上記にあるように「教員の姿勢」を聞くことで、学生と教員の両者の姿勢を比較できるようにした。
- また、以前の設問において、間違いなく相関しそうな項目は排除する（積極性と興味など）ことで、全体を整理した。
- ただし、ほとんどの設問が過去のものと変わったため、短期的には過年度との比較ができなくなっている。

4）設問の内容変更

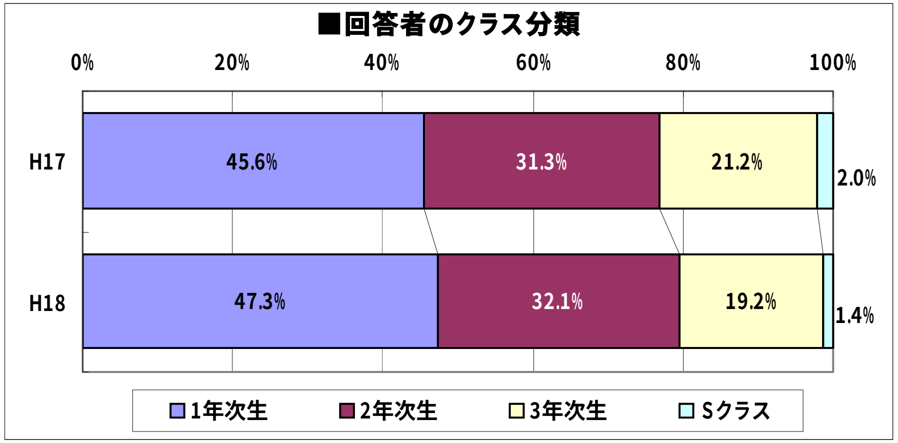
	旧アンケート内容（平成15～16年度）
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー（OH）は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー（OH）を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

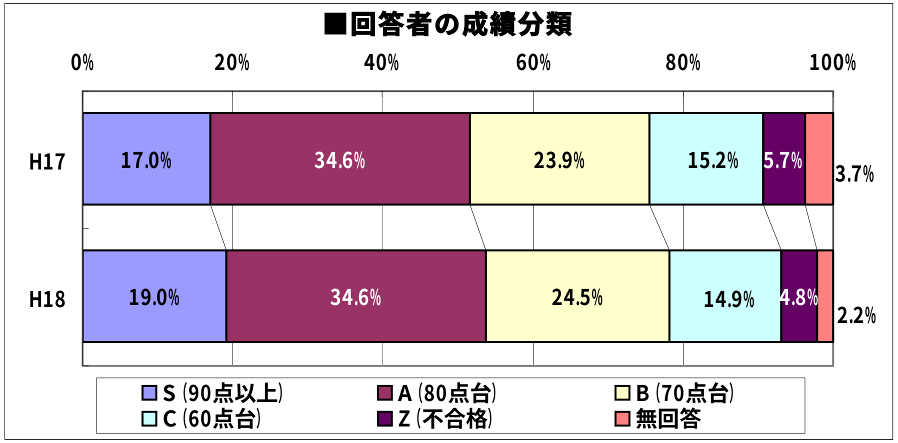
→

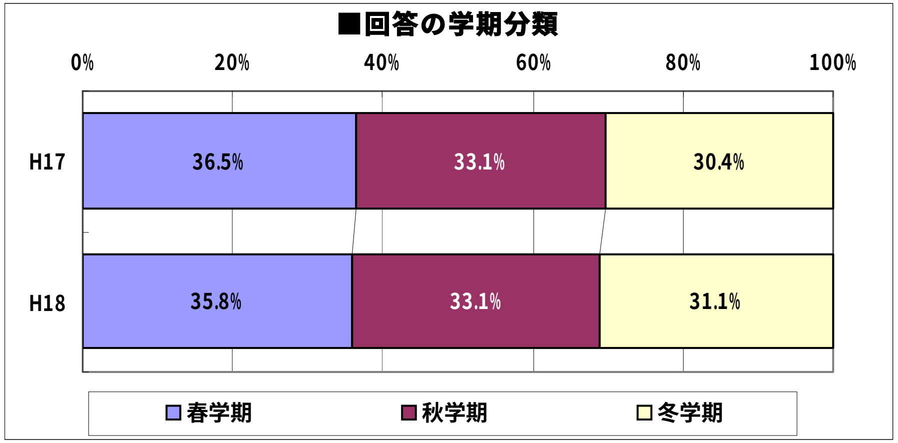
	新アンケート内容（平成17～18年度）	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談（オフィスアワー、チューターなど）は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

＜1-2＞回答者の基本属性

- 回答には留年した学生の回答がJクラスで53件、Cクラスで1,028件あったが、これらを集計に加えると学科別集計、科目区分別集計に新旧の学科が混在してしまうため、Jクラスと Cクラスは集計からは除外した。また、H17は正式にはCクラスであるが、H18と比較をするため「3年次生」と表記しており、この報告書では「3年次生」として統一している。
- 学年別には「1年次生」が47.3%とほぼ半数を占めており、「2年次生」が32.1%、「3年次生」が19.2%、「Sクラス」が1.4%であった。この報告書では学科別の集計も行っており、「1年次生」～「3年次生」は「3学部・15学科」であるため一緒に集計を行った。一方、「Sクラス」は旧体制の「7学科」であるため別に集計すべきであるが、回答が少ないため「Sクラス」の学科別集計は行っていない。
- 成績の区分を見ると「S」が19.0%でありH17よりも2ポイント増加していた。他の成績区分の変化はわずかであり、全体としては最も得点の高い「S」だけが増加し、他の変化はほとんどなかったということになる。







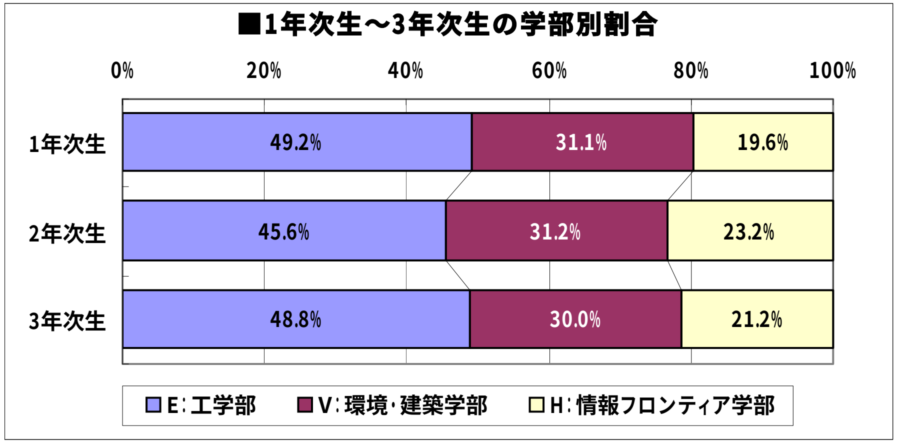
- 学部別の回答数は下記の通りであった。
- 学部別割合では「2年次生」で「H：情報フロンティア学部」がやや多く、「E：工学部」がやや少なめであったが、学年によってそれほど大きな差はなかった。

■1年次生～3年次生の学部、学科別回答数

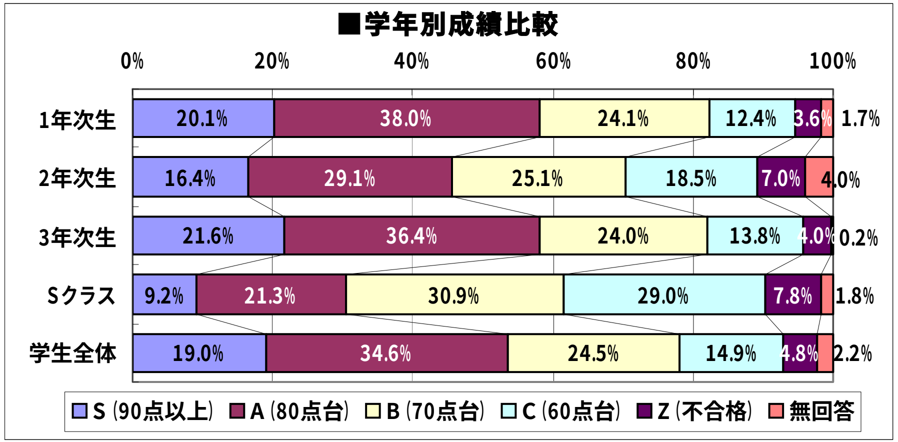
学部	学科	1年次生		2年次生		3年次生	
E：工学部	EM：機械工学科	4,661	23,774	2,966	14,928	2,013	9,552
	ER：ロボティクス学科	3,642		2,227		1,229	
	EA：航空システム工学科	1,487		1,050		660	
	EE：電気電子工学科	3,738		2,235		1,742	
	EI：情報通信工学科	2,835		1,528		1,214	
	EC：情報工学科	7,411		4,922		2,694	
V：環境・建築学部	VB：バイオ化学科	3,125	15,045	1,911	10,200	1,334	5,878
	VC：環境化学科	1,851		1,291		711	
	VE：環境土木工学科	2,791		2,463		1,934	
	VA：建築学科	4,368		2,973		1,202	
	VD：建築都市デザイン学科	2,910		1,562		697	
H：情報フロンティア学部	HM：メディア情報学科	3,815	9,483	2,689	7,599	1,394	4,157
	HB：生命情報学科	1,818		1,940		945	
	HP：心理情報学科	2,086		1,448		1,193	
	HS：情報マネジメント学科	1,764		1,522		625	
合計		48,302		32,727		19,587	

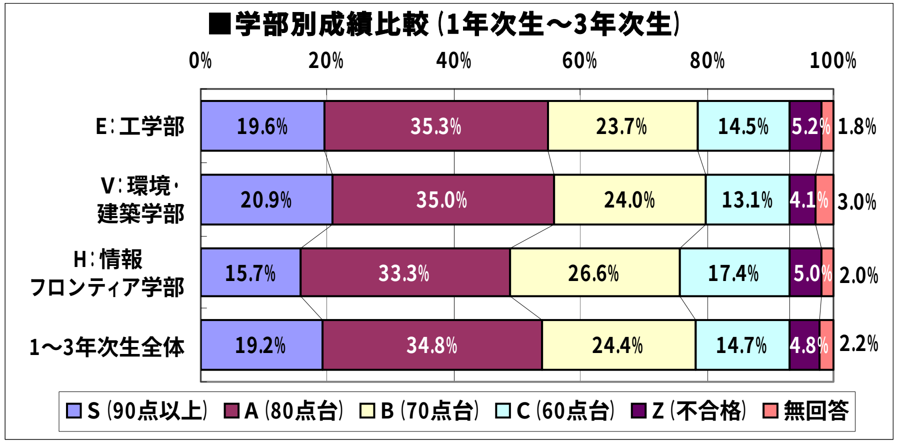
■Sクラス学系別回答数

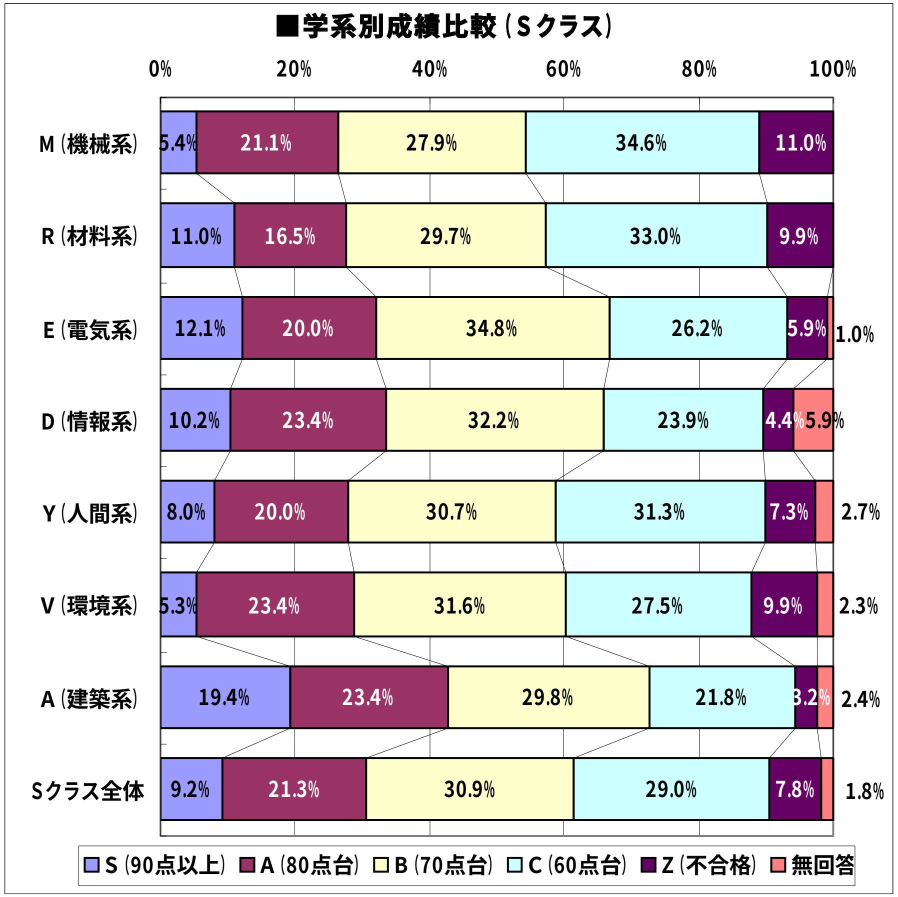
	Sクラス
M（機械系）	408
R（材料系）	91
E（電気系）	290
D（情報系）	205
Y（人間系）	150
V（環境系）	171
A（建築系）	124
	1,439



- 学年別に成績の分布を見ると「1年次生」と「3年次生」の傾向はほぼ同じであったが、「2年次生」で成績の悪い層がやや多めであった。他の調査や過去の調査などより「2年次生で意欲の低下が見られる」といった傾向が見られたが、この「2年次生」の成績の低さもそれらの意識低下と同じ要因によるものと思われる。
- 「Sクラス」も成績が低めであったが、これは「3年次生」までに単位が取得できなかった学生が多いためではないかと考えられる。
- 「1年次生」～「3年次生」の学部別には「H:情報フロンティア学部」の成績がやや低かった。
- 「Sクラス」の学系別には「建築系」の成績が良い点が目立っており、「情報系」「電気系」が続いていた。そして、「機械系」「環境系」がやや低めであった。



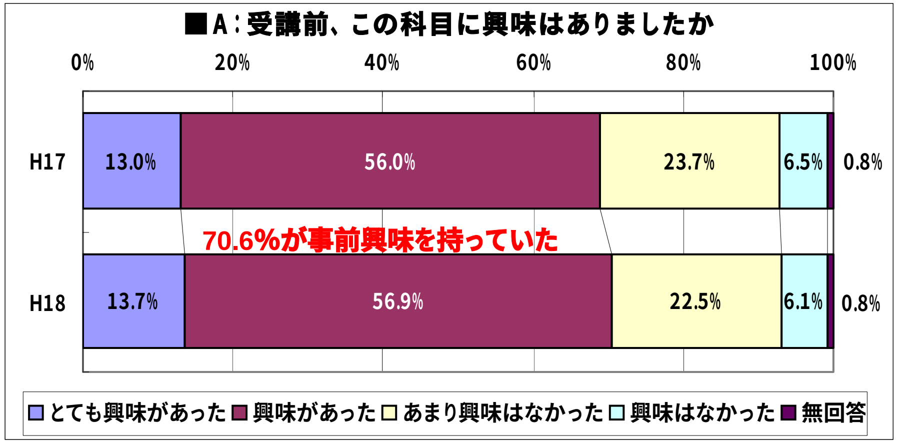


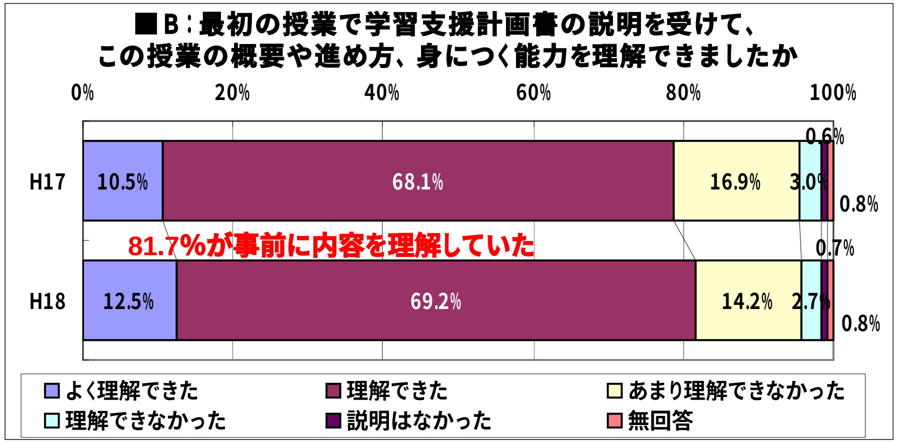


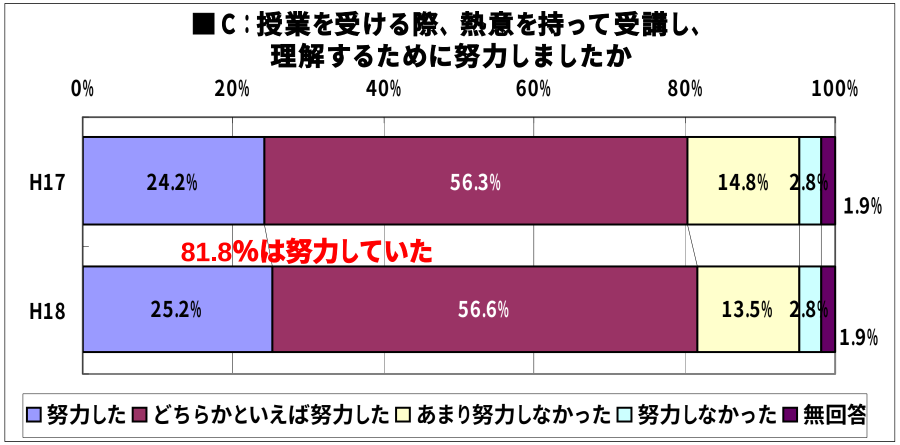
＜2＞基本的な分析

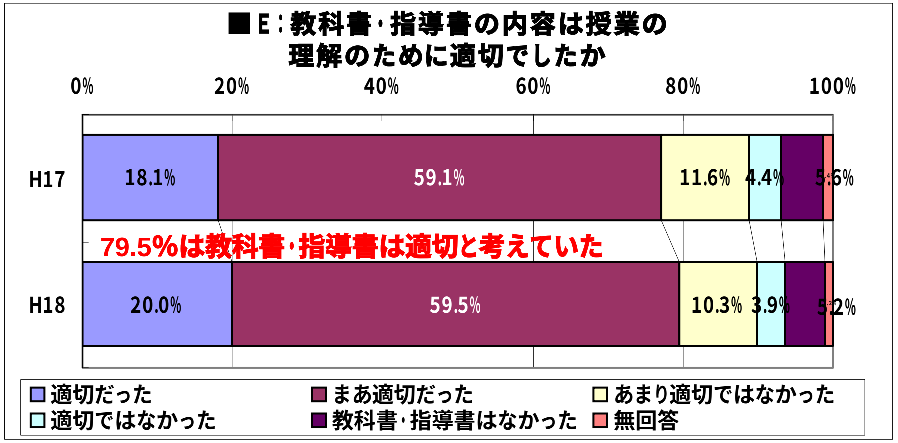
＜2-1＞全項目の基本集計と経年変化

- 「A：事前の興味」に関しては「とても興味があった」が13.7%、「興味があった」が56.9%で、合わせると70.6%が事前に興味を持っていたと答えていた。前年度の69.0%を1.6ポイント上回っており、わずかではあるが興味が強くなっているようであった。ただし、約3割は興味が持てないまま授業を受けているようであった。
- 「B：事前の内容理解」では「よく理解できた」と「理解できた」の合計は81.7%で前年度を3.1ポイント上回っており、良い状況に変化していると言える。
- 自分自身の姿勢として「C：自分の熱意と努力」では、「努力した」と「どちらかといえば努力した」を合わせると81.8%が努力したと答えており、これも前年を1.3ポイント上回っており、自分自身の姿勢も前年度より前向きになっていることが確認できた。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」に関しては「適切だった」が20.0%、「まあ適切だった」が59.5%であり、合わせると79.5%が適切であると評価していた。また、教科書・指導書に関しても、前年度より評価が2.3ポイント上回っていた。

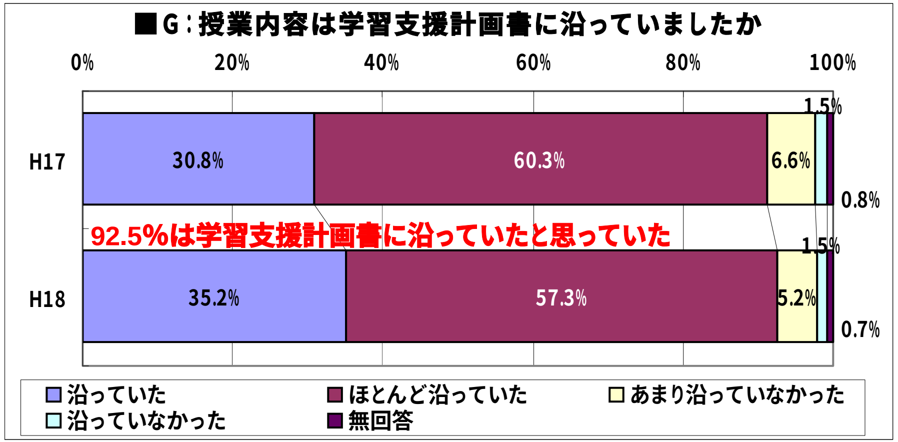


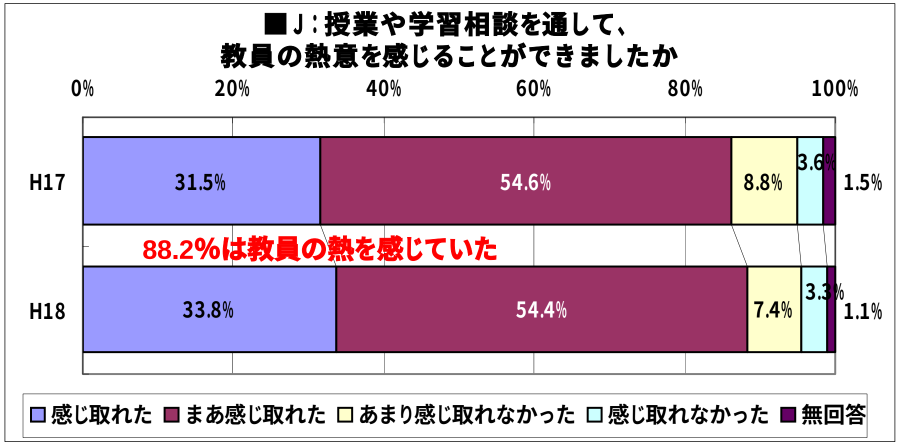


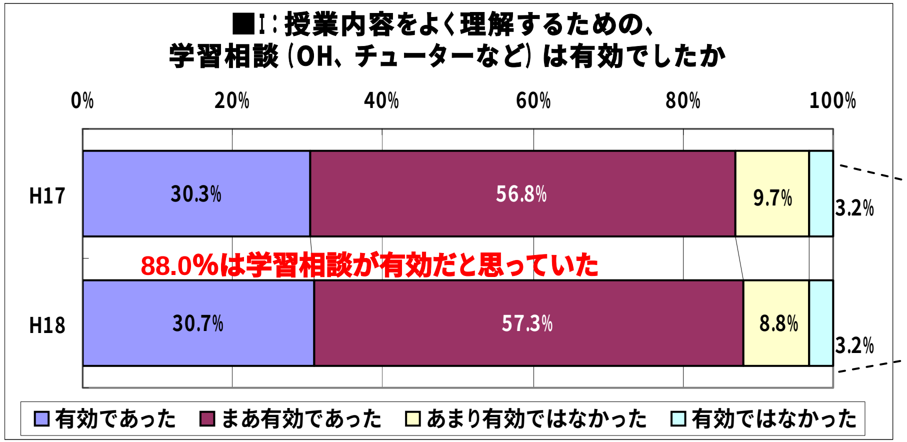


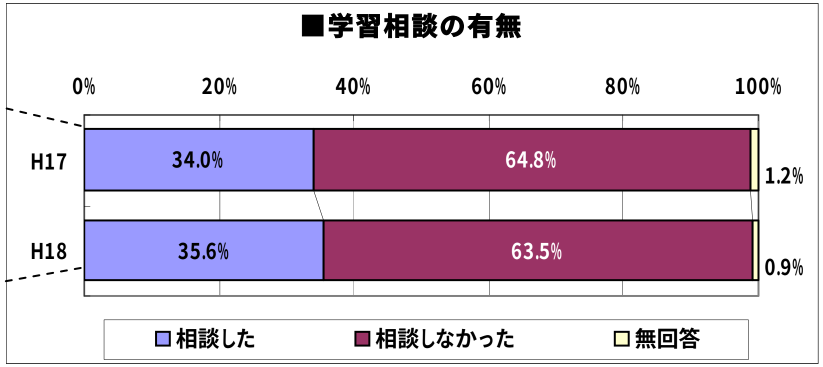


- 「G：学習支援計画書との一致」では「沿っていた」が35.2%、「ほとんど沿っていた」が57.3%で合わせると92.5%と、ほとんどの授業は学習支援計画書に沿っていたと言える。そして、これも昨年より1.4ポイント良くなっていた。
- 「I：学習相談の有効性」では「相談しなかった」という選択肢も用意したが、今回の結果を見ると63.5%と過半数は学習相談を行っておらず、前年度よりもわずかに利用度は増したものの利用率の低さがうかがえた。
- 学習相談を利用している層だけを抜き出して有効性を見ると、30.7%は「有効であった」、57.3%は「まあ有効であった」と答えており、合わせると88.0%が有効だと感じており、利用している層の評価は高いことが分かった。
- 「J：教員の熱意」では「感じ取れた」が33.8%、「まあ感じ取れた」が54.4%であり、88.2%は教員の熱意を感じていた。前年度は86.1%が熱意を感じたと答えており、それを2.1ポイント上回り、教員の評価が良くなっていることが確認できた。

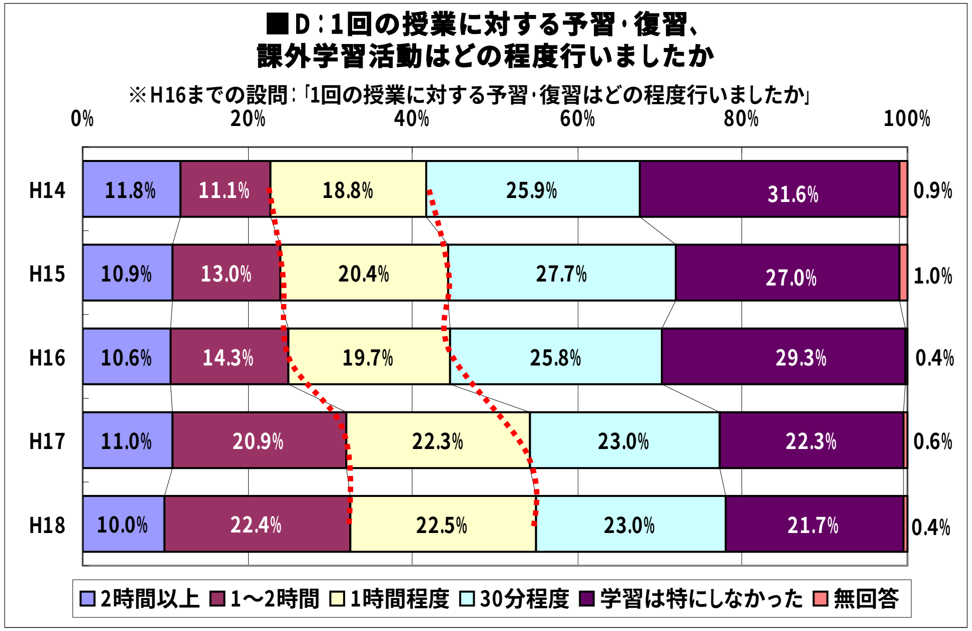


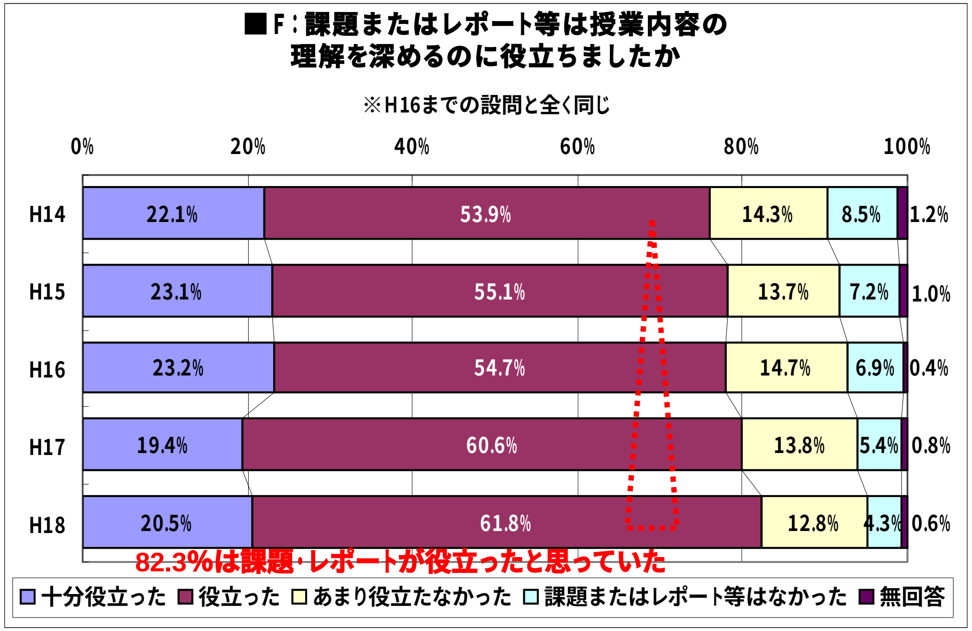






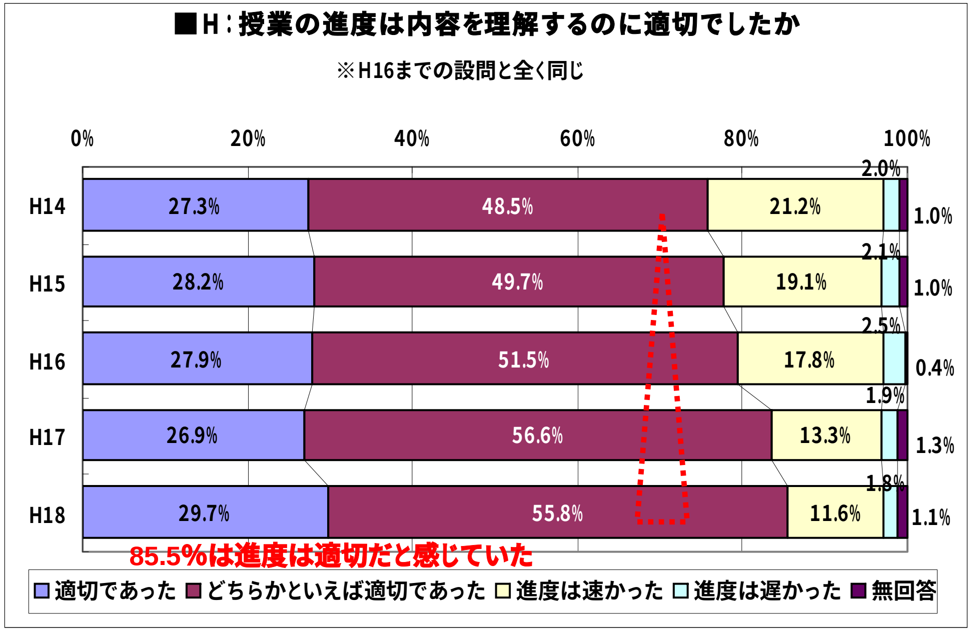
- H14から同じ質問を継続している項目は5年間の変化を確認した。
- 「D：予習・復習、課外学習活動」はH14からH16まではそれほど大きな変化はなかったが、H17に大きく変化しており、「1～2時間」「1時間程度」が増加して「学習は特にしなかった」が大きく減少していた。今回は、「学習は特にしなかった」が今までの中で最も少なくなっていた。
- ただし、H17の変化に関しては、調査設計の変更の際に質問文が少し変わって「課外学習活動」が含まれたため、その時間が加わって学習時間が増えたとも考えられる。
- 「F：課題・レポート等の評価」に関しては、「十分役立った」はH16からH17にかけてやや大きな変化が見られるが、「役立った」との合計を見ると、H14から徐々に評価が上がってきていると言える。
- 今回は、82.3%は「課題・レポート」が役立ったと感じており、評価は非常に高く、その評価も年々良くなっていると言える。

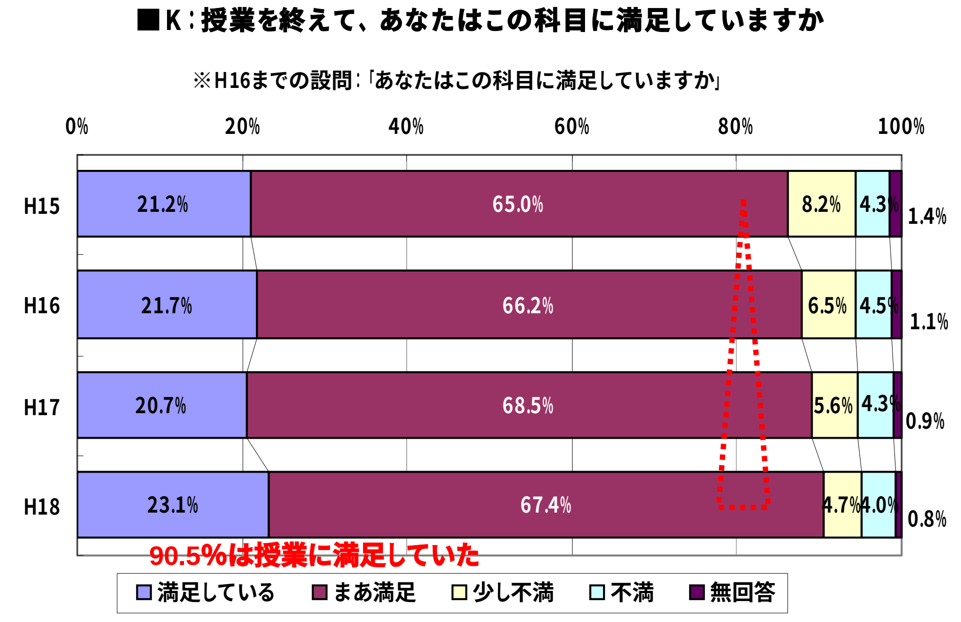




- 「H:授業の進度」に関しては、「適切であった」はそれほど大きく変化していなかったが、「どちらかといえば適切であった」までを加えると確実に評価が上がってきており、今回は85.5%が進度は適切だと答えていた。
- 「進度は遅かった」はH14からほとんど変わっていないが、「進度は速かった」という割合は継続的に減少しており、学生がしっかりとついていけるよう、授業が進められるようになってきていることがうかがえる。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」は年によって変動があるがH18には23.1%となり、今までで最も多かった。「まあ満足」までを加えると90.5%が満足していると答えており、ほとんどの学生が満足と答えていた。
- そして、満足している学生の割合はH15より継続的に増加しており、H15とH18を比較すると4.3ポイントの差となっていた。

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	−
H16	87.9%	＋1.7
H17	89.2%	＋1.3
H18（今回）	90.5%	＋1.3



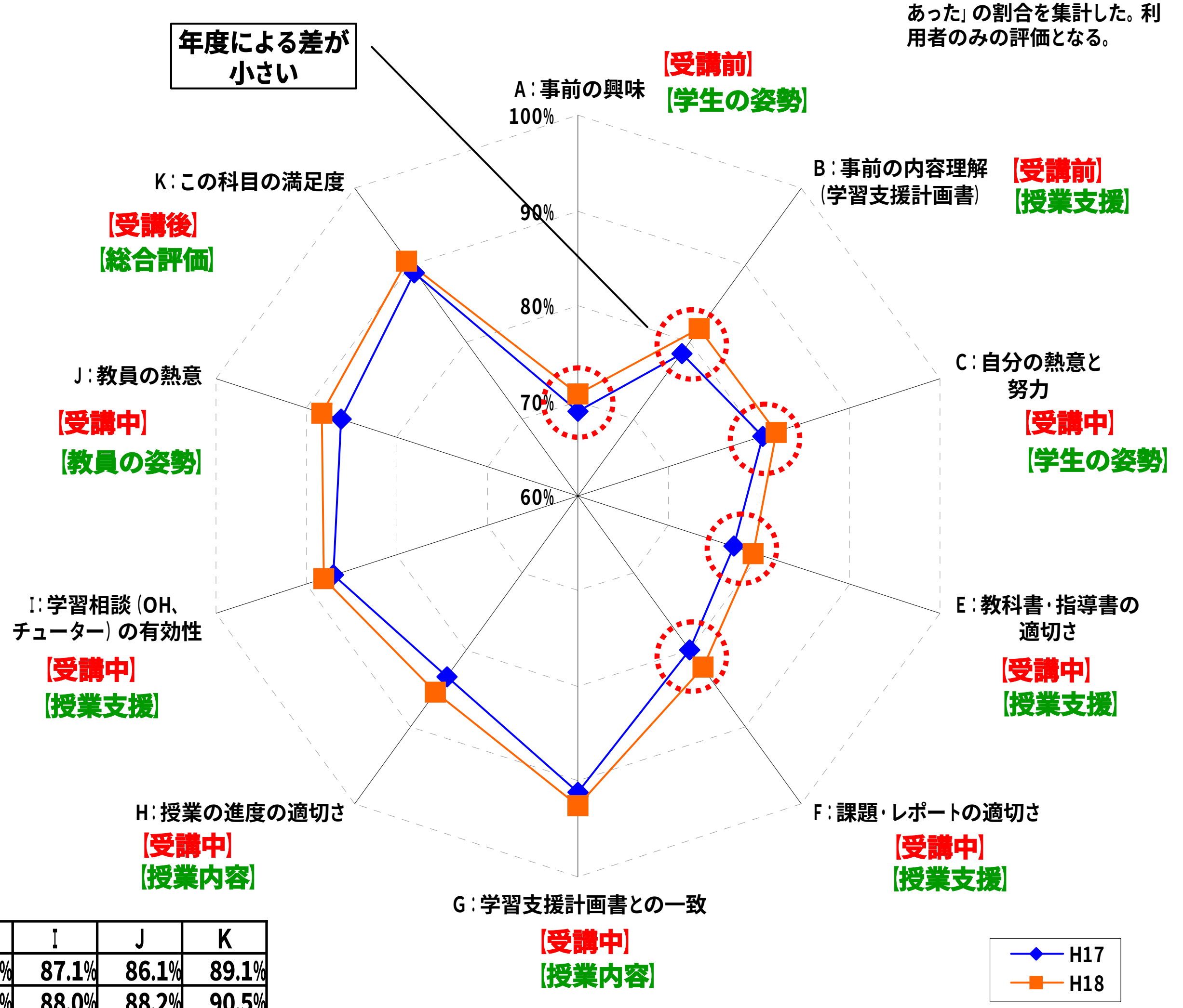


<2-2>レーダーチャートによる経年変化比較

- 11の設問の中で「D：予習・復習、課外学習活動」以外は肯定的な評価か否かで分けることができるため、肯定的な評価の割合だけを抽出してレーダーチャートにした。
- 経年変化は帯グラフで見たように全ての項目でH17よりもH18の方が評価が良くなっており、全体的に改善がうかがえる。
- 項目別に見ると「A：事前の興味」が最も低く、「B：事前の内容理解」「C：自分の熱意と努力」「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題・レポートの適切さ」がやや低めであった。
- 項目同士比べられるものではないが、相対的に見ると「A：事前の興味」「B：事前の内容理解」という、【受講前】の項目評価が低めであった。
- また、「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題・レポートの適切さ」など、【授業支援】の項目もやや低かった。ここでは「I：学習相談の有効性」での「相談しなかった」は除いて集計しているが、「相談しなかった」を考えると【授業支援】は全体的にやや低いと言える。
- 【授業内容】【教員の姿勢】【総合評価】は肯定的な意見が9割程度を占めており、相対的に見ると評価は高いと言える。
- 相対的に評価はできないが、これらを見ると【受講前】と【授業支援】に課題がありそうであった。

■比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I：学習相談の有効性」は「相談しなかった」は除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



■H17とH18の肯定的な意見の差（H18－H17）

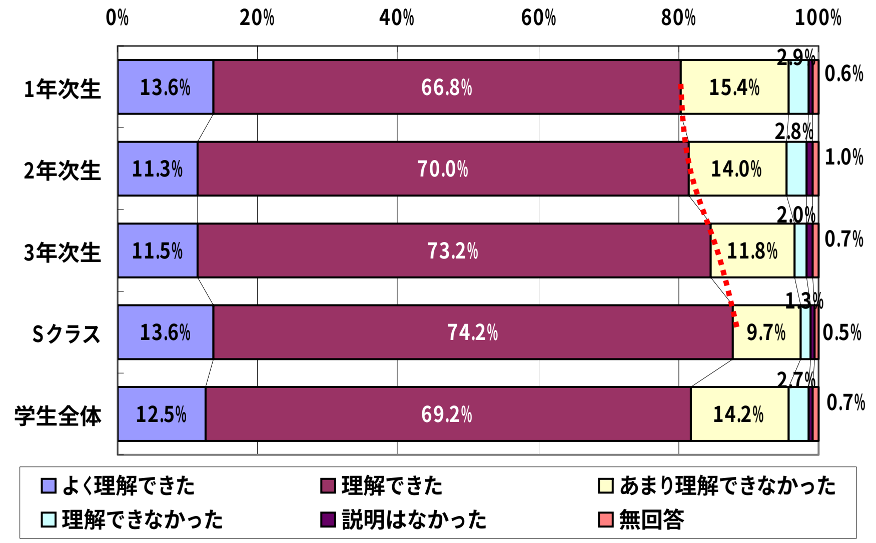
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17	69.0%	78.6%	80.5%	77.1%	80.0%	91.1%	83.5%	87.1%	86.1%	89.1%
H18	70.6%	81.6%	81.8%	79.5%	82.3%	92.6%	85.5%	88.0%	88.2%	90.5%
差	1.6%	3.0%	1.3%	2.4%	2.3%	1.5%	2.0%	0.9%	2.1%	1.4%

＜3＞学年別の分析

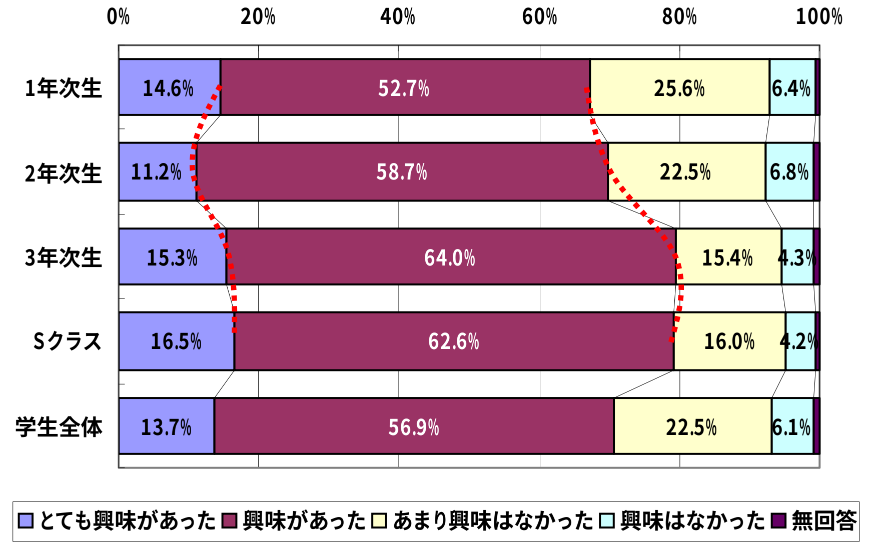
＜3-1＞学年別の比較

- 「A：事前の興味」を学年別に比較すると「とても興味があった」だけを見ると「2年次生」がやや低く、「3年次生」「Sクラス」がやや高めであった。
- 「とても興味があった」と「興味があった」を合わせると、「1年次生」が最も興味が弱く、「3年次生」までは高学年ほど興味が強くなっており、「Sクラス」はほとんど変わらなかった。
- 「B：事前の内容理解」は「よく理解できた」だけでは学年によって大きな差はなかったが、「理解できた」までを合わせると「1年次生」の理解が最も低く、高学年ほど事前の理解が深まっているようであったが、これは「大学での授業の受け方」のコツが分かっていくためではないかと思われる。
- 「C：自分の熱意と努力」に関して、「努力した」だけを見ると「2年次生」が最も低かった。総合調査の結果などを見ても「2年次生」が最も消極的である傾向が見られたが、ここでも同じような傾向であった。
- しかし、「どちらかといえば努力した」までを加えると、わずかな差ではあるが高学年の方が努力したという自己評価となっていた。

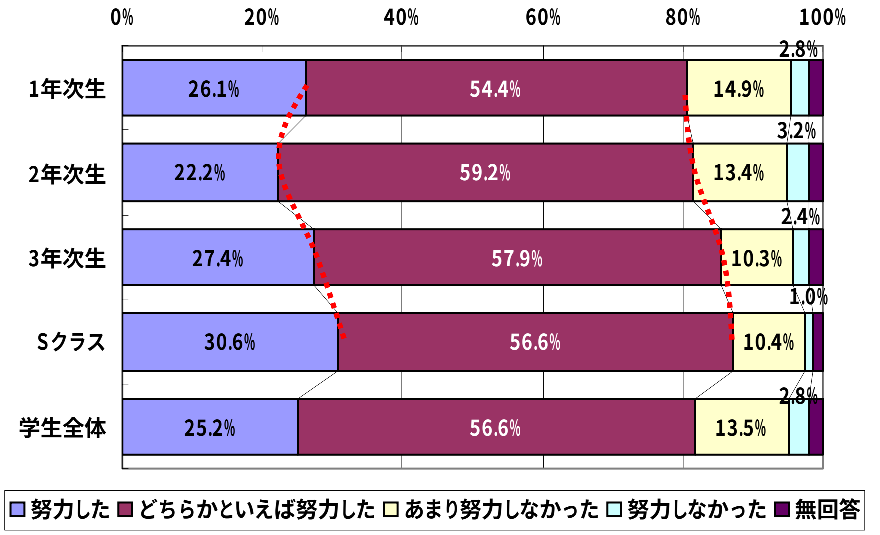
■B：最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか



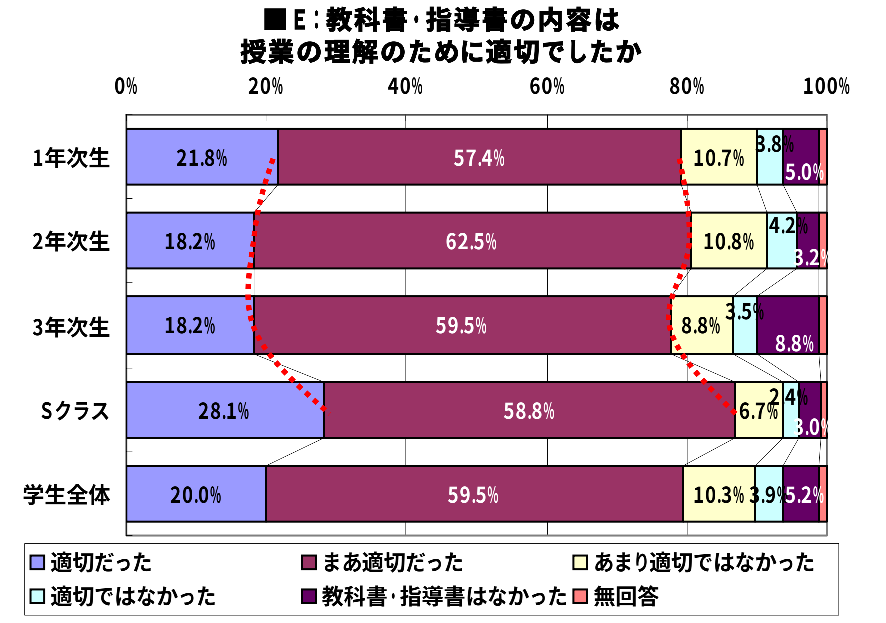
■A：受講前、この科目に興味はありましたか

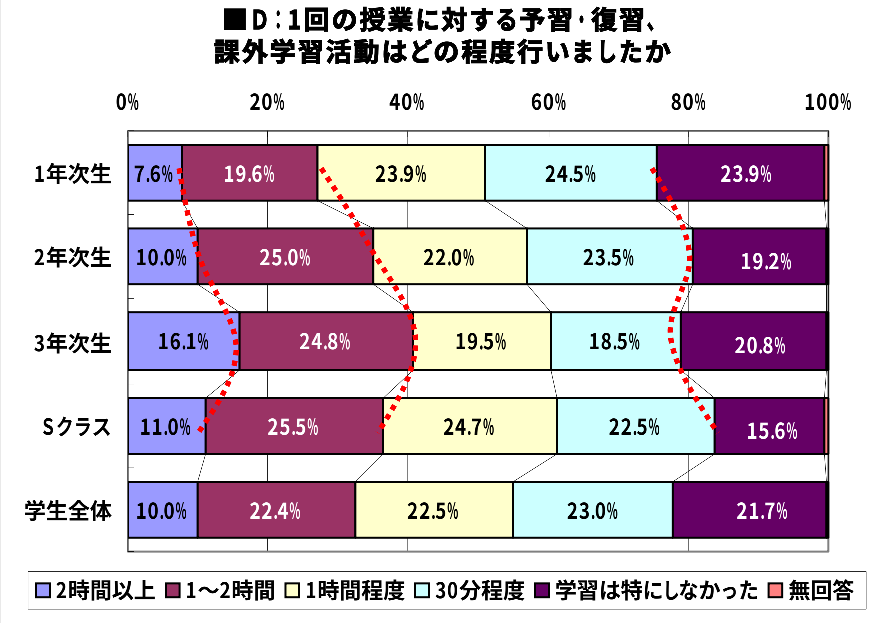


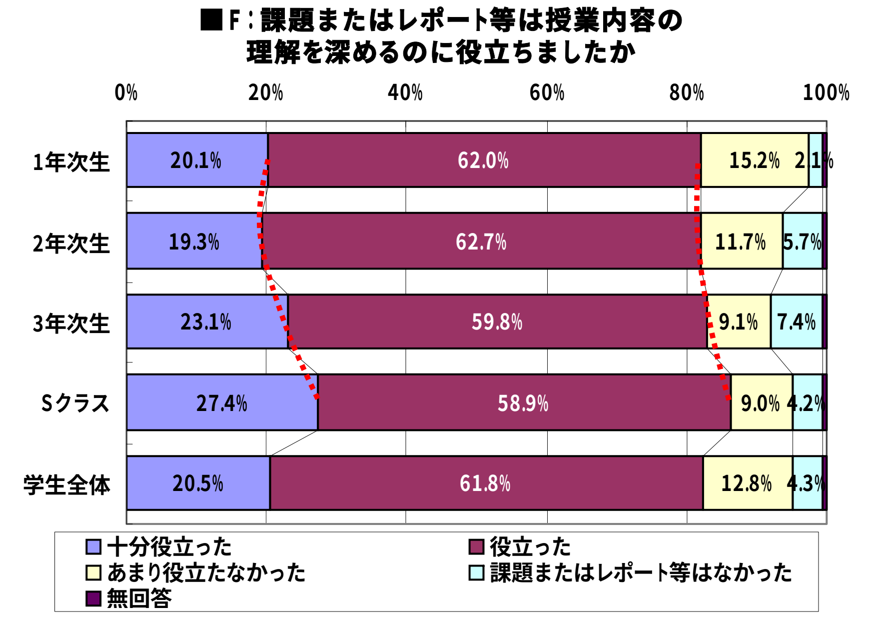
■C：授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか



- 「D：予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」を見ると「3年次生」が最も多く、「1～2時間」までを合わせたものを見ても「3年次生」がよく予習・復習などをしていると言える。
- 全体の傾向を見ると低学年ほど予習・復習の時間は短く、高学年ほど時間を割いている傾向が見られた。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」に関しては「1年次生」から「3年次生」の間の差はそれほど大きくなかった。しかし、「Sクラス」の評価は高めであり、86.9%が適切であったと評価していた。
- 「F：課題、レポート等の評価」は「1年次生」と「2年次生」の間にはほとんど差はなかったが、「3年次生」「Sクラス」と見ていくと、高学年ほど良い評価をしていた。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題、レポート等の評価」といった「授業支援」の分野は同じような傾向となっており、「1年次生」から「3年次生」でそれほど大きな差はなく、「Sクラス」で良い評価となっていた。

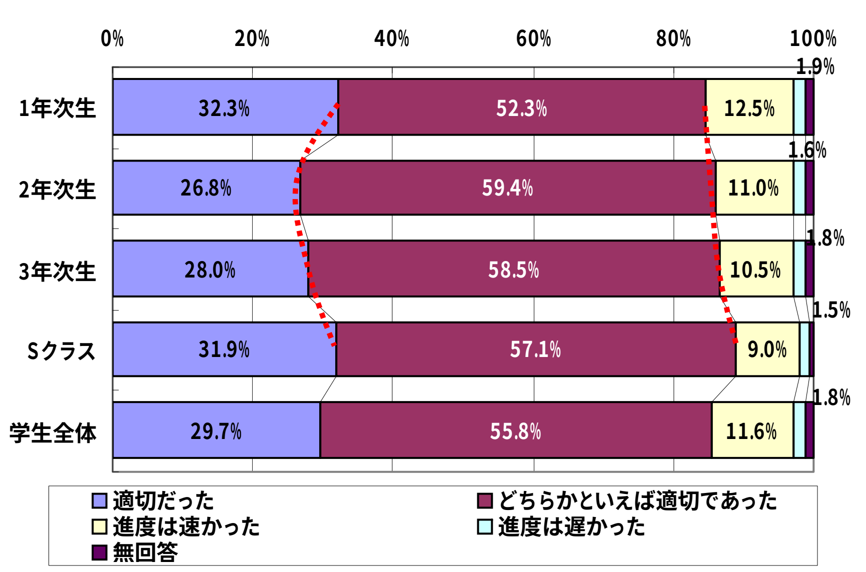




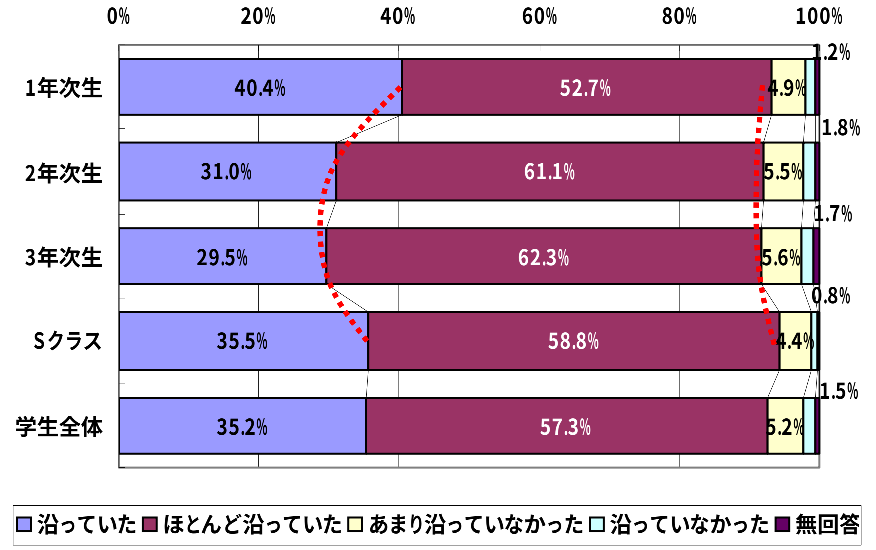


- 「G：学習支援計画書との一致」に関しては、「沿っていた」「ほとんど沿っていた」を合わせると学年による差はほとんどなかったが、「沿っていた」だけを見ると「1年次生」の高さが目立っていた。
- この評価を見ると、ほとんどの科目は「学習支援計画書」に沿っているが、「2年次生」「3年次生」は少し厳しい評価であった。
- 「H：授業の進度」に関しても「適切だった」と「どちらかといえば適切であった」を合わせると学年による差はなく、どの学年も進度は適切だと考えていた。しかし、「適切だった」だけを見ると「2年次生」「3年次生」は厳しい評価をしていた。
- 「G：学習支援計画書との一致」「H：授業の進度」は「授業内容」の項目であるが、これらを見ると「授業内容に大きな問題は見られないが、2年次生と3年次生はやや厳しい見方をしている」と言える。
- 「I：学習相談（OH、チューター）の有効性」に関して、まず「相談しなかった」を見ると「2年次生」で最も多く、高学年ほど学習相談を使っている傾向が見られた。内容の評価も連動しており、高学年ほど良い評価となっていた。利用者の評価は非常に高いことから、利用を促進するなどの対策も必要ではないかと思われる。

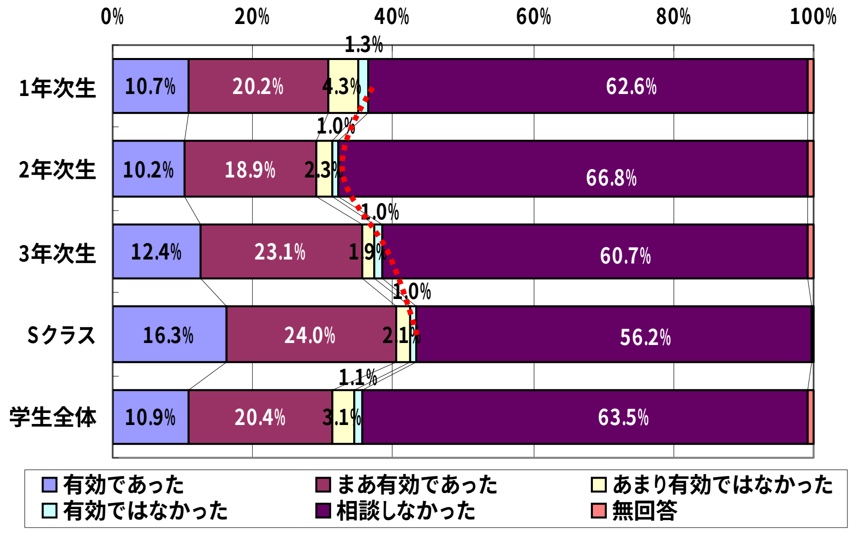
■H：授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



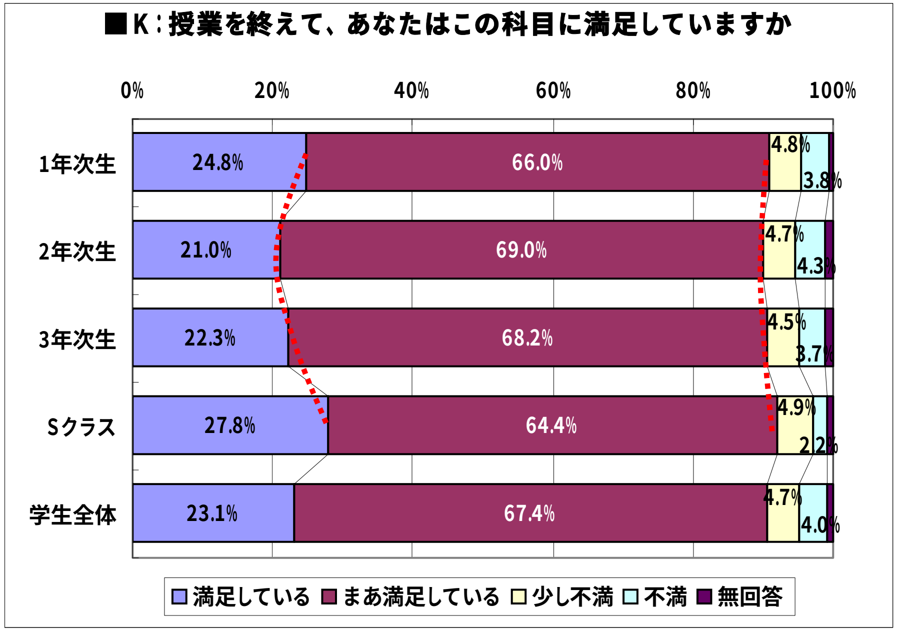
■G：授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか

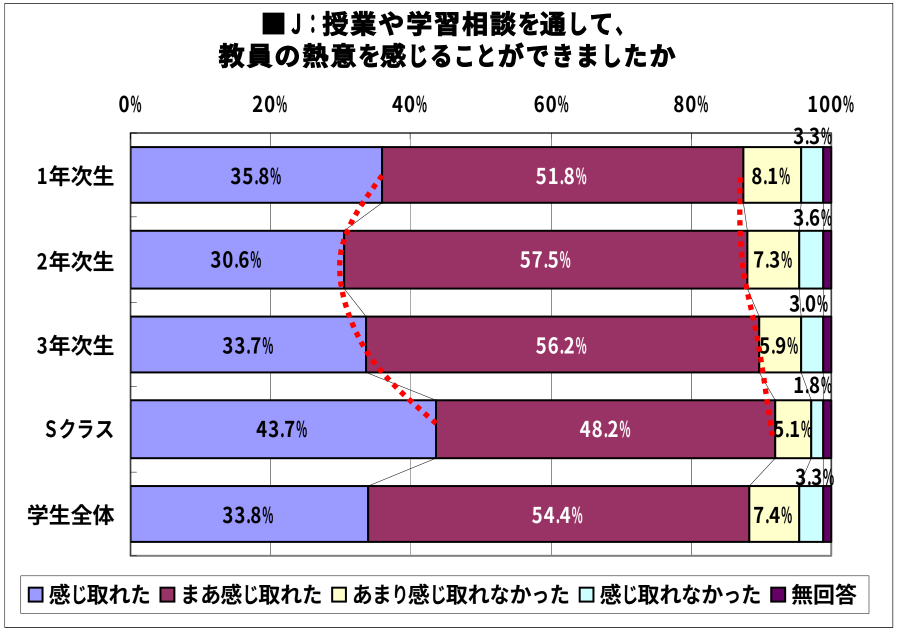


■I：授業内容をよく理解するための、学習相談（OH、チューターなど）は有効でしたか



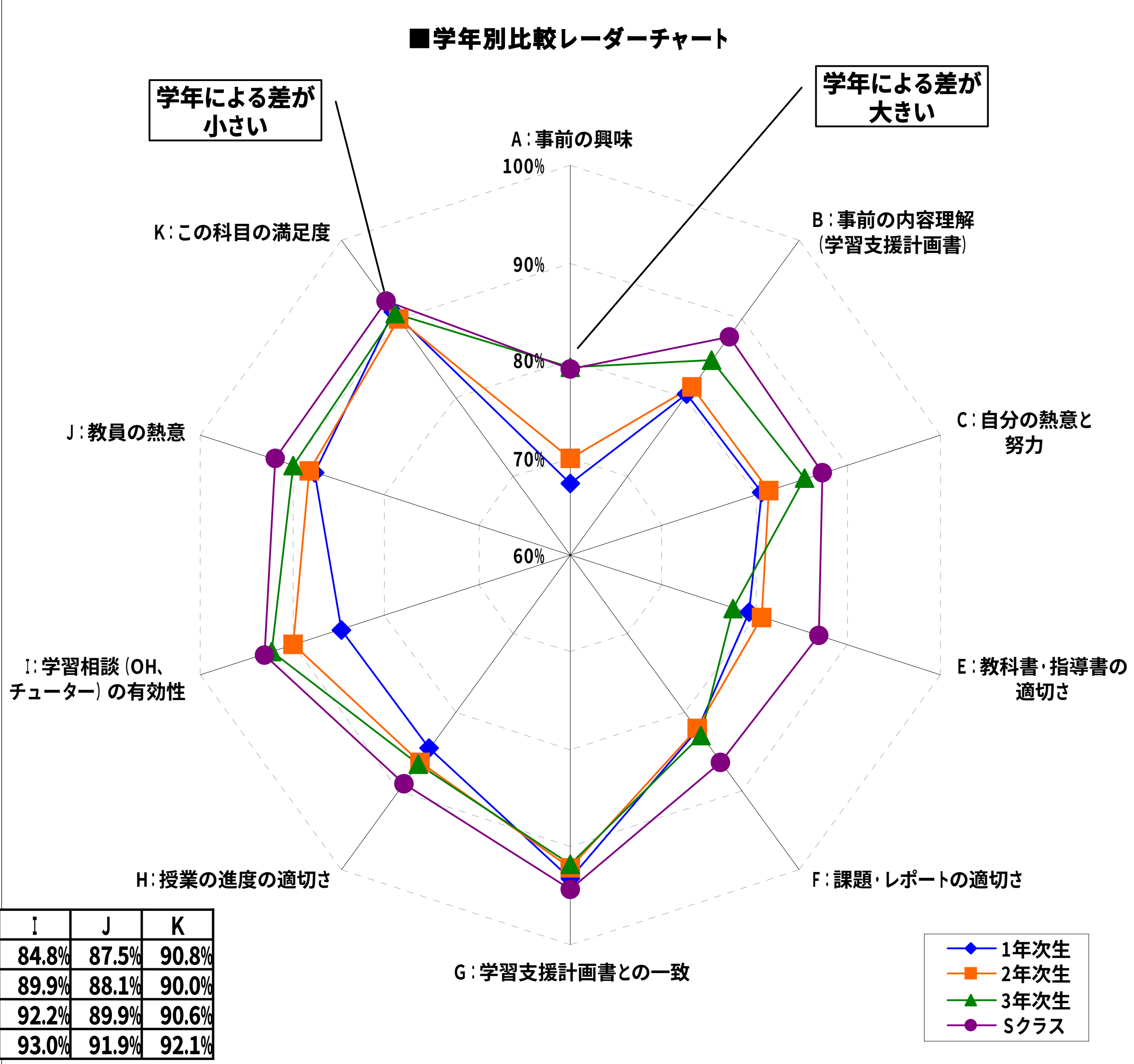
- 「J：教員の熱意」は「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせると差はあまりないものの「1年次生」がやや低く、高学年ほど教員の熱意を感じているようであった。
- しかし、「感じ取れた」だけを見ると差は大きく、「2年次生」が最も低く、「Sクラス」が最も高くなっており、「2年次生」が厳しい見方をしていることが分かった。
- 「K：この科目の満足度」は「満足している」と「まあ満足している」を合わせると学年による差はほとんどなく、どの学年でも9割以上が満足しており、評価は非常に高かった。
- 「満足している」だけを見ると「2年次生」「3年次生」がやや低めであり、少し厳しい見方をしているようであった。





＜3-2＞レーダーチャートによる学年別比較

- 13ページでの分析と同様にレーダーチャートで学年別の比較を行った。
- 全体の傾向を見ると「A：事前の興味」がやや低く、「G：学習支援計画書との一致」「I：学習相談の有効性」「K：満足度」が高くなっており、全体の平均から大きく外れたものはなかった。
- 学年別に比較すると「A：事前の興味」「H：授業の進度の適切さ」「I：学習相談の有効性」で「1年次生」の低さが目立っていた。これは評価が低いというよりも、大学の授業の進め方に慣れていないということからくるものではないかと思われる。
- その他の学年を見ると、ほとんどの項目で高学年ほど肯定的な評価をしていたが、「E：教科書・指導書の適切さ」では「3年次生」が最も厳しい評価をしていた。
- その他、「A：事前の興味」では学年による差が大きく、「1年次生」「2年次生」の興味の低さは今後の課題になると思われる。
- そして、「K：満足度」は学年による差が小さく、どの学年も満足度が高いことが分かった。



■学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	67.3%	80.4%	80.5%	79.2%	82.2%	93.2%	84.6%	84.8%	87.5%	90.8%
2年次生	69.8%	81.4%	81.4%	80.7%	82.0%	92.1%	86.2%	89.9%	88.1%	90.0%
3年次生	79.4%	84.7%	85.3%	77.7%	82.9%	91.8%	86.6%	92.2%	89.9%	90.6%
Sクラス	79.1%	87.8%	87.2%	86.9%	86.3%	94.3%	89.0%	93.0%	91.9%	92.1%

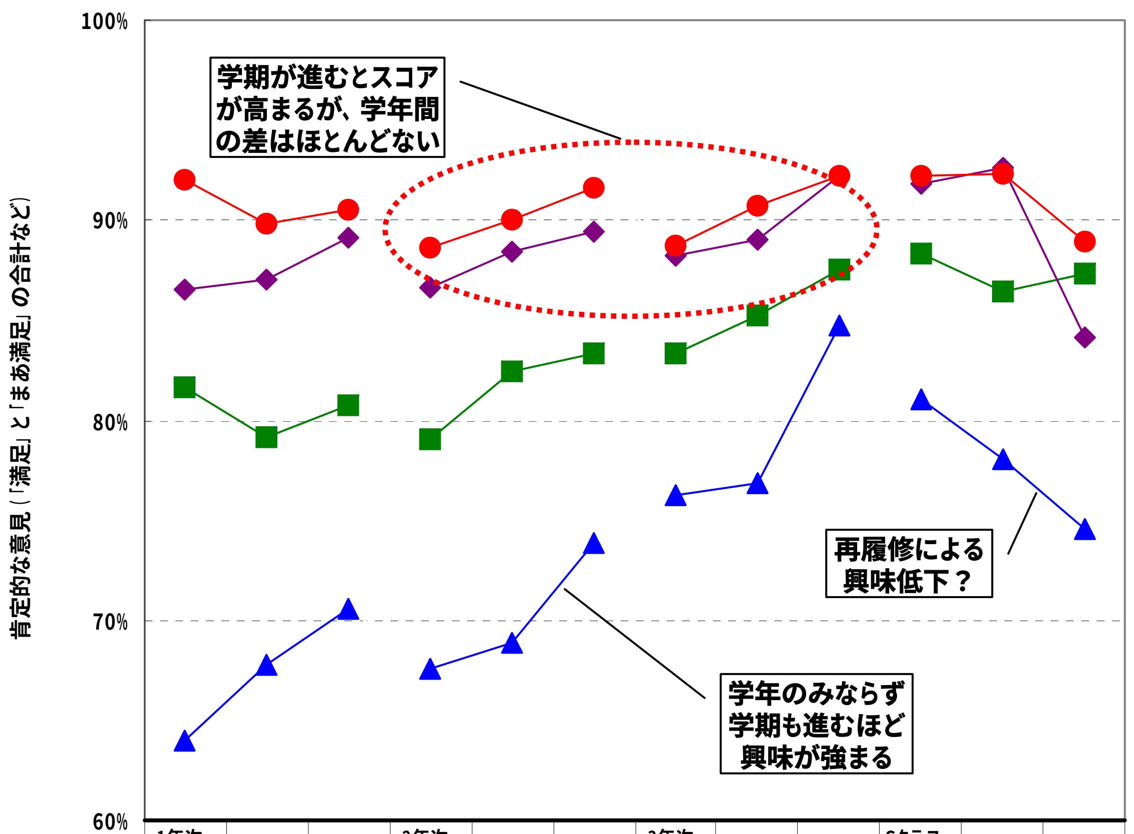
＜4＞学年毎･学期毎の分析

＜4-1＞学年毎・学期毎の学生の状態変化

- ここまでに学年毎の変化を見たが、更に春学期、秋学期、冬学期の3学期の間でどのように状態が変化しているかを確認した。前項のレーダーチャートと同様に肯定的な意見だけを抽出して変化を確認した。
- 3つの学期は同一学生の変化となるが、各学年の間は別学生群となるためグラフは接続していない。
- まず、「A：事前の興味」は前項のレーダーチャートでは学年が上がるほど強まる傾向が見られたが、ここでは更に学期が進むほど強まることが分かった。
- 「1年次生」～「3年次生」では全ての学年で、学期が進むほど興味が増していた。
- 同一学生の変化ではないので学年間の比較はできないが、「1年次生」の冬学期よりも「2年次生」の春学期の興味の方が低いものの、大きな流れとしてて高学年ほど興味が強くなる傾向があった。
- ただし、「Sクラス」は学期が進むと興味が低下しており、再履修なども含まれるため興味が薄まるのではないかと思われる。
- 「C：自分の熱意と努力」は「1年次生」では大きな変化はないが、「2年次生」「3年次生」では学期が進むほど強まる傾向が見られた。
- 「C：自分の熱意と努力」は「Sクラス」になって「興味」のように大きく低下することはなかった。
- 「J：教員の熱意」「K：満足度」は学期が進むほどスコアが上がっているケースが多いが、学年間の差はほとんどなかった。

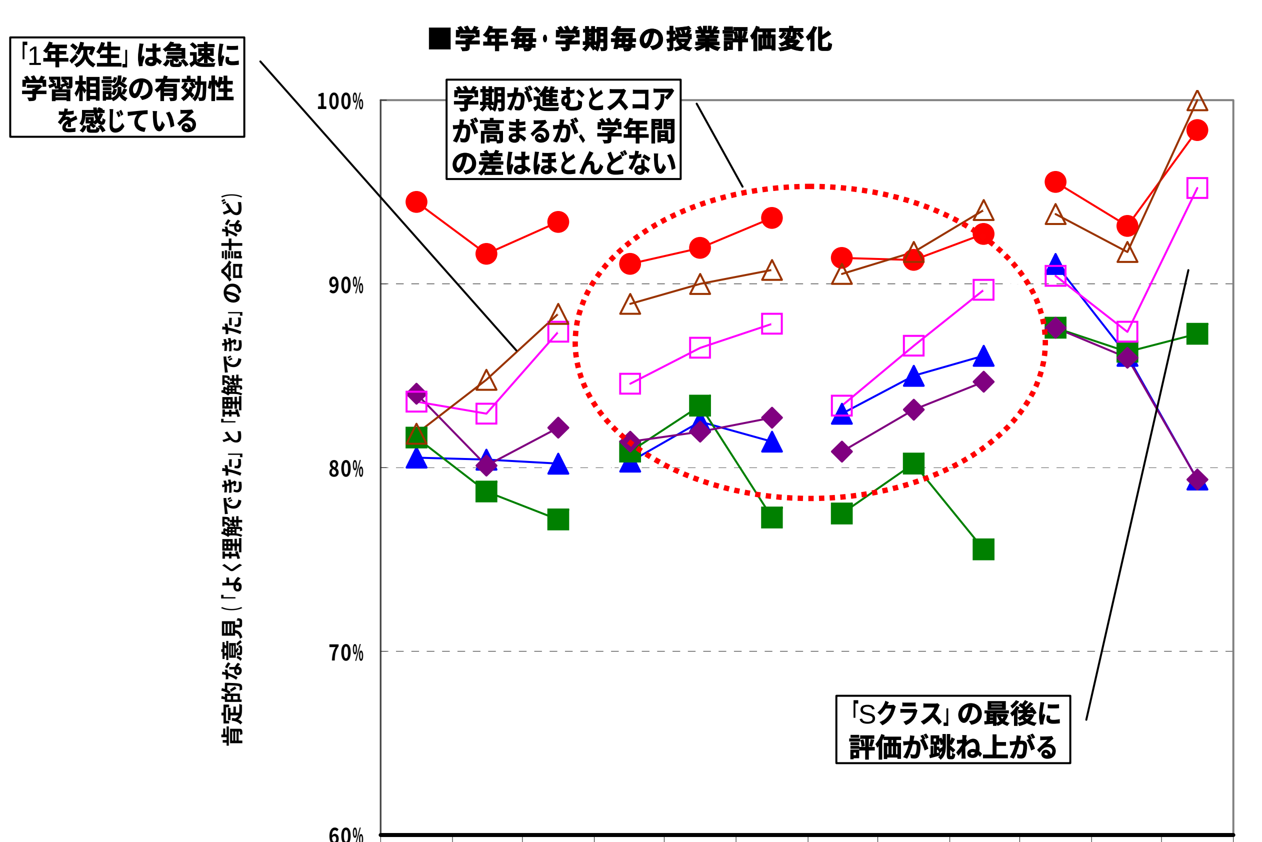
※同一学生の時系列変化を追ったものではないため、別学年の部分の折れ線は分割している。

■学年毎・学期毎の学生の状態変化



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬	Sクラス-春	秋	冬
A：事前の興味	64.0%	67.8%	70.5%	67.5%	68.9%	73.9%	76.3%	76.8%	84.7%	81.0%	78.1%	74.6%
C：自分の熱意と努力	81.6%	79.1%	80.7%	79.1%	82.4%	83.4%	83.3%	85.2%	87.5%	88.3%	86.5%	87.3%
J：教員の熱意	86.6%	87.0%	89.1%	86.7%	88.5%	89.5%	88.2%	89.0%	92.2%	91.8%	92.6%	84.1%
K：満足度	92.0%	89.8%	90.5%	88.6%	90.1%	91.7%	88.7%	90.7%	92.2%	92.2%	92.4%	88.9%

- 前項では学生自身の状態に関する項目の変化を見たが、ここでは授業の内容や支援など、授業に対する評価の変化を確認した。
- レーダーチャートなどで見たように、わずかずつではあるが高学年ほど肯定的な意見が増加している傾向が見られた。
- また、ほとんどの学年で学期が進むほど肯定的な意見が増加する傾向も見られた。
- 授業評価は学年毎に特徴が見られたが、「1年次生」では春学期に評価が高いものの、秋学期に低下し、冬学期に上がるというものが多かった。
- ただし、「1年次生」では「I:学習相談の有効性」の評価が一気に上がっており、学期が進むほどに利用が活発になっているものと思われる。
- 「2年次生」と「3年次生」は同じような変化であり、ほとんどの項目で学期が進むほど評価が上がっていた。しかし、「E:教科書・指導書」だけは冬学期に下がるという特徴が見られた。
- 「3年次生」も「1年次生」と同様に春学期から秋学期にかけて評価が下がり、冬学期にかけて上がるという傾向が見られた。
- しかし、「B:事前の内容理解」と「F:課題・レポートの適切さ」は学期が進むにつれて低下が続いていた。
- 全体的な流れを見ると、前項の「興味」のように大きな動きは見られず、基本的には学期が進むと授業の評価がわずかに上がるという傾向が見られた。

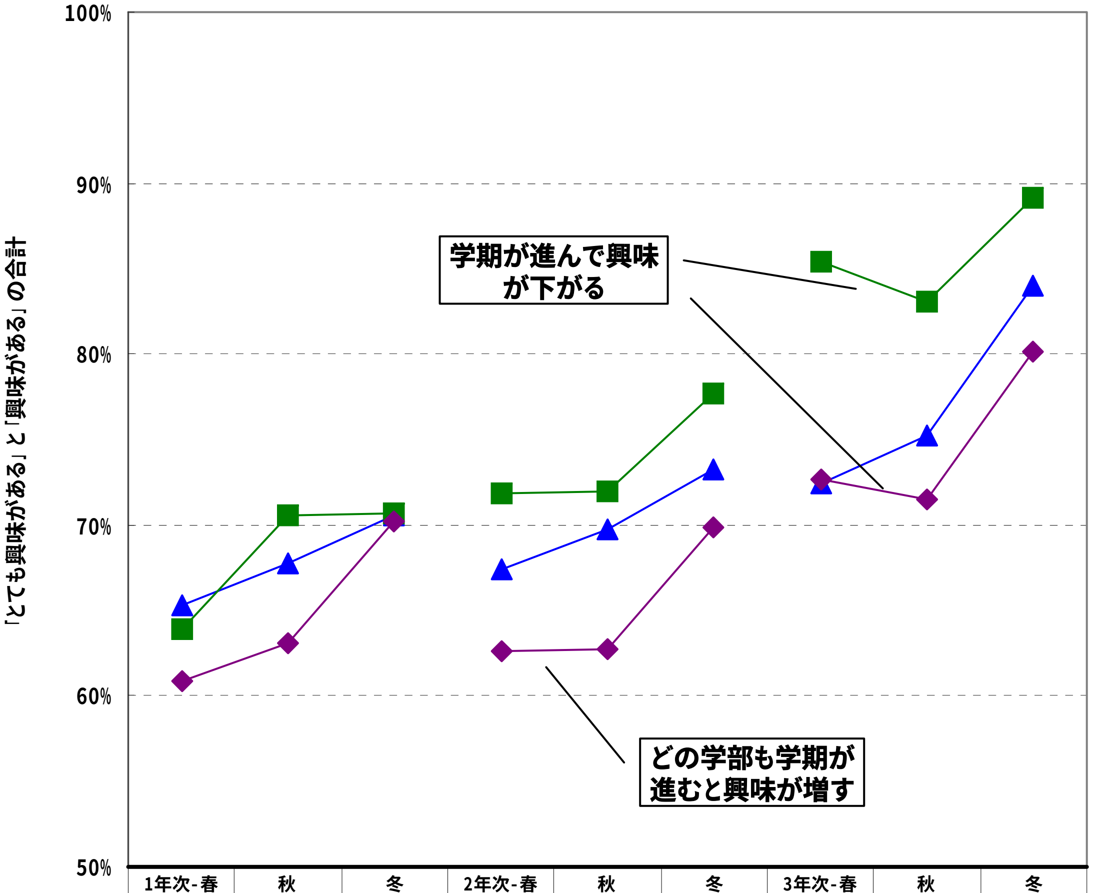


	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬	Sクラス-春	秋	冬
B：事前の内容理解	80.6%	80.4%	80.2%	80.3%	82.5%	81.4%	82.9%	85.1%	86.1%	91.1%	86.1%	79.4%
E：教科書・指導書の適切さ	81.6%	78.7%	77.2%	80.8%	83.4%	77.3%	77.5%	80.2%	75.5%	87.6%	86.3%	87.3%
F：課題・レポートの適切さ	84.0%	80.1%	82.2%	81.5%	82.0%	82.7%	80.8%	83.1%	84.6%	87.6%	86.0%	79.4%
G：学習支援計画書との一致	94.4%	91.6%	93.4%	91.1%	91.9%	93.6%	91.5%	91.3%	92.7%	95.6%	93.1%	98.4%
H：授業の進度の適切さ	83.6%	82.9%	87.4%	84.6%	86.5%	87.9%	83.4%	86.6%	89.7%	90.4%	87.4%	95.2%
I：学習相談（OH、チューター）の有効性	81.9%	84.8%	88.4%	89.0%	90.0%	90.7%	90.6%	91.7%	94.1%	93.8%	91.7%	100.0%

＜4-2＞学年毎・学期毎の「事前の興味」に関する分析

- 学年毎・学期毎の変化を見たところ、「A：事前の興味」の変化は非常に特徴的であった。「興味」がポイントと思われるため、学部毎、学科毎にどのように変化しているのかを確認した。
- なお、「S：クラス」は学科構成が異なるため、「1年次生」から「3年次生」までの変化を確認した。
- まず、学部毎の比較を見たところ、大きな流れとしてはどの学部でも高学年ほど興味が増しており、「1年次生」の春学期が最も低く、「3年次生」の冬学期が最も高かった。
- 学期毎の変化を見ても、基本的にはどの学部も学期が進むほど興味が増していた。
- ただし、「3年次生」の「V：環境・建築学部」と「H：情報フロンティア学部」だけは、春学期から秋学期にかけて興味が低下していた。

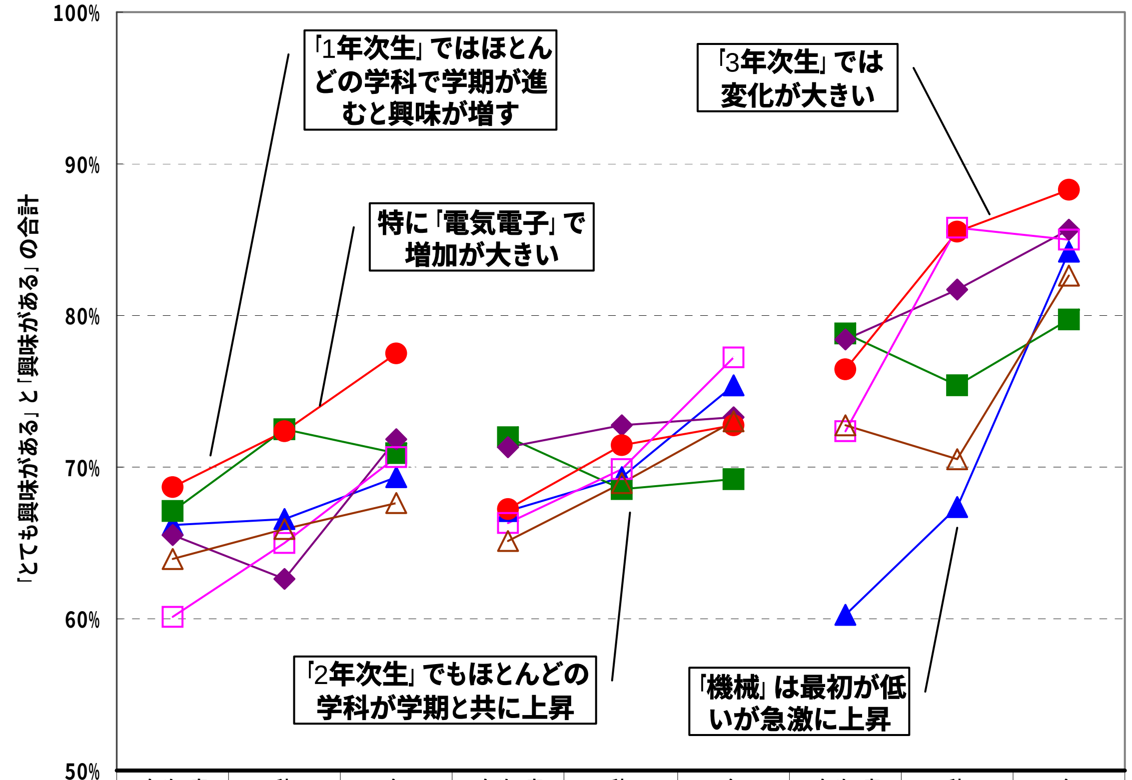
■学年毎・学期毎の「興味」の変化　学部別比較



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
E：工学部	65.3%	67.8%	70.6%	67.4%	69.7%	73.3%	72.4%	75.3%	84.0%
V：環境・建築学部	63.9%	70.5%	70.7%	71.8%	71.9%	77.6%	85.4%	83.0%	89.1%
H：情報フロンティア学部	60.8%	63.1%	70.2%	62.6%	62.8%	69.9%	72.7%	71.4%	80.1%

- 前項の学部毎の分析に続いて学科毎の変化を比較した。
- 「E：工学部」では、少し例外はあるものの、基本的にはどの学年でも学期が進むほど授業に対する興味は増しており、前にも確認しているように高学年ほど興味が強まっていた。
- 「1年次生」では「ER：ロボティクス」が冬学期で低下、「EA：航空システム」が秋学期で低下という例外が見られたが、その他は学期が進むほど興味が増していた。
- 「2年次生」でも「ER：ロボティクス」が秋学期に興味が下がっていたが、その他の学科ではわずかずつではあるが、学期が進むほど興味が強まっていた。
- 「3年次生」は「ER：ロボティクス」「EC：情報」が秋学期で低下、「EI：情報通信」が冬学期で低下という例外が見られた。
- また、「3年次生」の「EM：機械」は春学期での興味は非常に低かったが、急速に興味が強まるという特徴が見られた。
- これらを見ると「ER：ロボティクス」ではどの学年でも途中で興味が低下する傾向が見られ、何らかの課題があるのではないかと思われた。
- また、「3年次生」の「EM：機械」の変化も特徴的であり、追跡調査が必要と言える。

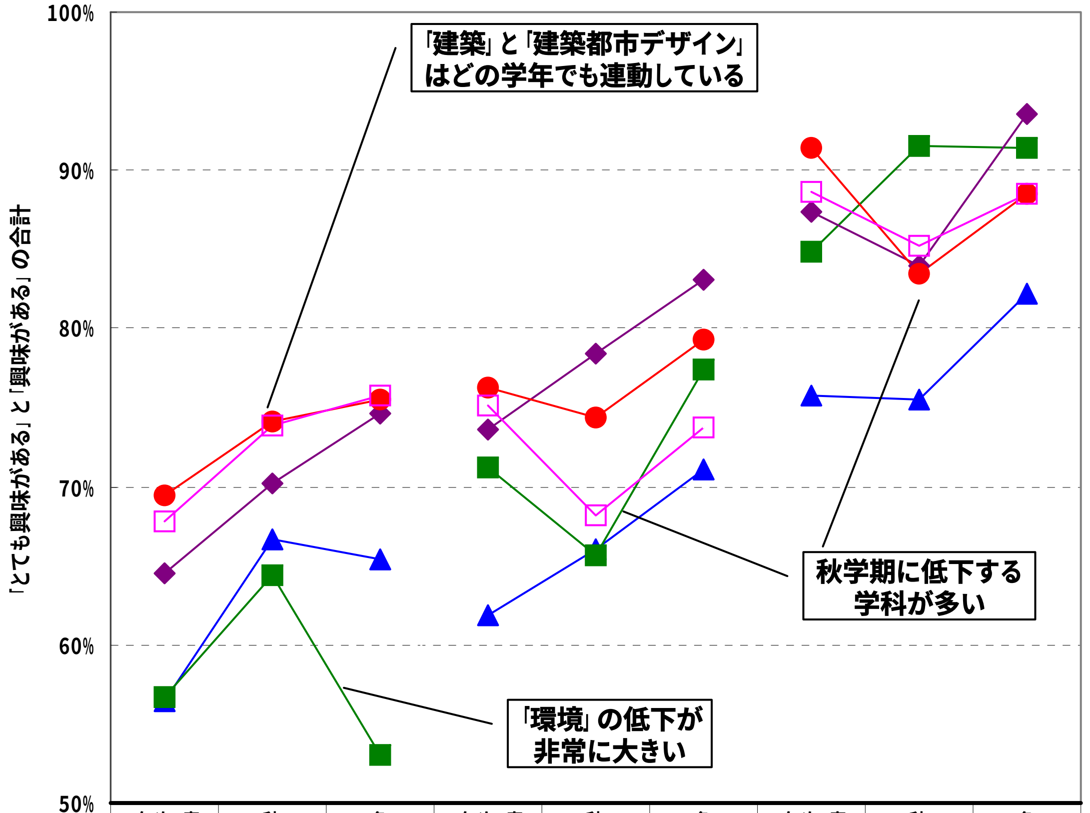
■学年毎・学期毎の「興味」の変化　学科別比較（E：工学部）



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
EM：機械	66.1%	66.6%	69.3%	67.1%	69.3%	75.4%	60.3%	67.4%	84.3%
ER：ロボティクス	67.1%	72.5%	70.9%	72.0%	68.6%	69.2%	78.8%	75.4%	79.7%
EA：航空システム	65.5%	62.6%	71.9%	71.3%	72.8%	73.3%	78.5%	81.7%	85.7%
EE：電気電子	68.8%	72.3%	77.6%	67.3%	71.4%	72.8%	76.5%	85.6%	88.3%
EI：情報通信	60.2%	65.0%	70.6%	66.3%	69.9%	77.2%	72.3%	85.8%	85.1%
EC：情報	63.9%	65.9%	67.6%	65.1%	68.9%	73.1%	72.8%	70.6%	82.6%

- 「V：環境･建築学部」も基本的には高学年ほど興味は強かったが、学科同士の差が大きく、ばらつきがやや大きかった。
- 「1年次生」は「VB：バイオ」「VC：環境」が冬学期に低下していたが、それ以外の学科では学期が進むほど興味が増していた。
- 「VC：環境」の冬学期の興味の低下は非常に大きかった。
- 「2年次生」では「VA：建築」「VD：建築都市デザイン」「VC：環境」の3学科で秋学期に興味が低下する傾向が見られた。
- 「3年次生」ではほとんどが秋学期に低下しており、「VC：環境」以外は全て同じ傾向であった。また、「VC：環境」も冬学期に低下していた。
- 「V：環境･建築学部」も大きな流れとしては学期が進むと興味が増していたが、例外も多く見られた。特に「3年次生」では秋学期に興味が低下するものが多く、気になる結果となっていた。

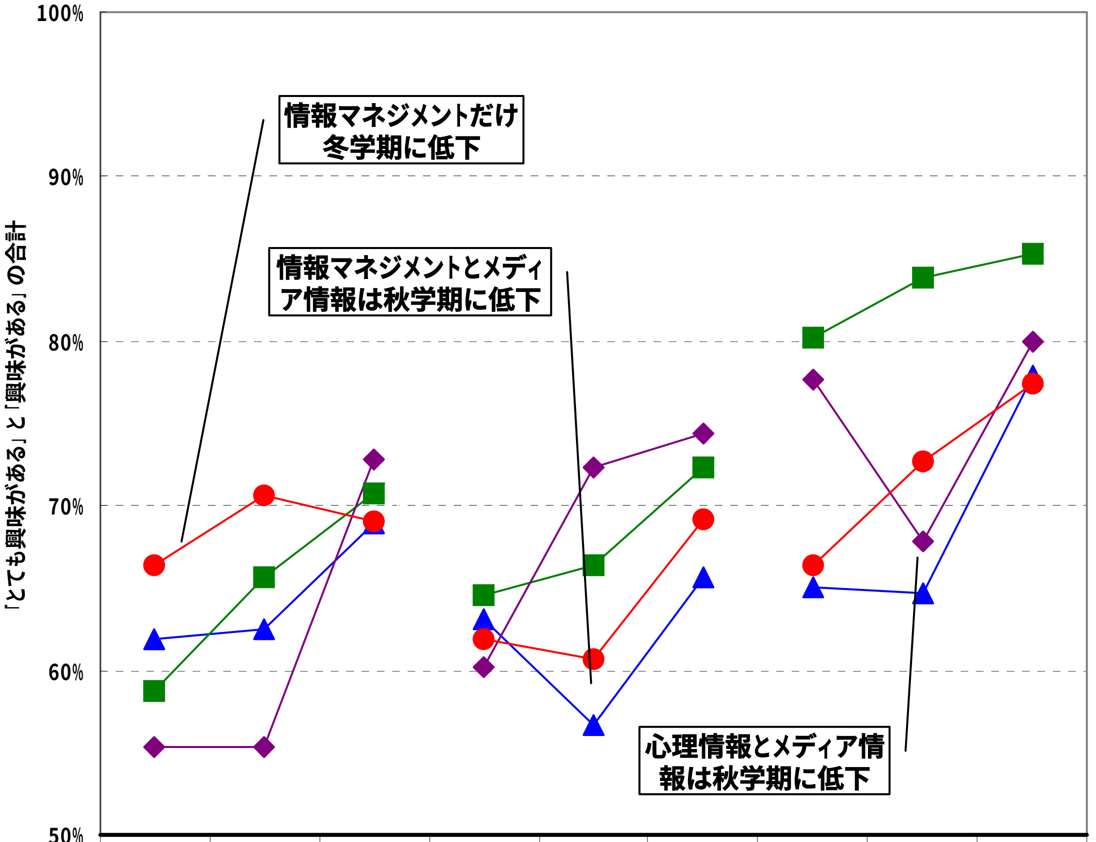
■学年毎･学期毎の「興味」の変化　学科別比較（V：環境･建築学部）



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
VB：バイオ	56.5%	66.6%	65.4%	61.9%	66.0%	71.1%	75.7%	75.5%	82.2%
VC：環境	56.7%	64.4%	53.0%	71.2%	65.7%	77.4%	84.8%	91.6%	91.4%
VE：環境土木	64.6%	70.2%	74.7%	73.6%	78.4%	83.1%	87.3%	84.0%	93.6%
VA：建築	69.5%	74.2%	75.5%	76.2%	74.4%	79.3%	91.5%	83.5%	88.5%
VD：建築都市デザイン	67.8%	73.8%	75.7%	75.1%	68.2%	73.8%	88.7%	85.2%	88.5%

- 「H：情報フロンティア学部」は他の学部と比べると変動の幅が大きく、学科による差が大きいようであった。
- 「1年次生」と「2年次生」の興味の強さはあまり変わらなかったが、基本的には学年が進むと興味が増す傾向が見られた。
- 「1年次生」では「HS：情報マネジメント」が冬学期で興味が下がっていた。そして、「HP：心理情報」の冬学期にかけての興味の強まりが大きかった。
- 「2年次生」では「HS：情報マネジメント」と「HM：メディア情報」が秋学期に低下していたが、それ以外は学期が進むほど興味が増していた。
- 「3年次生」では「HP：心理情報」と「HM：メディア情報」が秋学期で低下していた。特に「HP：心理情報」の低下は大きかった。
- 全体を見ると、「HP：心理情報」の変動が大きく、何らかの要因があるものと思われる。
- また、「HM：メディア情報」は秋学期に低下する傾向が見られ、これにも何らかの要因があると思われる。

■学年毎・学期毎の「興味」の変化　学科別比較（H：情報フロンティア学部）



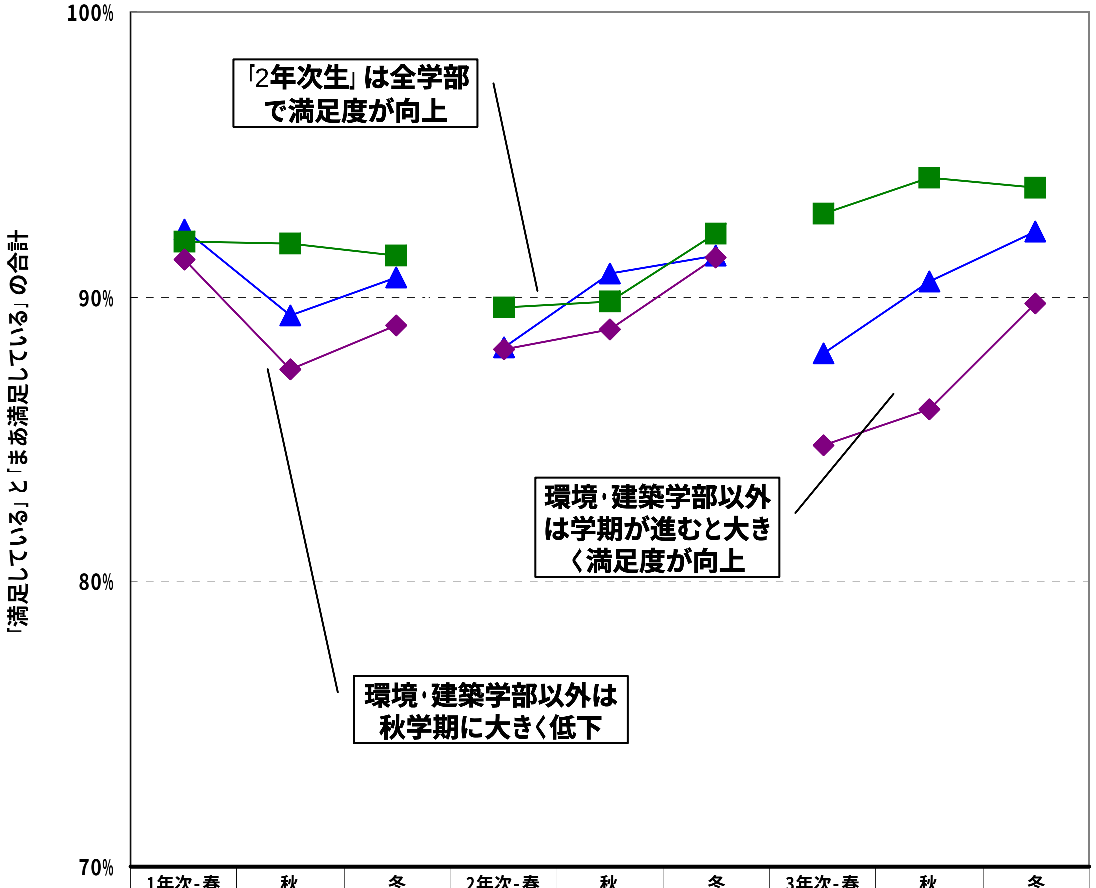
	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
HM：メディア情報	61.9%	62.5%	69.0%	63.0%	56.6%	65.7%	65.1%	64.6%	77.9%
HB：生命情報	58.7%	65.6%	70.7%	64.6%	66.4%	72.3%	80.2%	83.9%	85.3%
HP：心理情報	55.3%	55.3%	72.8%	60.3%	72.4%	74.4%	77.7%	67.8%	79.9%
HS：情報マネジメント	66.4%	70.6%	69.1%	61.9%	60.7%	69.2%	66.3%	72.7%	77.4%

＜4-3＞学年毎･学期毎の「満足度」に関する分析

- 変化は少なかったが「満足度」に関しても学年毎、学期毎にどのように変化をするかを確認した。興味とは異なり、縦の数値軸を70%～100%としている。
- 全体を見ると「1年次生」は秋学期に落ち込んで、冬学期に戻っているものもあるが、春と冬を比較すると1年間で満足度は低下していることが分かった。
- そして、その他の学年ではほとんどの学部で学期が進むと満足度が増すことが確認できた。
- 「1年次生」では「V：環境･建築学部」は徐々にではあるが学期が進むほど満足度が低下しており、その他の2学部は秋学期に満足度が低下し、冬学期に向上することが分かった。
- 「2年次生」は学部による差が少なく、どの学部もわずかずつではあるが学期が進むほど満足度が向上していた。
- 「3年次生」では「V：環境･建築学部」で冬学期に満足度がわずかに低下していたが、他の2つの学部では春学期から冬学期に向けて急速に満足度が向上していた。

※変化が少ないため、縦の数値軸の幅を「興味」よりも広くしている。

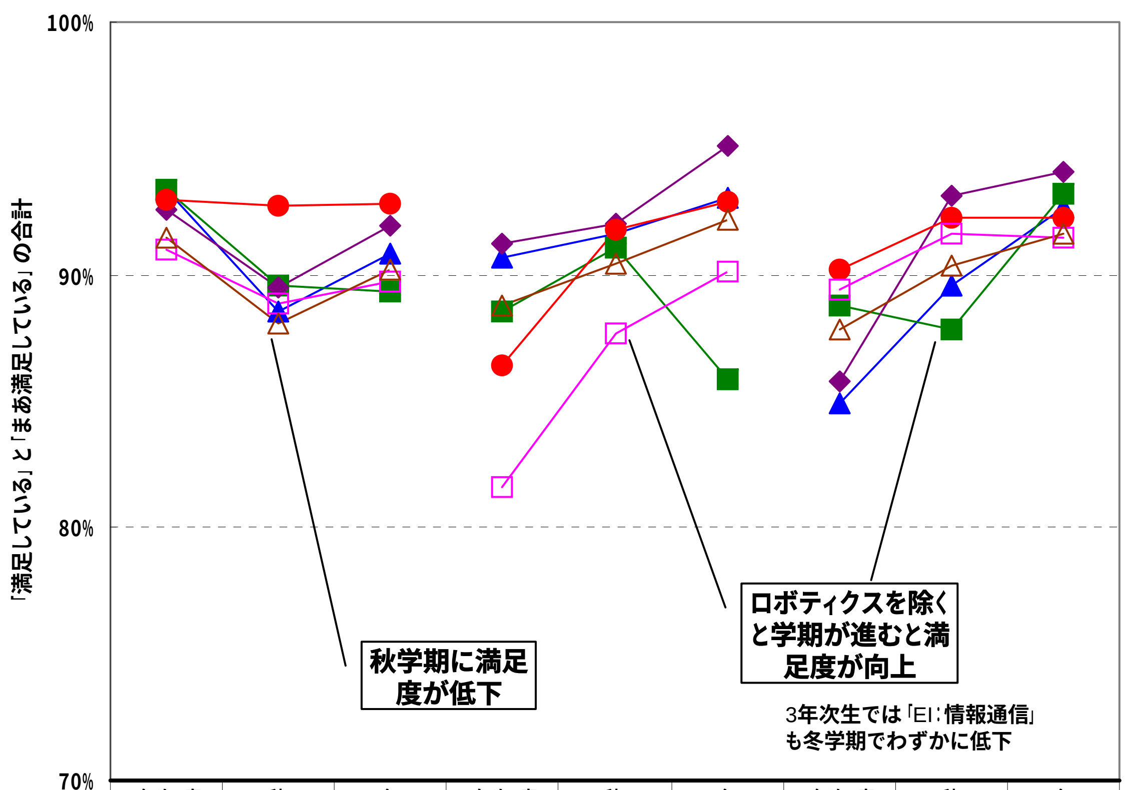
■学年毎･学期毎の「満足度」の変化　学部別比較



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
E：工学部	92.4%	89.3%	90.7%	88.3%	90.8%	91.4%	88.0%	90.5%	92.3%
V：環境･建築学部	91.9%	91.8%	91.4%	89.6%	89.9%	92.2%	92.9%	94.2%	93.8%
H：情報フロンティア学部	91.3%	87.5%	89.0%	88.2%	88.9%	91.4%	84.8%	86.1%	89.8%

- 「E：工学部」の各学科の満足度に関して、全体としては学科による差はそれほど大きくなかった。
- 「1年次生」はすべての学科で秋学期に満足度が低下して、冬学期に戻るという傾向が見られた。「1年次生」の段階ではそれほどカリキュラムに差がないため、これだけ一致するものと思われる。
- 「1年次生」の段階で授業の面白さに気づかせることが非常に重要であるため、この満足度の変化が何によって起こるのかをしっかりと把握しておく必要があると言える。
- 「2年次生」では「ER：ロボティクス」が冬学期に満足度を大きく下げていたが、その他の学科は学期が進むほど満足度が向上していた。
- 「3年次生」でも「ER：ロボティクス」が秋学期に満足度を下げていたが、その他の学科は学期が進むほど満足度が向上していた。
- 「ER：ロボティクス」は「興味」も学年の途中で低下する傾向が見られたが、この満足度の変化も同じ要因によるものと思われ、しっかりとした状況把握が必要と言える。

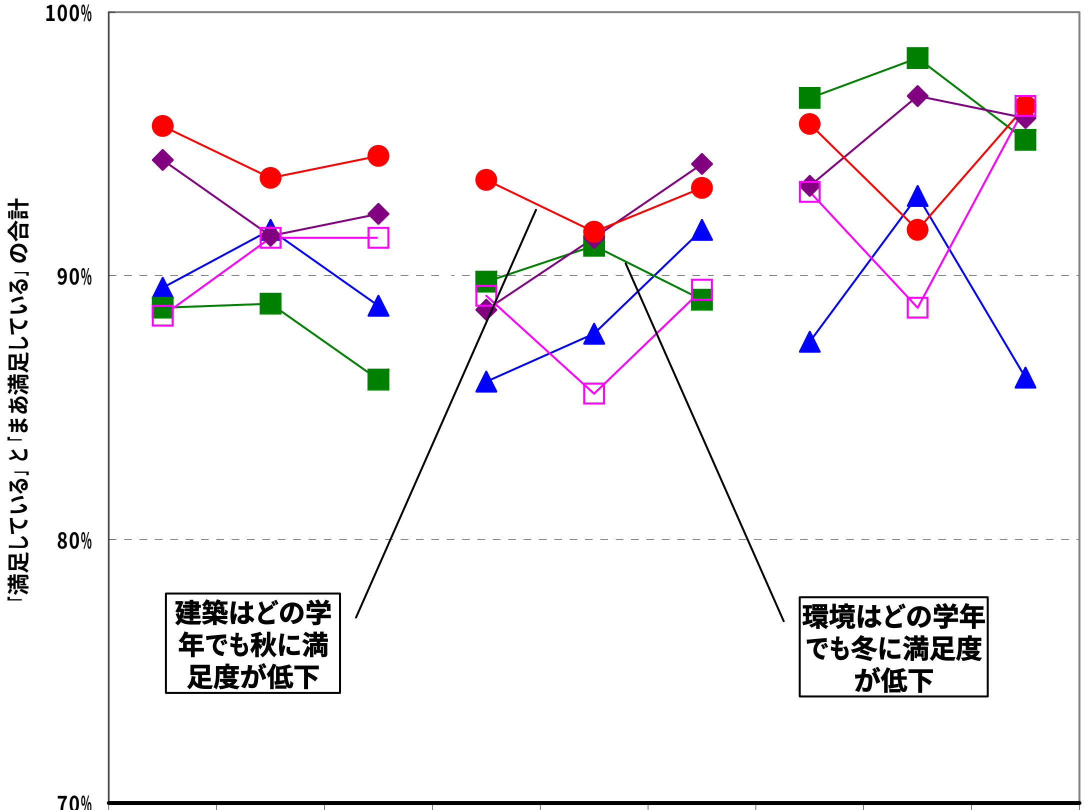
■学年毎・学期毎の「満足度」の変化　学科別比較（E：工学部）



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
EM：機械	93.4%	88.6%	90.8%	90.7%	91.7%	93.0%	85.0%	89.6%	92.7%
ER：ロボティクス	93.3%	89.6%	89.4%	88.5%	91.1%	85.9%	88.8%	87.8%	93.2%
EA：航空システム	92.6%	89.5%	91.9%	91.3%	92.0%	95.1%	85.8%	93.1%	94.0%
EE：電気電子	93.0%	92.7%	92.8%	86.4%	91.8%	92.9%	90.2%	92.3%	92.3%
EI：情報通信	91.0%	88.9%	89.7%	81.6%	87.7%	90.1%	89.4%	91.6%	91.5%
EC：情報	91.4%	88.1%	90.2%	88.8%	90.4%	92.2%	87.8%	90.4%	91.6%

- 「V：環境・建築学部」は学科による差が比較的大きく、「1年次生」よりも「2年次生」の方が満足度がやや低く、学期による変化も小さかった。
- 「1年次生」では「VA：建築」「VE：環境土木」は秋学期に満足度が低下していたが、その他は秋学期に満足度が高く、冬学期に低下するという傾向であった。
- 「2年次生」では「VE：環境土木」「VB：バイオ」は学期が進むほど満足度が向上していたが、「VA：建築」「VD：建築都市デザイン」は秋学期に満足度が低下、「VC：環境」は冬学期に低下という状況であった。
- 「3年次生」では「VA：建築」「VD：建築都市デザイン」は秋学期に満足度が低下し、その他は冬学期に低下するという状況であった。
- 全体を見ると「VA：建築」と「VD：建築都市デザイン」が似たような傾向であり、カリキュラム的に似ているのではないかと思われた。
- また、「VA：建築」はどの学年でも秋学期に満足度が低下し、「VC：環境」はどの学年でも秋学期には向上して冬学期に低下するという傾向が見られた。

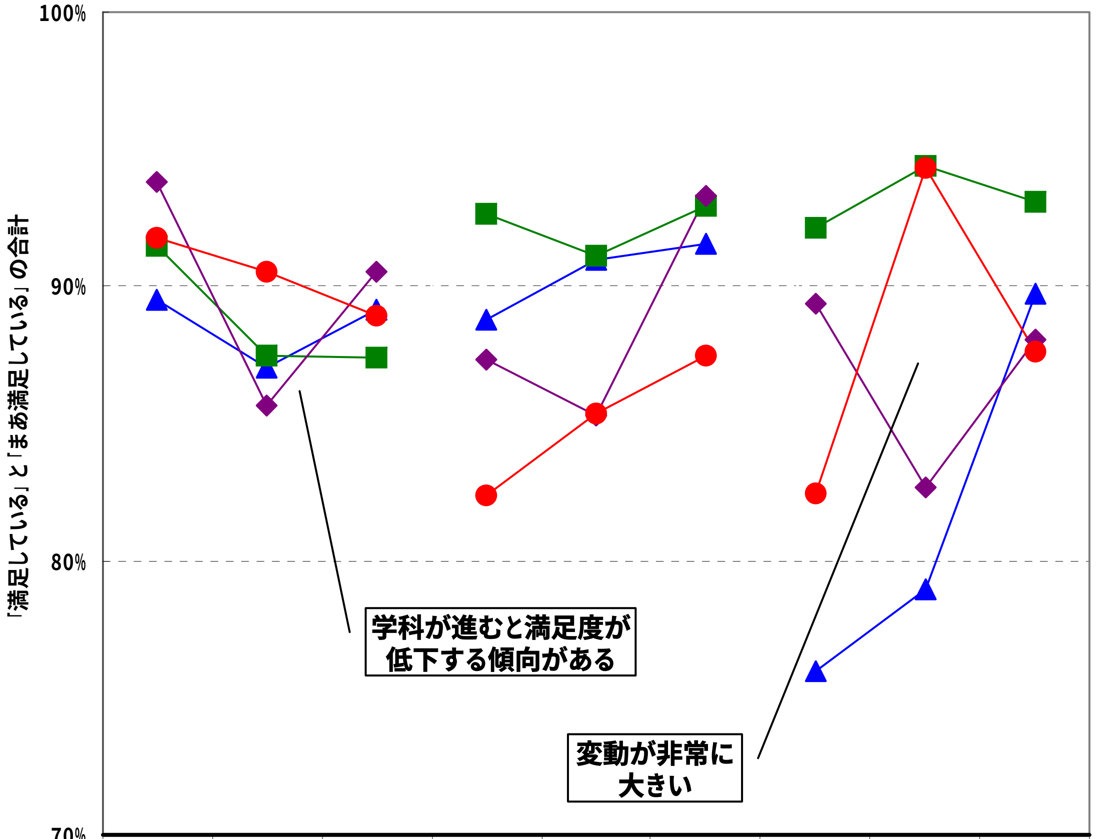
■学年毎・学期毎の「満足度」の変化　学科別比較（V：環境・建築学部）



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
VB：バイオ	89.5%	91.7%	88.9%	86.0%	87.8%	91.7%	87.5%	93.0%	86.1%
VC：環境	88.8%	89.0%	86.1%	89.7%	91.1%	89.1%	96.8%	98.2%	95.2%
VE：環境土木	94.4%	91.5%	92.4%	88.7%	91.4%	94.2%	93.4%	96.8%	96.0%
VA：建築	95.7%	93.7%	94.6%	93.6%	91.7%	93.4%	95.7%	91.7%	96.4%
VD：建築都市デザイン	88.5%	91.4%	91.4%	89.3%	85.5%	89.5%	93.2%	88.8%	96.4%

- 「H：情報フロンティア学部」では「1年次生」はそれほどでもないが、「2年次生」「3年次生」では学科による差が非常に大きかった。
- 「1年次生」では「HS：情報マネジメント」と「HB：生命情報」で学期が進むほど満足度が下がっていた。その他は秋学期で大きく低下して、冬学期に少し回復したが、大きな流れとしては学期が進むにつれて満足度が低下する傾向がうかがえた。
- 「2年次生」では「HB：生命情報」「HP：心理情報」で秋学期に満足度低下が見られたが、全体としては学期が進むにつれて満足度が向上していた。
- 「3年次生」は非常に変動が大きく、「HM：メディア情報」は学期が進むと急速に満足度が向上しており、「HS：情報マネジメント」は秋学期に急速に満足度が上がり、冬学期に急速に下がるといった大きな動きが見られた。
- 全体としてパターン化できる特徴は見られず、「H：情報フロンティア学部」は学科によって状況が異なるものと思われる。

■学年毎・学期毎の「満足度」の変化　学科別比較（H：情報フロンティア学部）

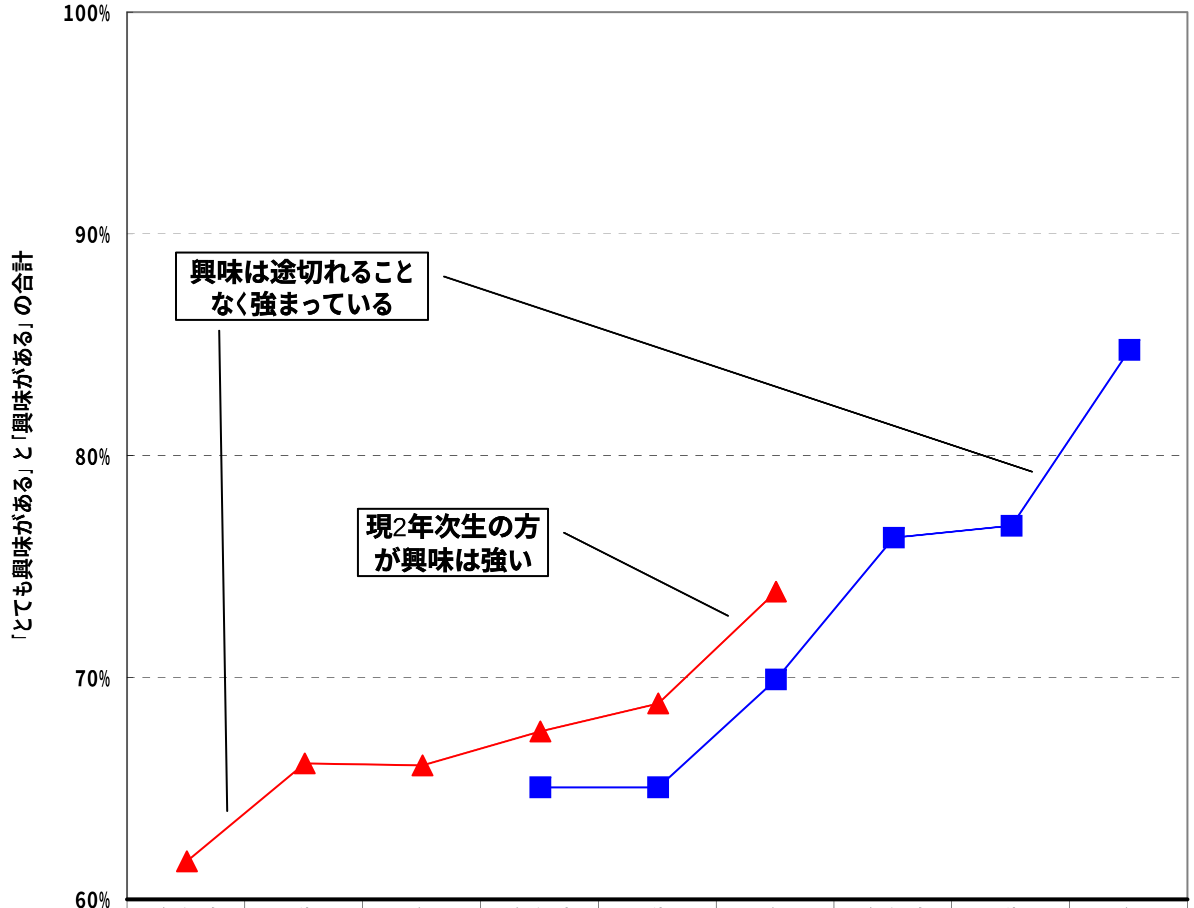


	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
HM：メディア情報	89.5%	87.1%	89.1%	88.8%	91.0%	91.5%	76.0%	78.9%	89.7%
HB：生命情報	91.5%	87.5%	87.4%	92.7%	91.1%	93.0%	92.2%	94.4%	93.1%
HP：心理情報	93.8%	85.6%	90.6%	87.3%	85.3%	93.3%	89.3%	82.6%	88.1%
HS：情報マネジメント	91.8%	90.5%	88.9%	82.4%	85.4%	87.5%	82.4%	94.3%	87.6%

＜4-4＞同一学生群の変化に関する分析

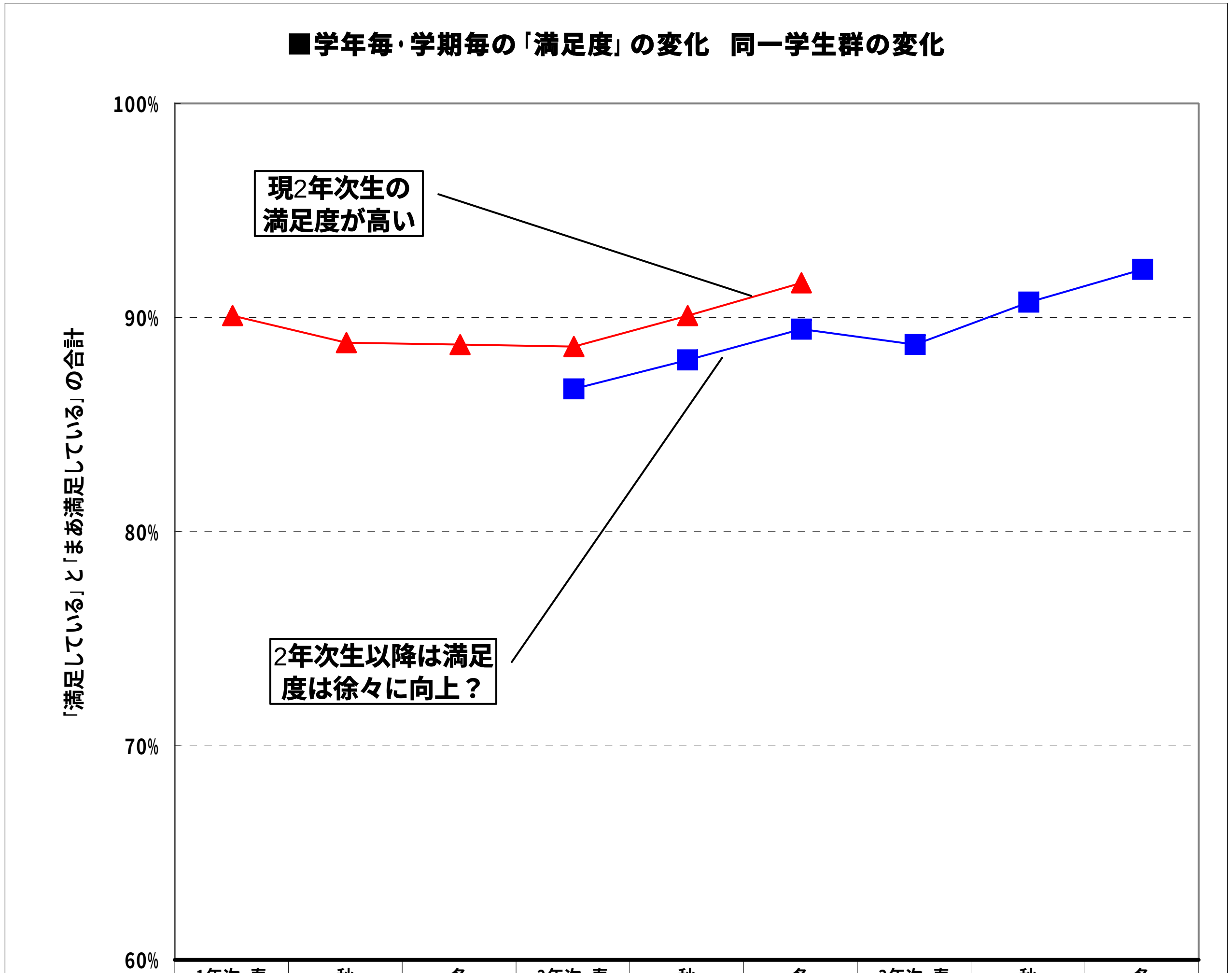
- 学年毎･学期毎の変化を確認したところ、学年間で「興味」「満足度」が大きく変化する傾向が見られたので、その変化を確認するため、同一学生群で学年が変わる際にどのような変化をするのかを確認した。
- 「Sクラス」は回答者数が少ないため集計から外し、2年間の調査で分析できる「現2年次生」「現3年次生」で2年間の学期毎の変化をプロットした。
- 全体を見ると、両学生群共に学年が変わる際に興味が低下するような傾向は見られず、学年が増すにつれて授業への興味は向上していることが確認でき、興味はほぼ途切れることなく強まっていると言える。
- また、「現2年次生」と「現3年次生」で同じ「2年次生」の春学期から冬学期を比べると、「現2年次生」の方が興味が強いことが確認できた。

■学年毎･学期毎の「興味」の変化　同一学生群の変化



	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
現2年次生	61.7%	66.1%	66.0%	67.5%	68.9%	73.9%			
現3年次生				65.1%	65.0%	69.9%	76.3%	76.8%	84.7%

- 前項と同様、同一学生群による「満足度」の変化も確認した。前項と同じ条件で比較できるように縦の数値軸は共通としている。
- 全体を見ると、「2年次生」以降はゆるやかにではあるが満足度が向上していることが分かる。この結果は、より長期的に追っていく必要があるが、「1年次生で期待はずれがあり、2年次生から徐々に満足度が向上している」といった学生の状況も考えられる。
- 2つの学生群を比較すると、前項と同様に「現2年次生」の満足度が高いことが確認でき、「現3年次生」よりも授業への興味が強く、満足度も高いことが分かった。

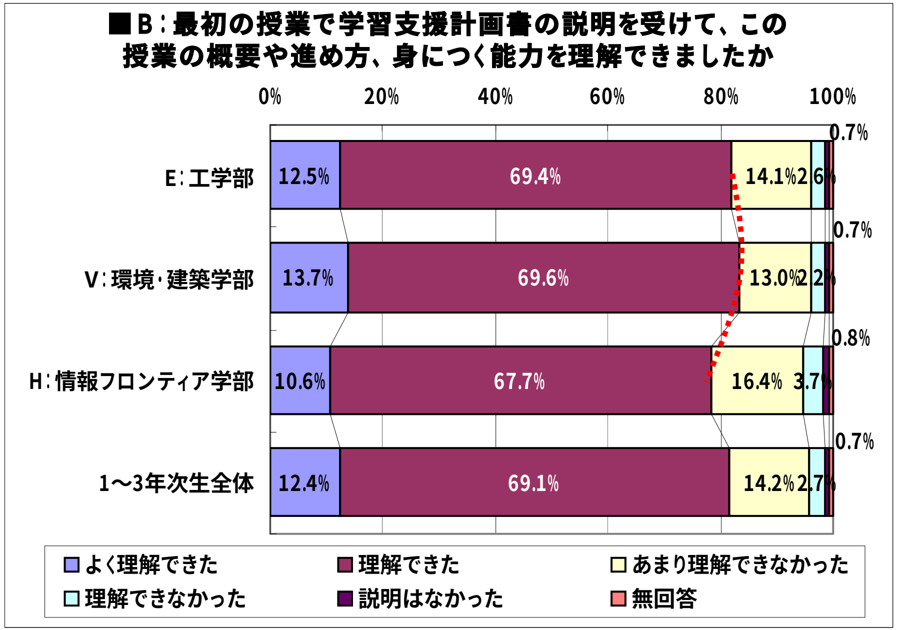


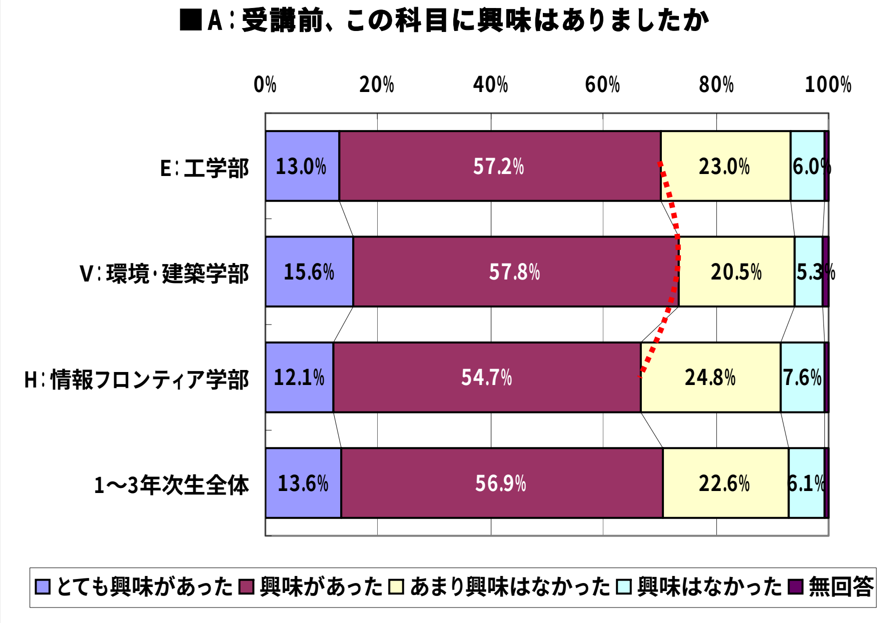
	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬
現2年次生	90.1%	88.9%	88.7%	88.6%	90.1%	91.7%			
現3年次生				86.6%	88.0%	89.4%	88.7%	90.7%	92.2%

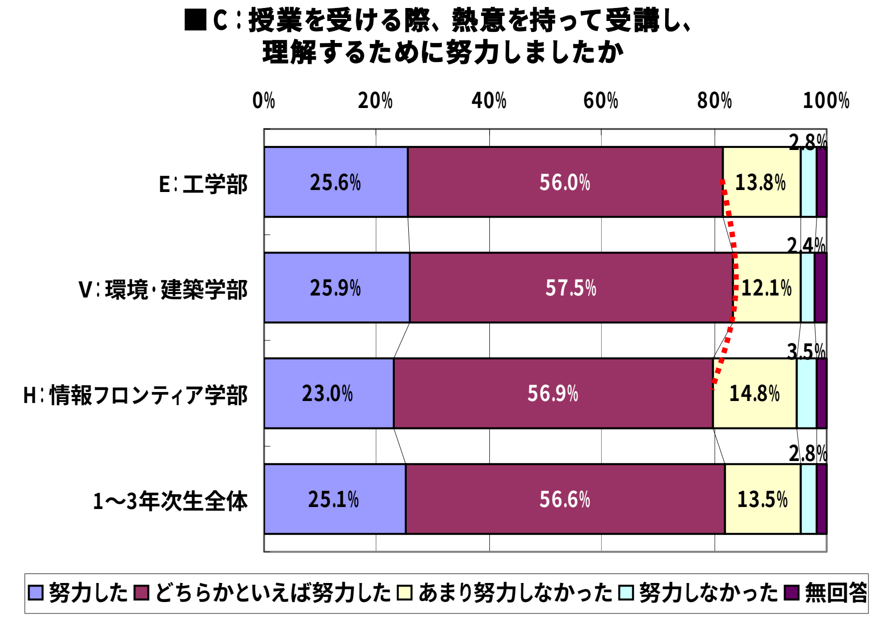
＜5＞学部･学科別の分析

＜5-1＞1～3年次生　学部別の比較

- 学部別の比較に関しては「Sクラス」だけ古い学系構成となるため、1～3年次生だけを対象として集計した。
- 学部別に「A：事前の興味」を比較したところ、「とても興味があった」と「興味があった」を合わせると「V：環境・建築学部」が73.4%と、最も興味を持っており、次いで「E：工学部（70.2%）」「H：情報フロンティア学部（66.8%）」という順であった。
- 「B：事前の内容理解」に関しても「V：環境・建築学部」が最も高く、83.3%は事前に理解できたと答えており、次いで「E：工学部（81.9%）」「H：情報フロンティア学部（78.3%）」という順であった。
- 「C：自分の熱意と努力」も「V：環境・建築学部」が最も高く、83.4%の学生は熱意を持って受講し、理解するために努力したと自己分析していた。
- 次いで「E：工学部（81.6%）」「H：情報フロンティア学部（79.9%）」という順であり、どの学部も約8割の学生は熱意を持って受講していたということになる。

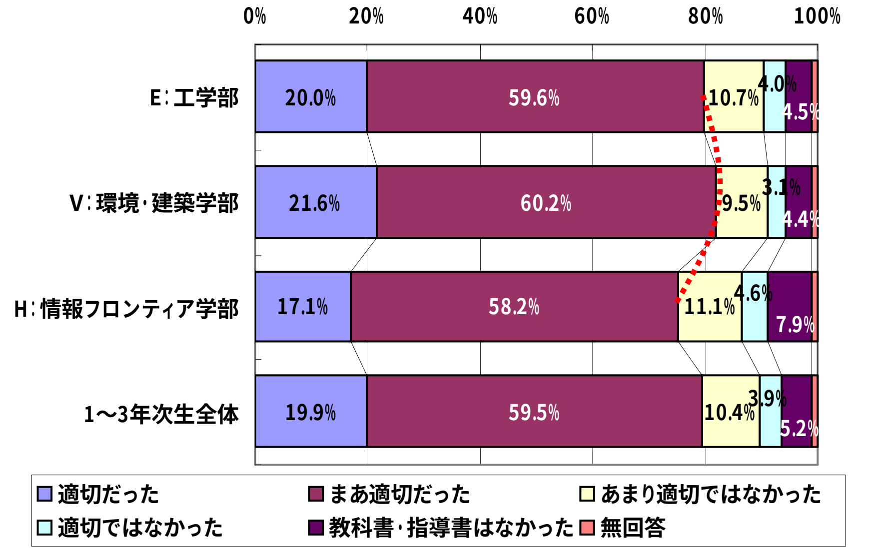




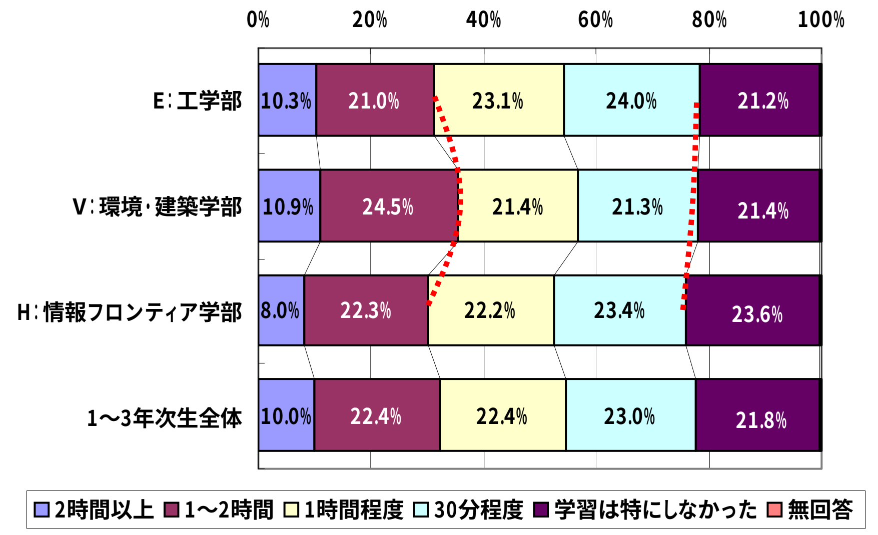


- 「D：予習・復習、課外学習活動」でも「2時間以上」「1～2時間」の合計を見ると「V：環境・建築学部」が最も時間を割いており、次いで「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」という順であった。
- ただし、「学習は特にしなかった」だけを見ると「V：環境・建築学部」と「E：工学部」でほぼ変わらず、「E：工学部」では短い時間ではあるが予習・復習などをしている学生も多いようであった。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」も「V：環境・建築学部」の評価が最も高く、次いで「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」の順で下がってきていた。
- 「F：課題・レポート等の評価」も上記と同様で「V：環境・建築学部」が最も高く、「H：情報フロンティア学部」が最も厳しい評価となっていた。

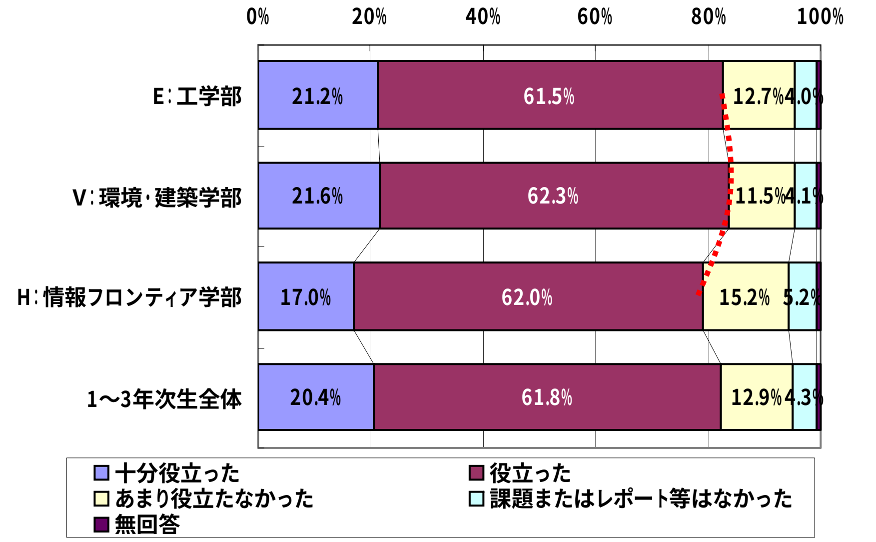
■E：教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか



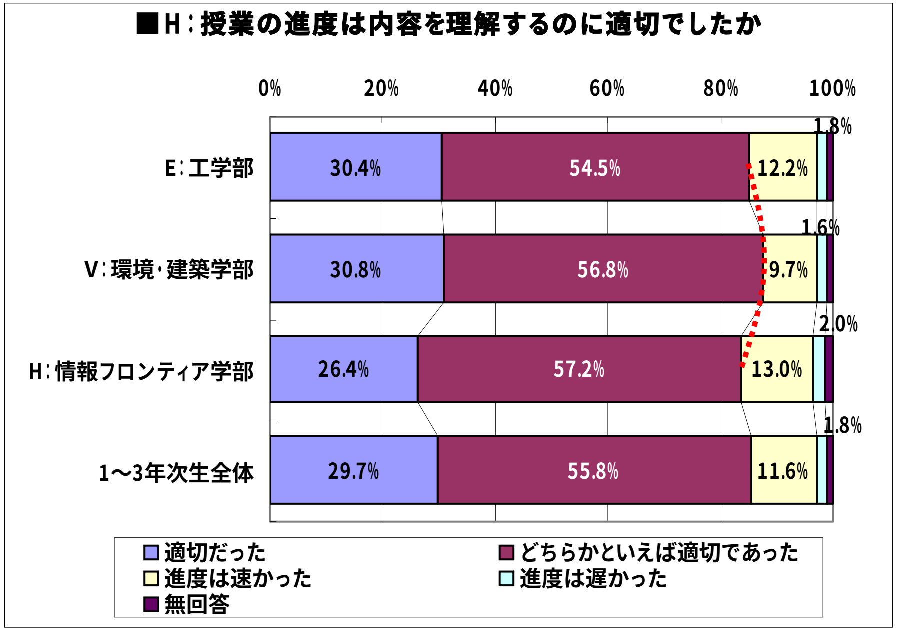
■D：1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか



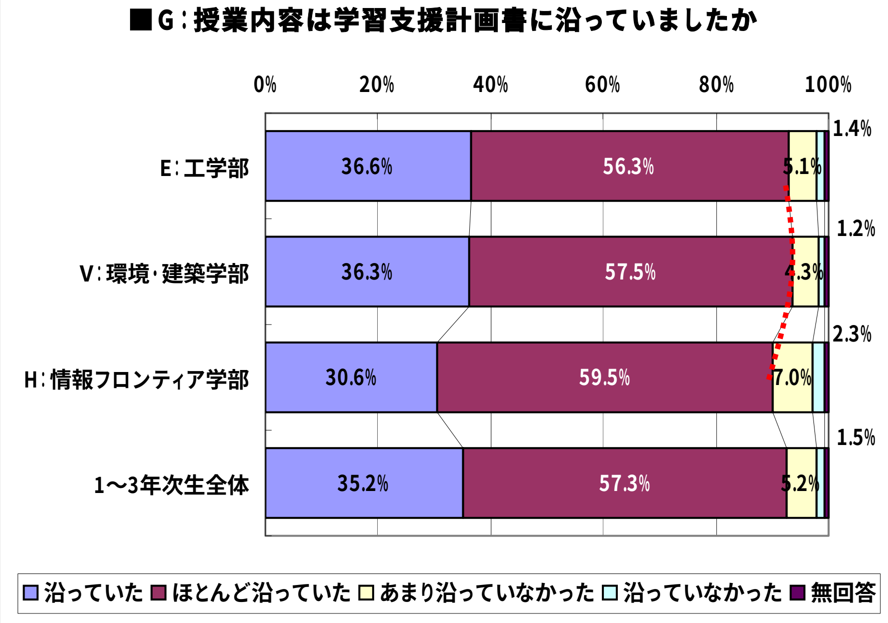
■F：課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



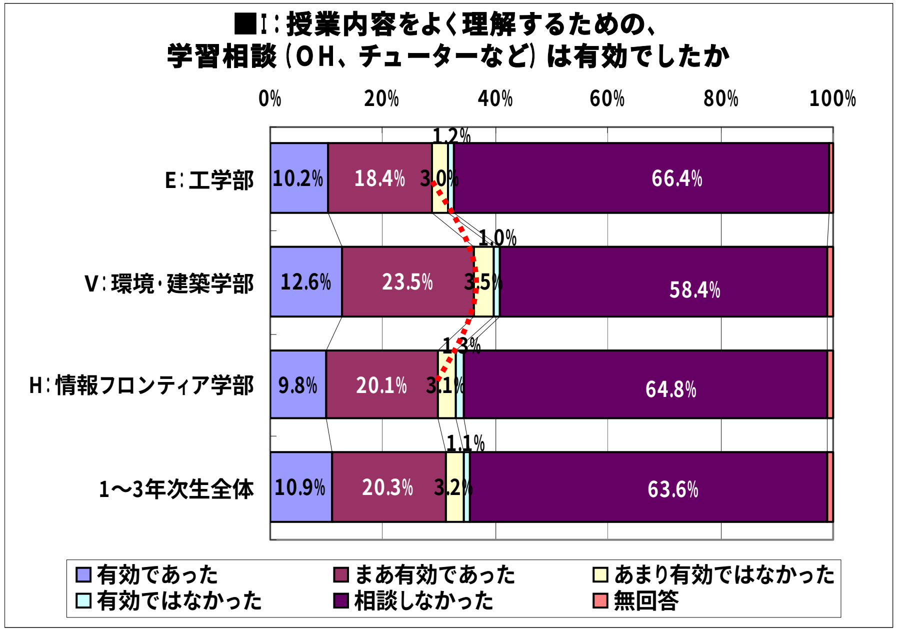
- 「G:学習支援計画書との一致」に関しても「V:環境･建築学部」が最も高い評価をしており、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」と続いていた。
- 「H:授業の進度」もこれまでと同様の結果であった。ここでは「進度は遅かった」という回答は3学部でほぼ同じであったため、「進度は速かった」に注目すると、「H:情報フロンティア学部」が最も多く速いと感じており、「V:環境･建築学部」で最も少ないという結果になっていた。
- 「I:学習相談（OH、チューター）の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、「V:環境･建築学部」で最も少なく、「E:工学部」が最も多かった。学習相談の利用率は「V:環境･建築学部」「H:情報フロンティア学部」「E:工学部」の順で下がっていることが分かった。
- また、有効性の評価を見ても「V:環境･建築学部」が最も高いが、他の項目とは違って2良いかの順序は入れ替わっていた。



■H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか

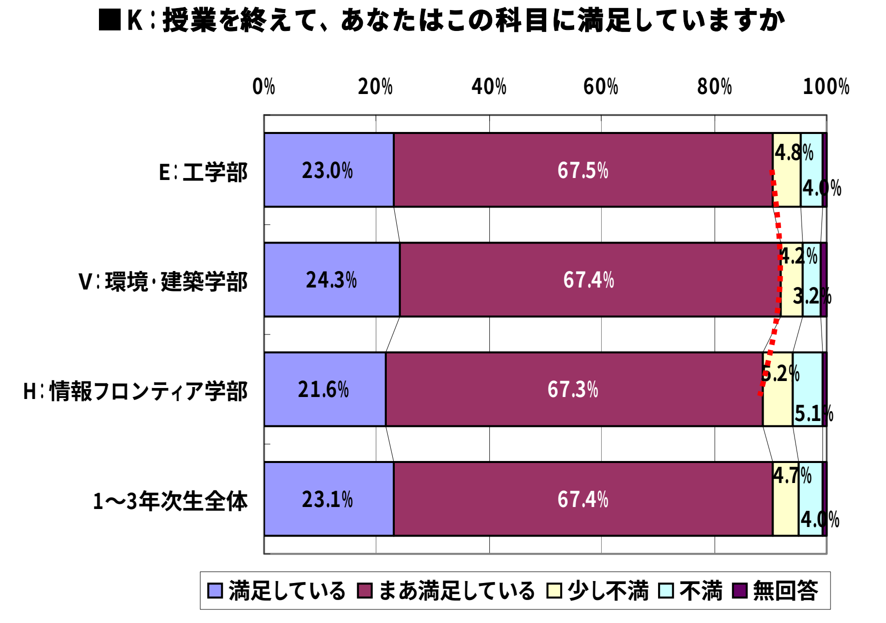


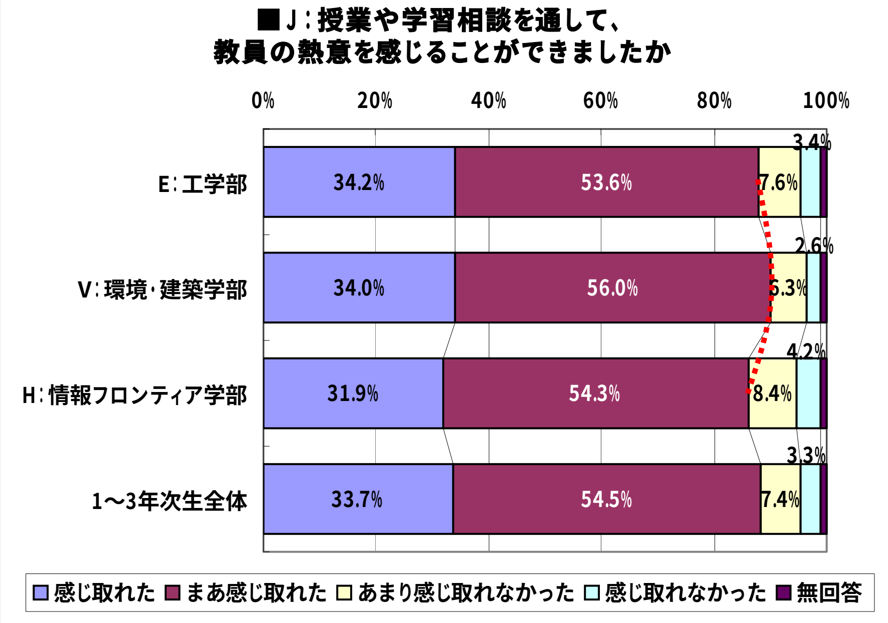
■G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか



■I:授業内容をよく理解するための、学習相談（OH、チューターなど）は有効でしたか

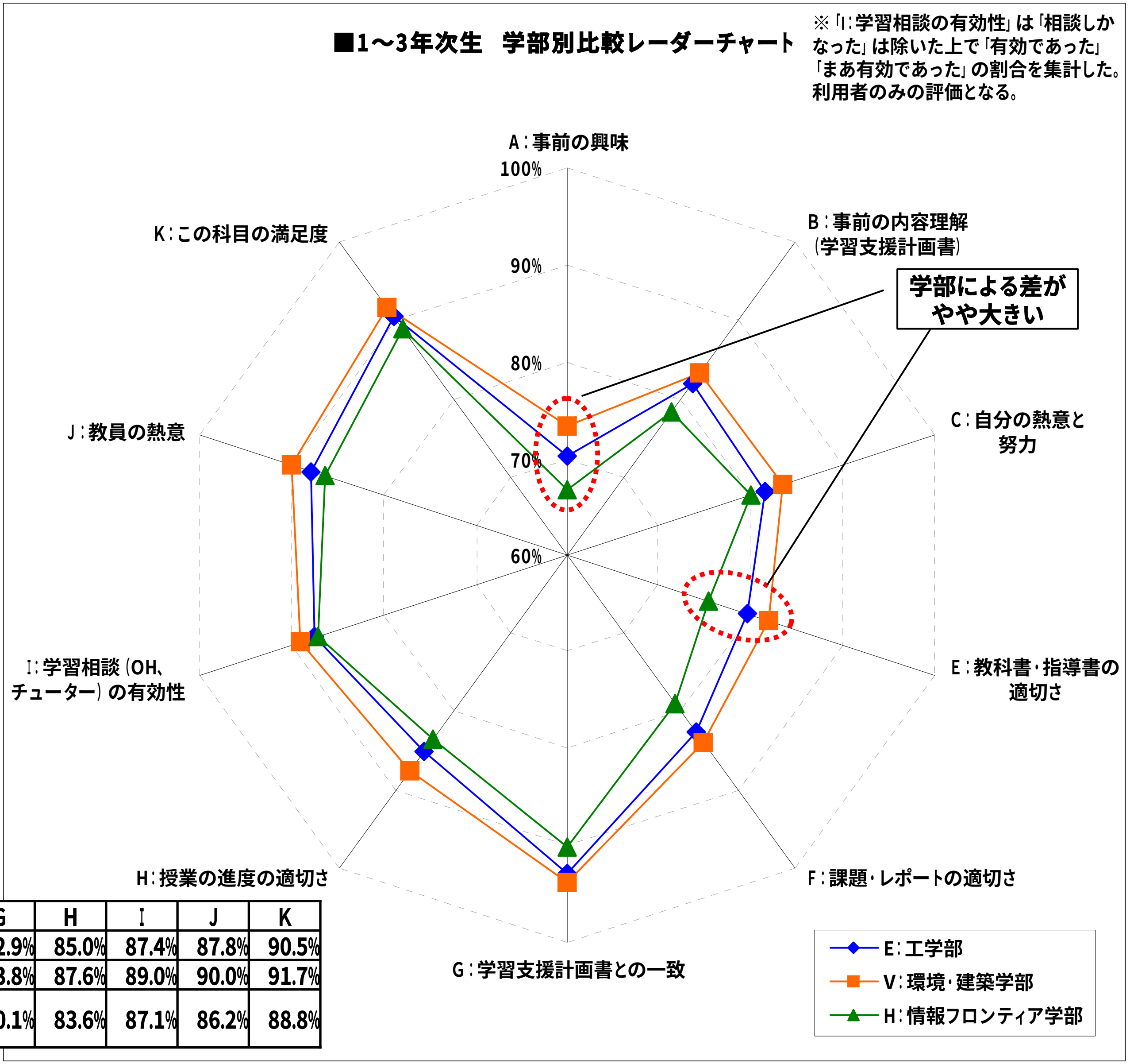
- 「J：教員の熱意」も差は小さいもののこれまでと同じ結果であり、「V：環境・建築学部」では90.0%が教員の熱意を感じたと答えており、次いで「E：工学部」で87.8%、「H：情報フロンティア学部」で86.2%という順であった。
- 重要な指標である「K：この科目の満足度」に関しても同じ結果であり、「V：環境・建築学部」では91.7%が満足と答えており、「E：工学部」で90.5%、「H：情報フロンティア学部」で88.9%が満足と回答していた。





＜5-2＞レーダーチャートによる学部別比較

- 学部別の比較をレーダーチャートで行った。
- 各項目の横帯グラフで見たように、全ての設問で「V：環境・建築学部」のスコアが最も高かった。そして、「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」と続いており、この順序は変わらなかった。
- 各項目の評価は相対的に比較することはできないが、「A：事前の興味」「E：教科書・指導書の適切さ」の2つは学科による差がやや大きいようであった。
- 逆に学科による差が小さかったのは「G：学習支援計画書との一致」「I：学習相談の有効性」「K：この科目の満足度」などであった。



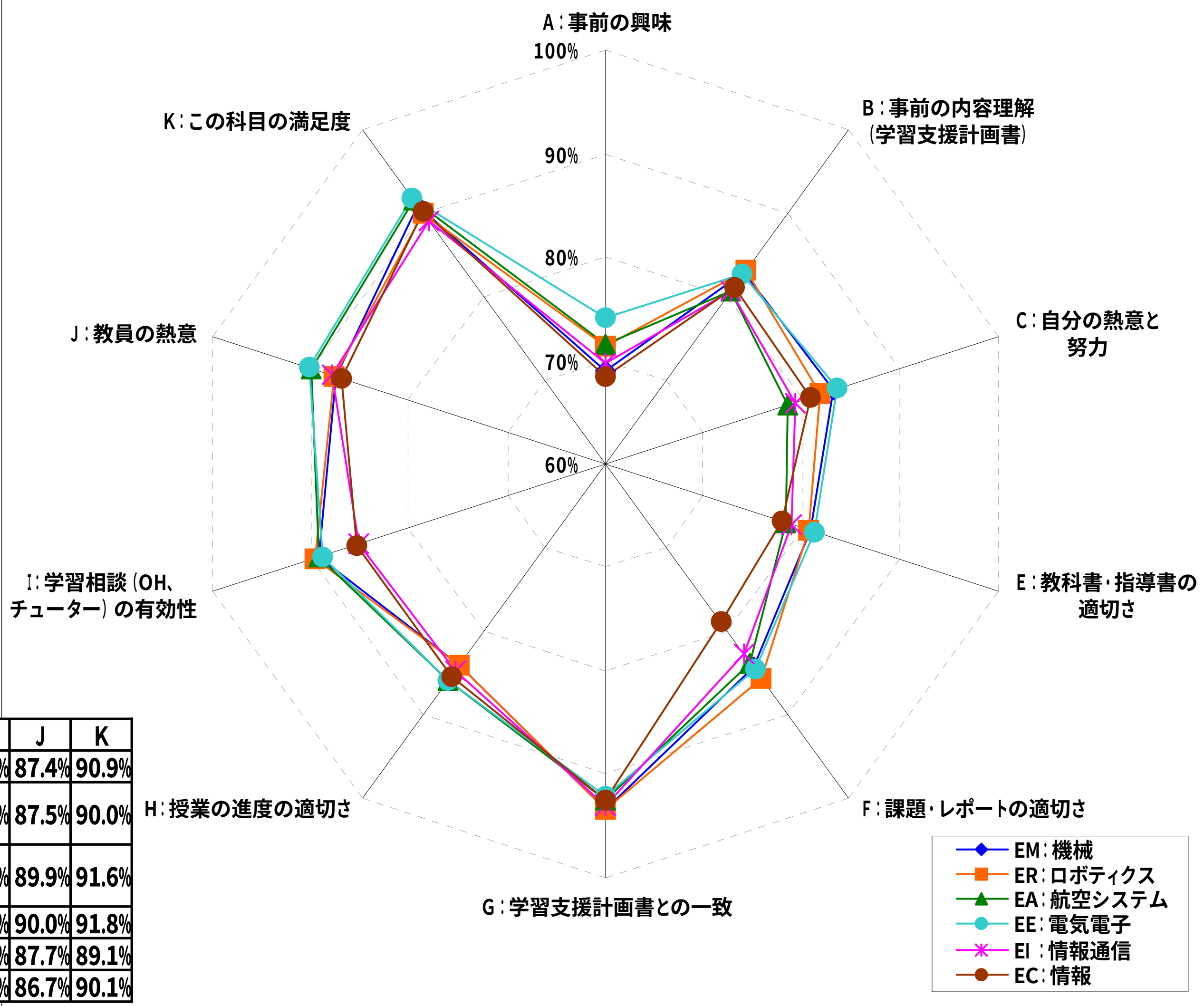
■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E：工学部	70.3%	81.9%	81.5%	79.6%	82.7%	92.9%	85.0%	87.4%	87.8%	90.5%
V：環境・建築学部	73.4%	83.2%	83.4%	81.8%	83.8%	93.8%	87.6%	89.0%	90.0%	91.7%
H：情報フロンティア学部	66.8%	78.3%	79.9%	75.3%	79.0%	90.1%	83.6%	87.1%	86.2%	88.8%

＜5-3＞レーダーチャートによる学科別比較

- 学科別の比較をレーダーチャートで確認した。グラフが混乱するため学部ごとに集計しており、学部をまたがる学科の比較は行っていない。
- 「E：工学部」では次項以降の他の学部と比較すると学科による差が小さく、各設問に対する回答が似通っていた。
- 学科別に見ると、全体的にスコアが高かったのが「EE：電気電子」であり、「A：事前の興味」では他の学科より3ポイントほど高かった。
- そして、「EM：機械」「ER：ロボティクス」「EA：航空システム」などがやや高めであった。
- 一方、低めであったのは「EC：情報」であり、「F：課題・レポートの適切さ」「I：学習相談の有効性」などでは厳しい評価をしていた。
- 全体的に学科による差が小さく、学科による大きな特徴は見られなかった。

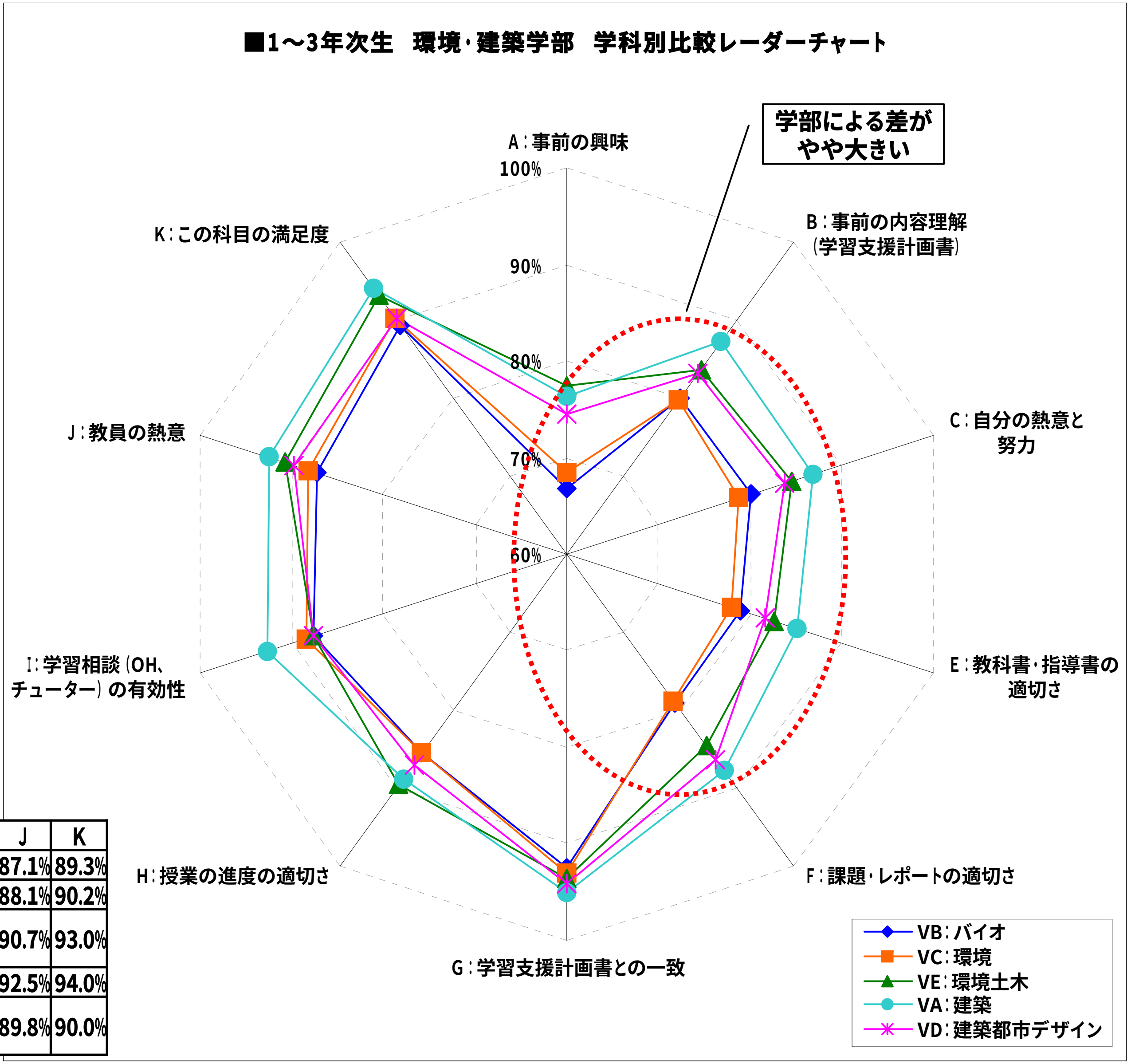
■1～3年次生　工学部　学科別比較レーダーチャート



■工学部　学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM：機械	69.0%	82.9%	83.1%	81.0%	84.2%	93.5%	84.1%	89.2%	87.4%	90.9%
ER：ロボティクス	71.5%	83.2%	81.8%	80.7%	85.6%	93.5%	84.0%	89.5%	87.5%	90.0%
EA：航空システム	71.6%	80.5%	78.5%	78.4%	83.8%	92.5%	85.9%	89.1%	89.9%	91.6%
EE：電気電子	74.2%	82.6%	83.5%	81.2%	84.6%	92.1%	85.9%	88.7%	90.0%	91.8%
EI ：情報通信	69.8%	80.7%	79.2%	78.9%	82.8%	93.1%	84.8%	85.1%	87.7%	89.1%
EC：情報	68.4%	81.0%	80.9%	77.9%	79.0%	92.6%	85.3%	85.3%	86.7%	90.1%

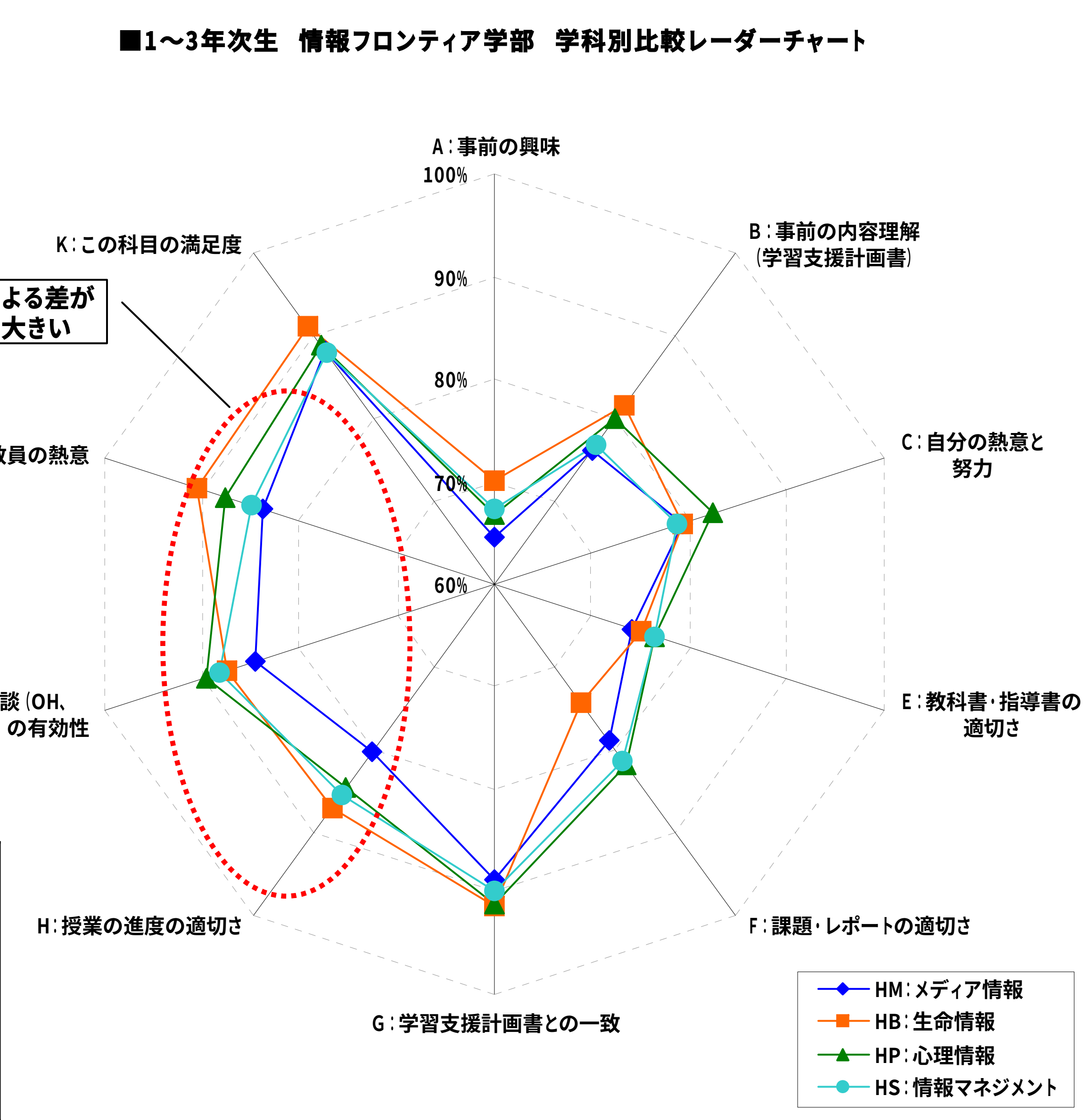
- 「V：環境・建築学部」は学部別では全項目で最もスコアが高かったが、学科別には比較的大きな差がついていることが分かる。
- 全体的に高めであったのは「VA：建築」であり、「A：事前の興味」「H：授業の進度の適切さ」の2項目を除く全ての項目で最もスコアが高かった。
- 次いで「VE：環境土木」「VD：建築都市デザイン」が続いていた。
- 逆に低めであったのは「VB：バイオ」「VC：環境」などであり、「A：事前の興味」「F：課題・レポートの適切さ」などは他の学科と大きな差がついていた。
- これらを見ると「事前の興味が低い学科は全体的にスコアが低くなる」といった傾向がありそうであった。
- 学科による差が大きかったのは「A：事前の興味」「B：事前の内容理解」「C：自分の熱意と努力」「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題・レポートの適切さ」などであり、これらの基本的な事柄は学科によって差が出るようであった。



■環境・建築学部　学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VB：バイオ	66.8%	80.0%	80.1%	79.0%	79.2%	92.5%	85.6%	87.5%	87.1%	89.3%
VC：環境	68.5%	79.6%	78.7%	77.9%	78.7%	93.1%	85.4%	88.4%	88.1%	90.2%
VE：環境土木	77.5%	83.6%	84.6%	82.5%	84.5%	93.6%	89.5%	87.5%	90.7%	93.0%
VA：建築	76.4%	87.1%	86.7%	85.2%	87.7%	95.0%	88.8%	92.7%	92.5%	94.0%
VD：建築都市デザイン	74.4%	83.1%	83.7%	81.7%	86.2%	94.1%	87.0%	87.5%	89.8%	90.0%

- 「H：情報フロンティア学部」でも、「V：環境・建築学部」ほどではないが学科による差が見られた。
- 学科別に見て高めであったのは「HB：生命情報」「HP：心理情報」などであり、低めは「HM：メディア情報」であった。
- そして、学科によって評価に差が見られたのは「H：授業の進度の適切さ」「I：学習相談の有効性」「J：教員の熱意」などであった。
- これらは「授業支援」や「授業内容」「教員の姿勢」によるものであり、他の2学部ではこれらのばらつきが少なかったが、「H：情報フロンティア学部」ではこれらの受け止め方に関して学科によって差があるようであった。



■情報フロンティア学部　学科別比較

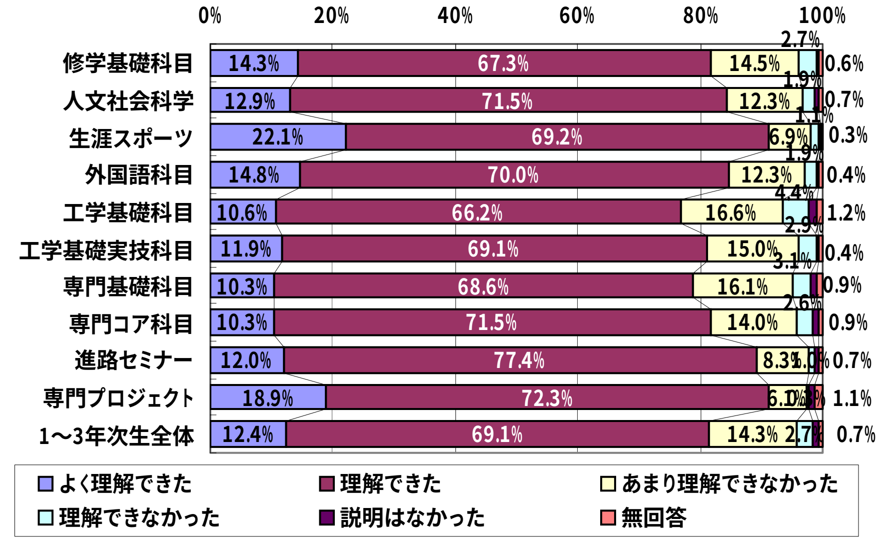
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
HM：メディア情報	64.5%	76.1%	79.3%	74.1%	79.0%	88.8%	80.2%	84.6%	83.6%	88.0%
HB：生命情報	70.1%	81.5%	79.3%	75.1%	74.4%	91.3%	87.0%	87.3%	90.4%	91.0%
HP：心理情報	66.8%	79.9%	82.3%	76.4%	81.8%	91.1%	84.6%	89.5%	87.5%	88.8%
HS：情報マネジメント	67.3%	76.9%	78.7%	76.4%	81.4%	90.0%	85.3%	88.0%	84.9%	87.9%

＜6＞科目区分別の分析

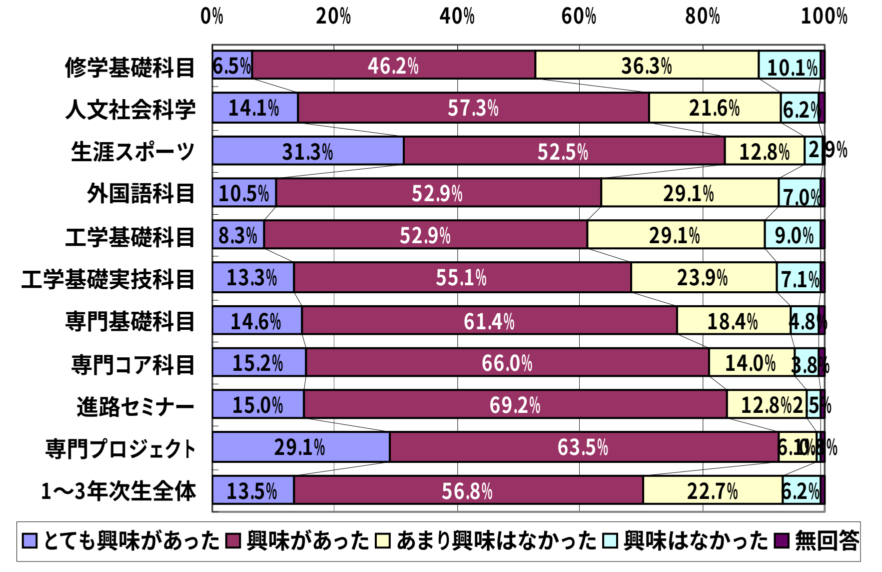
＜6-1＞科目区分別の比較（1～3年次生）

- 「A：事前の興味」を科目区分別に比較すると、「専門プロジェクト」への興味が最も強く、「修学基礎科目」への興味が最も低かった。
- 「進路セミナー」「生涯スポーツ」といった特別な科目を除くと専門系の科目ほど強い興味を持っていると言えそうであった。そして、学年別に見た際には高学年ほど興味が強かったが、専門系への興味が強いということから、その結果の説明もつくと思われる。
- 「B：事前の内容理解」ではあまり大きな差はつかず、「専門プロジェクト」「進路セミナー」「生涯スポーツ」の理解がやや高く、「工学基礎科目」「専門基礎科目」の理解がやや低いという傾向が見られた。
- 「C：自分の熱意と努力」では「専門プロジェクト」と「生涯スポーツ」の高さが突出していた。そして、「工学基礎実技科目」「専門コア科目」「専門基礎科目」が続いており、「興味」と同様に、これらの専門性の高い科目には熱意を持って取り組んでいるようであった。
- 一方、「進路セミナー」に対してはそれほど努力しているとは言えなかった。セミナー系の授業であるため努力を要しないとも言えるが、これで良いのか検証する必要もあると思われる。

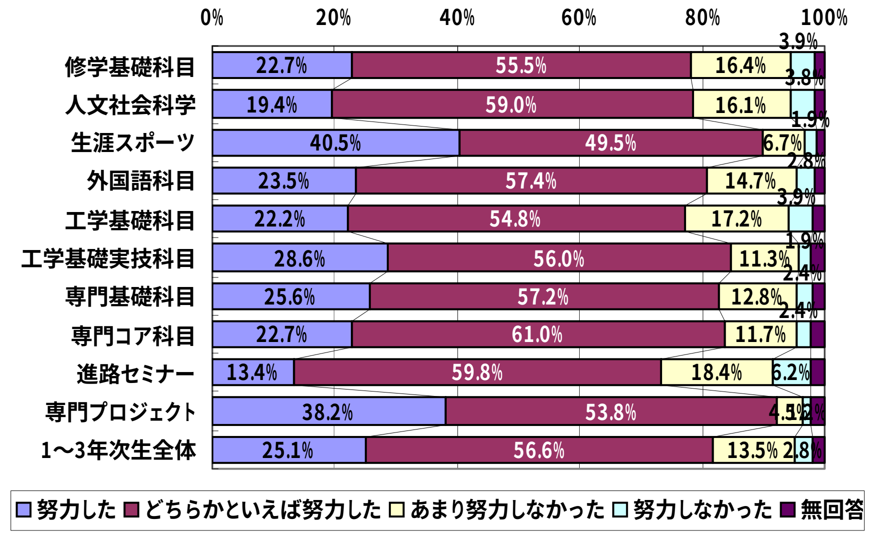
■B：最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか



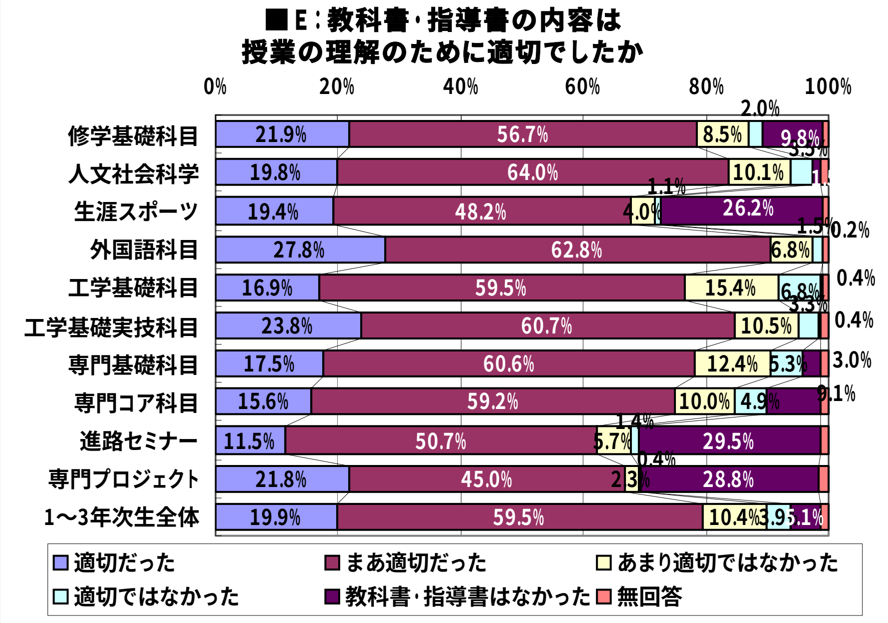
■A：受講前、この科目に興味はありましたか

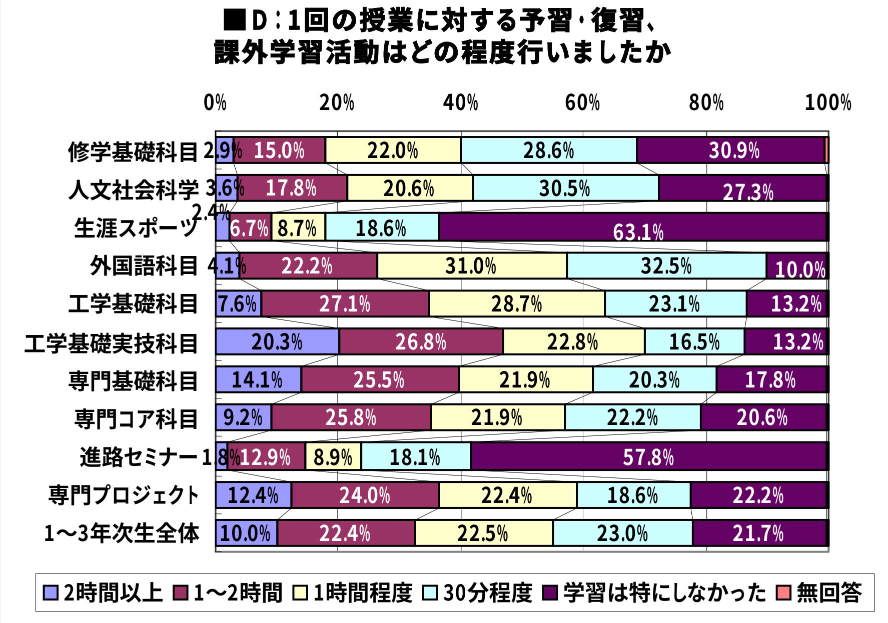


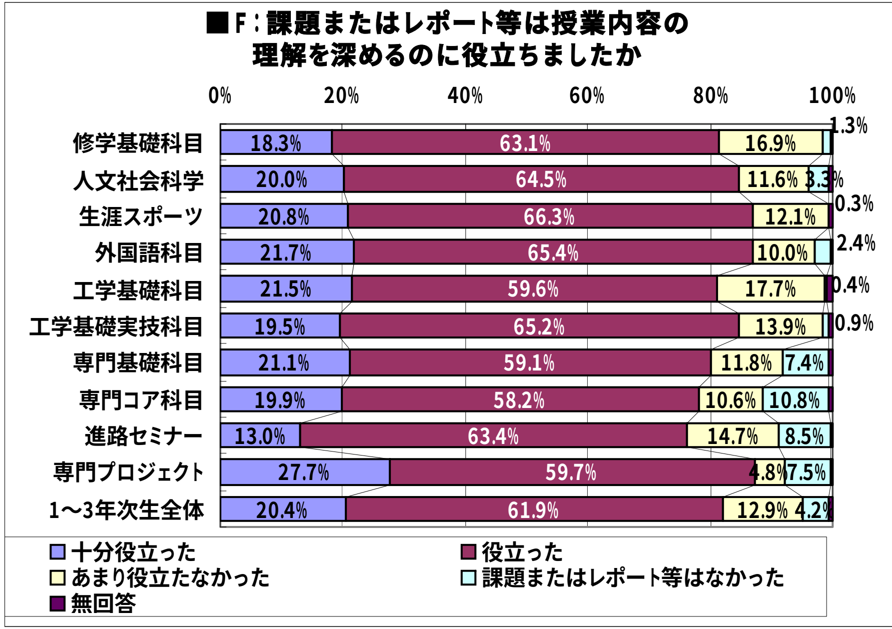
■C：授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか



- 「D：予習・復習、課外学習活動」で特徴的であったのは「生涯スポーツ」「進路セミナー」の時間の短さであったが、他の科目では「外国語科目」「工学基礎科目」は時間は短いものの多くの学生が時間を割いており、恐らく予習に時間が充てられていると思われる。
- また、「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」などは多くの時間がかけられており、準備や作業に充てられていると思われる。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」に関して「教科書・指導書はなかった」という回答が多かったもの以外を見ると、「外国語科目」の評価が最も高く、次いで「工学基礎実技科目」「人文社会科学」等の評価が高く、「専門コア科目」「工学基礎科目」の評価が低かった。
- 「F：課題、レポート等の評価」は科目による差が少なかったが、「専門プロジェクト」「生涯スポーツ」「外国語科目」などで評価が高かった。そして、「課題またはレポート等はなかった」という回答が多かったためであると思われるが、「進路セミナー」「専門コア科目」「専門基礎科目」などの評価が低かった。

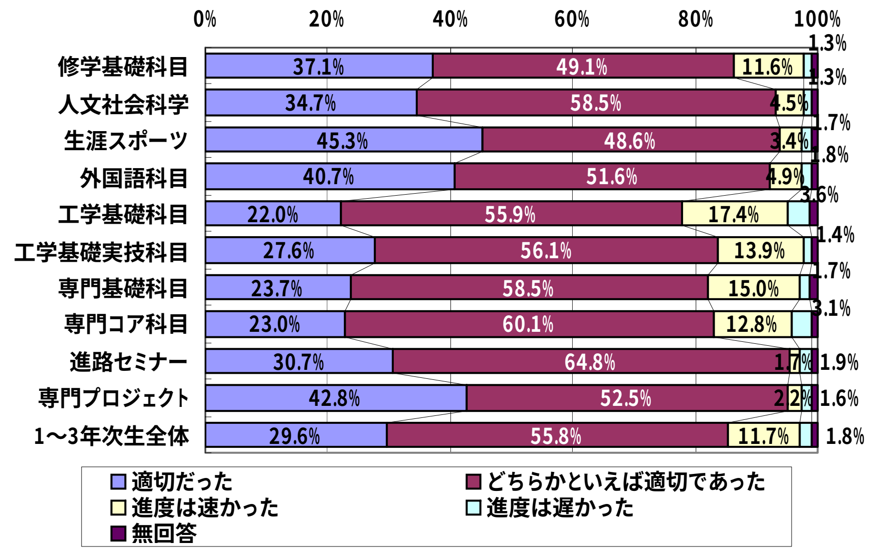




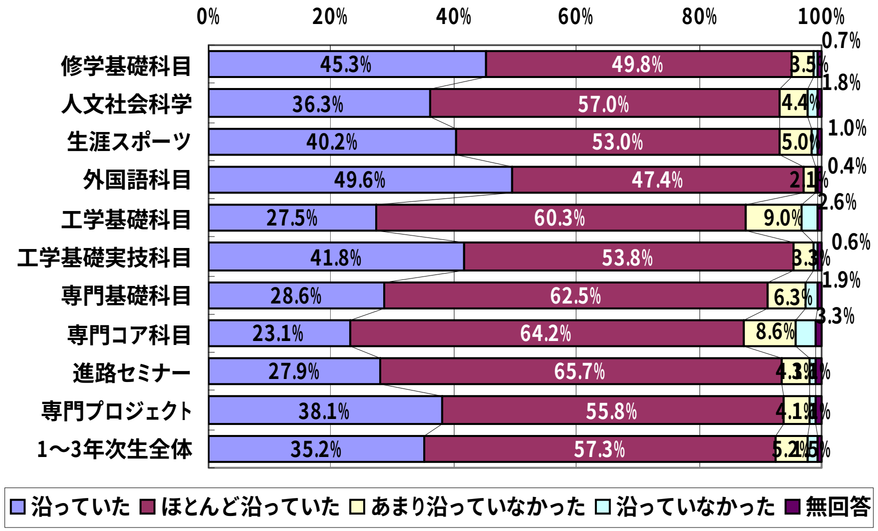


- 「G：学習支援計画書との一致」は各科目ともに高かったが、特に「外国語科目」「工学基礎実技科目」「修学基礎科目」などがやや高めであった。
- 一方、「専門コア科目」「工学基礎科目」「専門基礎科目」はやや低めであり、応用が多く専門性の高い科目では学習支援計画書に沿うことが難しい面もあってこのような結果になったものと思われる。
- 「H：授業の進度」に関しては大きく2つの評価に分かれていた。「人文社会科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」といった一般教養的な科目は進度に対する満足度が非常に高いが、「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目では「速かった」という意見が多く見られ、スピードについていけない学生も多いようであった。
- 「I：学習相談の有効性」も特徴的であり、「工学基礎実技科目」と「専門プロジェクト」では非常に重視されており、有効であるという回答が多かった。
- その他「工学基礎科目」「外国語科目」「修学基礎科目」で使われているようであり、それ以外の科目では利用率が低かった。

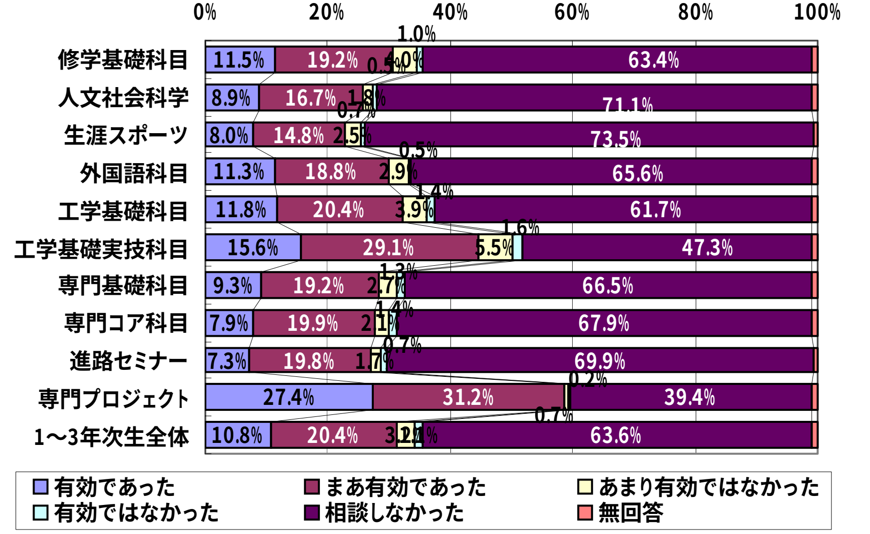
■H：授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



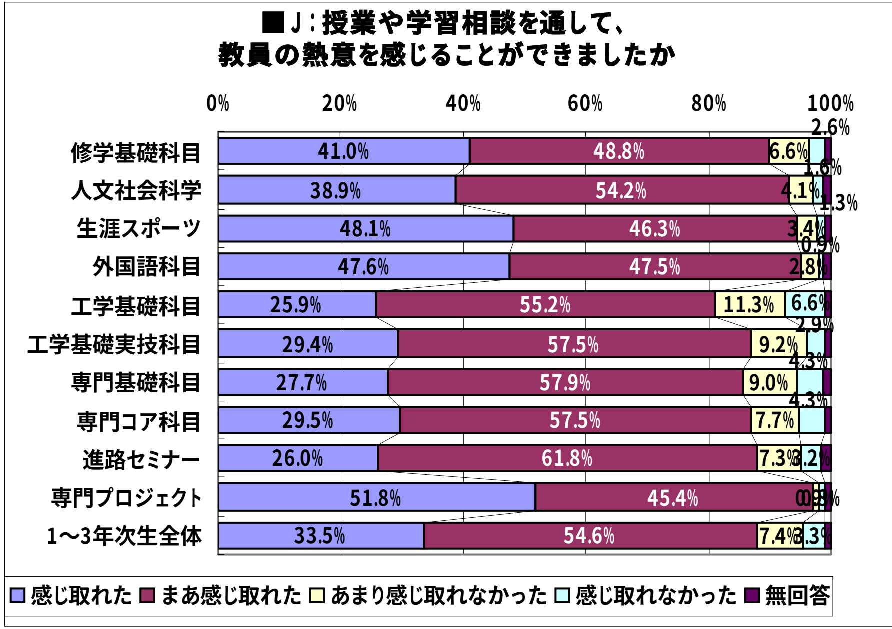
■G：授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか

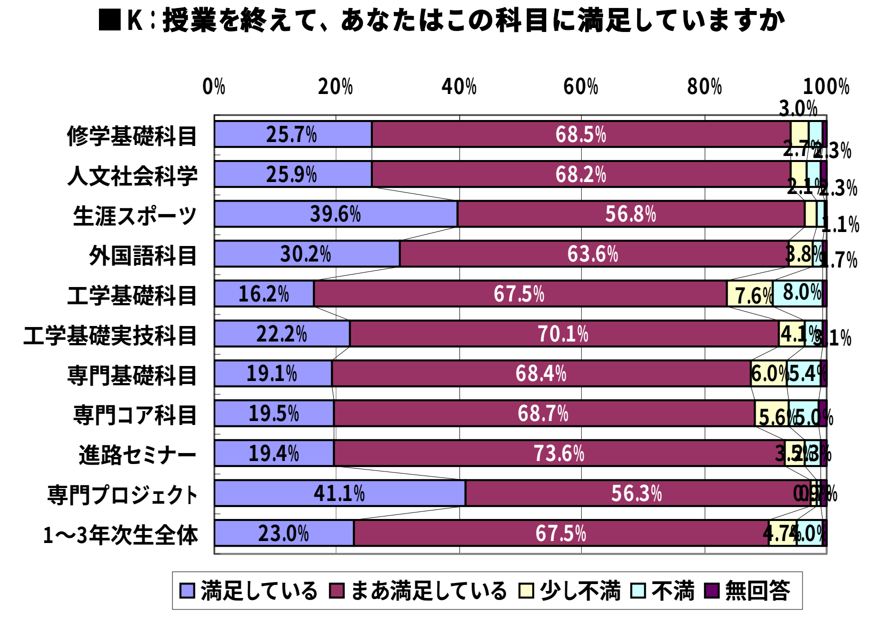


■I：授業内容をよく理解するための、
学習相談（OH、チューターなど）は有効でしたか



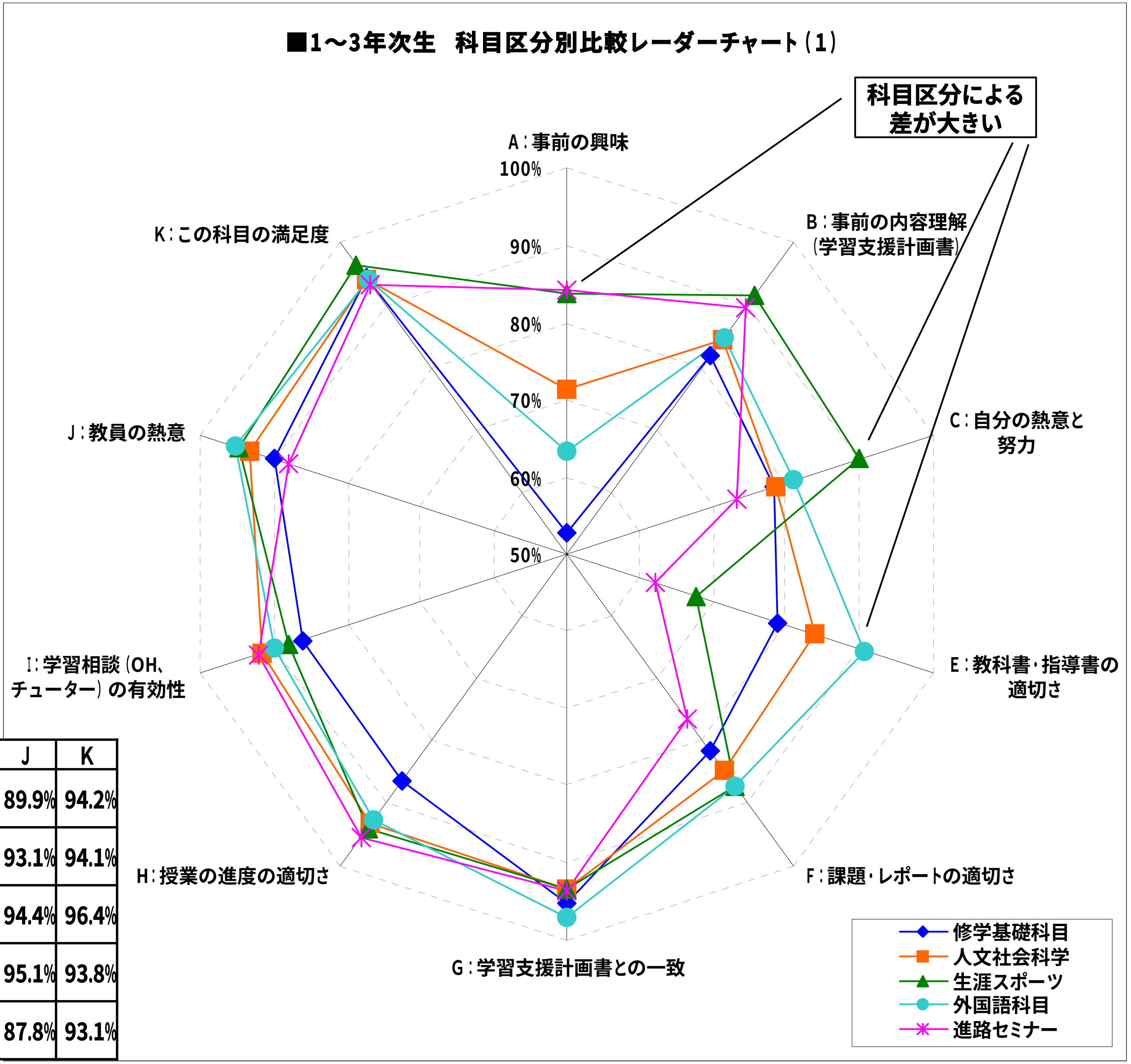
- 「J：教員の熱意」も前項の「H：授業の進度」と似た2つのパターンに分けることができそうであった。
- 1つめのパターンは「修学基礎科目」「人文社会科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」といった一般科目であり、これらに対しては教員の高い熱意を感じていた。特に「生涯スポーツ」と「外国語科目」では「感じ取れた」の割合が高く、教員の熱意が学生に届いていることが分かる。
- 2つめは「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目と「進路セミナー」であり、一般科目に比べると、やや熱意が感じられていないようであった。特に「工学基礎科目」では、「感じ取れなかった」という回答が多かった。
- また、専門系ではあるが「専門プロジェクト」の教員には非常に強い熱意を感じているようであった。
- 「K：この科目の満足度」もそれほどハッキリしていないが、上記と同様の傾向が見られ、一般系の科目はやや満足度が高めである。一般系の中では「生涯スポーツ」の満足度が特に高い。
- 一方、専門系の科目の満足度はやや低めであり、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」が低く、「工学基礎実技科目」がやや高めであった。
- そして、「専門プロジェクト」の満足度は全体の中で最も高く、ほとんど全員が満足と回答していた。





＜6-2＞レーダーチャートによる科目区分別比較

- レーダーチャートによる比較では、一般系（セミナー含む）と専門系に分けて集計を行った。
- 一般系を見ると「A：事前の興味」「C：自分の熱意と努力」「E：教科書・指導書の適切さ」で科目区分による差が大きかった。
- 最も科目による差が大きかったのは「A：事前の興味」であり、「進路セミナー」「生涯スポーツ」には強い興味を持っており、「修学基礎科目」への興味が非常に低かった。
- 次に差が大きかった「E：教科書・指導書の適切さ」は、「外国語科目」「人文社会科学」の評価が高く、科目の特徴がうかがえた。
- 全体的な傾向を見ると「修学基礎科目」が全体的に低めであり、「進路セミナー」「生涯スポーツ」は教科書などがないためか特徴的な結果となっていた。

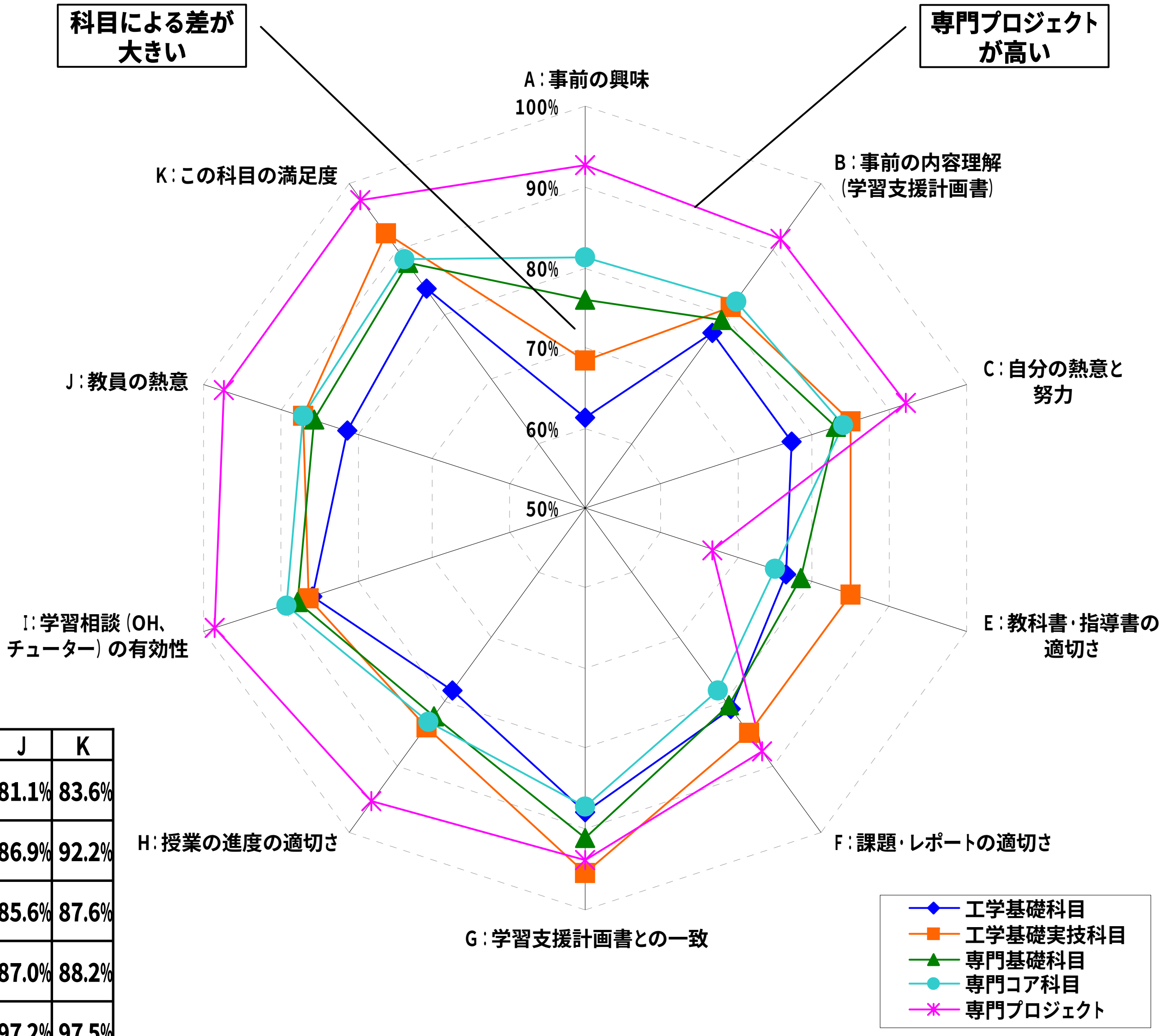


■一般系の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	52.8%	81.6%	78.2%	78.6%	81.4%	95.1%	86.2%	86.1%	89.9%	94.2%
人文社会科学	71.4%	84.4%	78.4%	83.7%	84.6%	93.3%	93.2%	91.5%	93.1%	94.1%
生涯スポーツ	83.8%	91.3%	90.0%	67.6%	87.1%	93.3%	93.9%	88.0%	94.4%	96.4%
外国語科目	63.4%	84.7%	80.9%	90.6%	87.1%	97.0%	92.3%	89.6%	95.1%	93.8%
進路セミナー	84.2%	89.4%	73.2%	62.1%	76.4%	93.6%	95.5%	92.0%	87.8%	93.1%

- 「専門系」の科目で最も目立っていたのは「専門プロジェクト」であり、「興味」「満足度」「自分の熱意」などをはじめとして、全体的に非常に評価が高かった。
- 次いで「工学基礎実技科目」がやや高めで、「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題・レポートの適切さ」「G：学習支援計画書との一致」「K：満足度」などが高めであったが、「A：事前の興味」が低い点が目立っており、「事前の興味は低いものの満足できる良い授業であった」と感じているようであった。
- 全体的に低かったのは「工学基礎科目」であり、「A：事前の興味」「H：授業の進度の適切さ」「J：教員の熱意」「K：満足度」が低めであり、「事前の興味も低いが、受講後の評価も低いままであった」と言える。
- 「専門基礎科目」「専門コア科目」は専門系の中では中間的な結果であったが、「A：事前の興味」はやや高めであり、特に「専門コア科目」には事前に興味を持っているようであった。

■1～3年次生　科目区分別比較レーダーチャート（2）



■専門系の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
工学基礎科目	61.2%	76.8%	77.1%	76.4%	81.1%	87.8%	77.9%	85.9%	81.1%	83.6%
工学基礎実技科目	68.4%	81.0%	84.6%	84.5%	84.6%	95.5%	83.7%	86.3%	86.9%	92.2%
専門基礎科目	75.9%	79.0%	82.8%	78.2%	80.2%	91.0%	82.2%	87.6%	85.6%	87.6%
専門コア科目	81.2%	81.8%	83.7%	74.8%	78.0%	87.2%	83.0%	88.9%	87.0%	88.2%
専門プロジェクト	92.5%	91.2%	92.1%	66.8%	87.4%	93.9%	95.2%	98.5%	97.2%	97.5%

＜6-3＞全項目の科目別順位

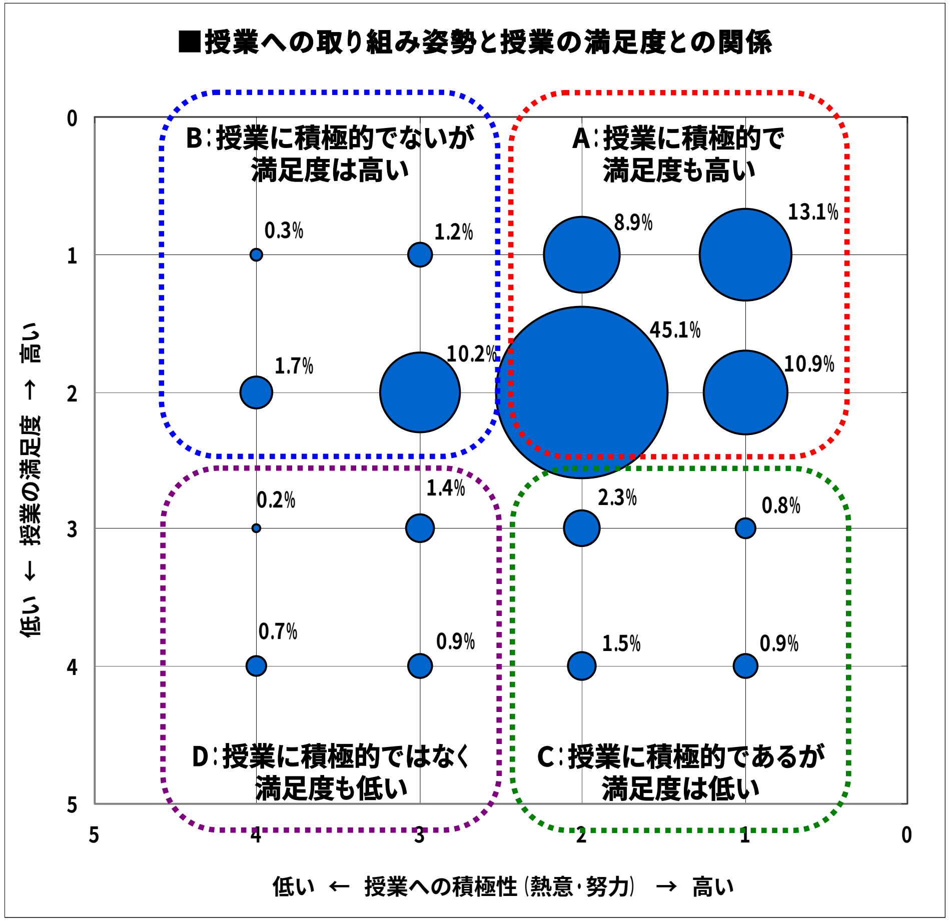
- 確認のために全科目で質問項目毎に肯定的な意見の多かったものから並べ替えた。そして、分かりやすくするために科目別に色分けをした。大雑把に赤系は工学系専門科目、青系は工学系基礎科目としている。
- ここまでの再確認になるが、「専門プロジェクト」は全体的に評価が高かった。教科書などがないためだと思われるが、「E：教科書・指導書の適切さ」の評価が低く、応用的な内容になると思われるため「G：学習支援計画書との一致」がやや低めであった。
- 「生涯スポーツ」も全般的に高く、特に「B：事前の内容理解」と「K：満足度」が高かった。また、「修学基礎科目」は満足度は高いものの「A：事前の興味」「C：自分の熱意と努力」「I：学習相談の有効性」が低かった。
- 一方、「工学基礎科目」は「E：教科書・指導書の適切さ」「F：課題・レポートの適切さ」は中間程度であったものの全般的に評価が低く、厳しい評価がされていた。
- 「専門基礎科目」も「A：事前の興味」「C：自分の熱意と努力」「E：教科書・指導書の適切さ」は中程度であり、それほど興味がないわけではないが、満足度や教員の評価、授業の内容などの評価が低かった。
- 前にも見ているように工学系の専門科目、工学系の基礎科目がやや低めであった。しかし、事前の興味がないわけでもなく、自分自身も努力していないわけでもないようであり、内容が難しいためなかなかついていけないことが不満につながっており、細かいフォローを受けられないことが教員の熱意が感じられないという評価につながっているものと思われる。

順位	A：事前の興味	B：事前の内容理解（学習支援計画書）	C：自分の熱意と努力	E：教科書・指導書の適切さ	F：課題・レポートの適切さ	G：学習支援計画書との一致	H：授業の進度の適切さ	I：学習相談（OH、チューター）の有効性	J：教員の熱意	K：この科目の満足度
1	専門プロジェクト	生涯スポーツ	専門プロジェクト	外国語科目	専門プロジェクト	外国語科目	進路セミナー	専門プロジェクト	専門プロジェクト	専門プロジェクト
2	進路セミナー	専門プロジェクト	生涯スポーツ	工学基礎実技科目	生涯スポーツ	工学基礎実技科目	専門プロジェクト	進路セミナー	外国語科目	生涯スポーツ
3	生涯スポーツ	進路セミナー	工学基礎実技科目	人文社会科学	外国語科目	修学基礎科目	生涯スポーツ	人文社会科学	生涯スポーツ	修学基礎科目
4	専門コア科目	外国語科目	専門コア科目	修学基礎科目	工学基礎実技科目	専門プロジェクト	人文社会科学	外国語科目	人文社会科学	人文社会科学
5	専門基礎科目	人文社会科学	専門基礎科目	専門基礎科目	人文社会科学	進路セミナー	外国語科目	専門コア科目	修学基礎科目	外国語科目
6	人文社会科学	専門コア科目	外国語科目	工学基礎科目	修学基礎科目	生涯スポーツ	修学基礎科目	生涯スポーツ	進路セミナー	進路セミナー
7	工学基礎実技科目	修学基礎科目	人文社会科学	専門コア科目	工学基礎科目	人文社会科学	工学基礎実技科目	専門基礎科目	専門コア科目	工学基礎実技科目
8	外国語科目	工学基礎実技科目	修学基礎科目	生涯スポーツ	専門基礎科目	専門基礎科目	専門コア科目	工学基礎実技科目	工学基礎実技科目	専門コア科目
9	工学基礎科目	専門基礎科目	工学基礎科目	専門プロジェクト	専門コア科目	工学基礎科目	専門基礎科目	修学基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目
10	修学基礎科目	工学基礎科目	進路セミナー	進路セミナー	進路セミナー	専門コア科目	工学基礎科目	工学基礎科目	工学基礎科目	工学基礎科目

＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

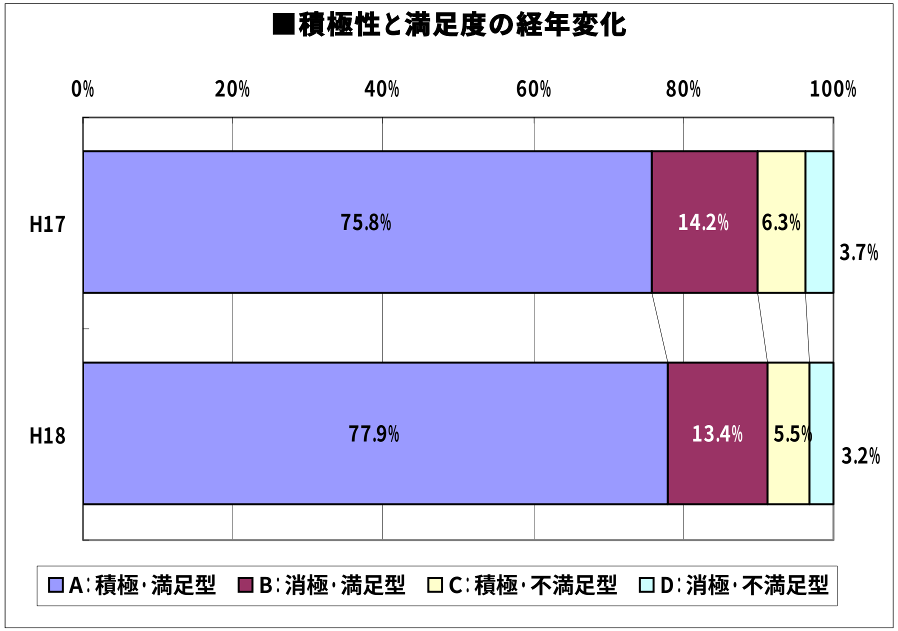
＜7-1＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

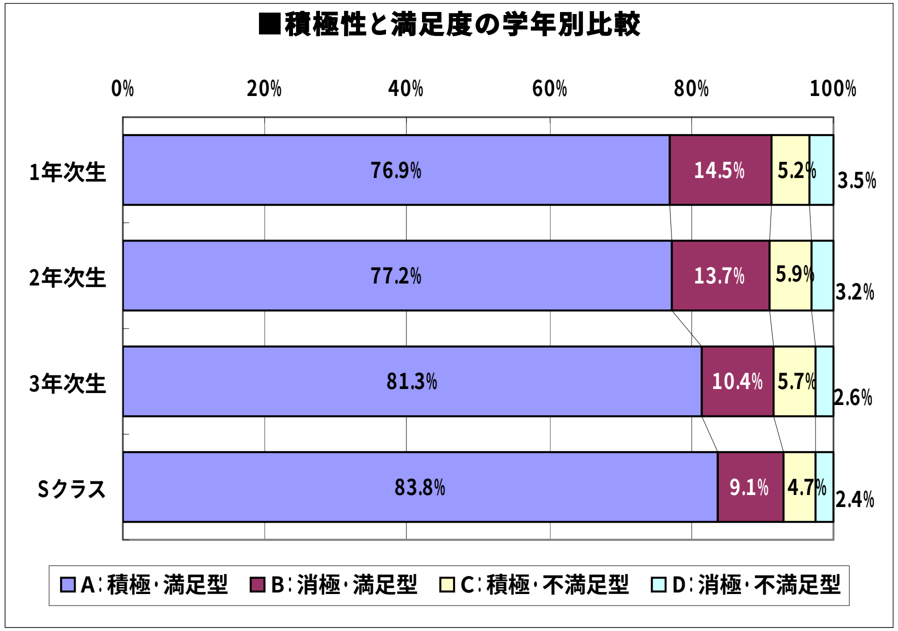
- 「C：自分の熱意と努力」と「K：この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせて学生を4つのグループに分けて比較を行った。（「総合アンケート」においても同じような指標を使用している。）
- まず、Aの「授業に熱意を持って積極的に取り組み、満足度も高い（積極・満足型）」という最も良い状態にある学生は全体の77.9%を占めており、この結果を見る限り8割の学生は非常に良い状態にあると言える。
- Bの「授業には積極的でないが、満足度は高い（消極・満足型）」は13.4%であったが、このグループは「教員に引っぱられて何とか授業についていっている」といった状況が考えられる。
- Cの「授業に積極的であるが、満足度が低い（積極・不満足型）」という学生は、真面目に頑張っているにもかかわらず満足が得られないというグループであり、そのままでは積極性も失う可能性があるため注意が必要であると言える。
- そして、Dの「授業に積極的でなく、満足度も低い（消極・不満足型）」は全体の3.2%であった。このグループは自らもやる気を出しておらず、教員などのサポートにもついていこうとしていないグループであり、大学生としての自覚に欠けているとも言える。
- 参考のために「総合アンケート」の結果も提示したが、AとDの割合が大きく異なっていた。これに関しては別途詳細を分析する必要があるが、差がついた最も大きな要因は「記名式」「無記名式」の違いではないかと思われ、「無記名式」の「総合アンケート」では自らに甘く、授業に厳しい評価をしたものと思われる。



領域	割合	総合アンケート結果	取り組み姿勢	略号
A	77.9%	(38.2%)	• 授業に積極的で満足度も高い。 • 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	13.4%	(16.6%)	• 授業には積極的でないが満足度は高い。 • 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 • 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	5.5%	(18.7%)	• 授業に積極的であるが満足度は低い。 • 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 • 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	3.2%	(26.5%)	• 授業に積極的でなく満足度も低い。 • 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

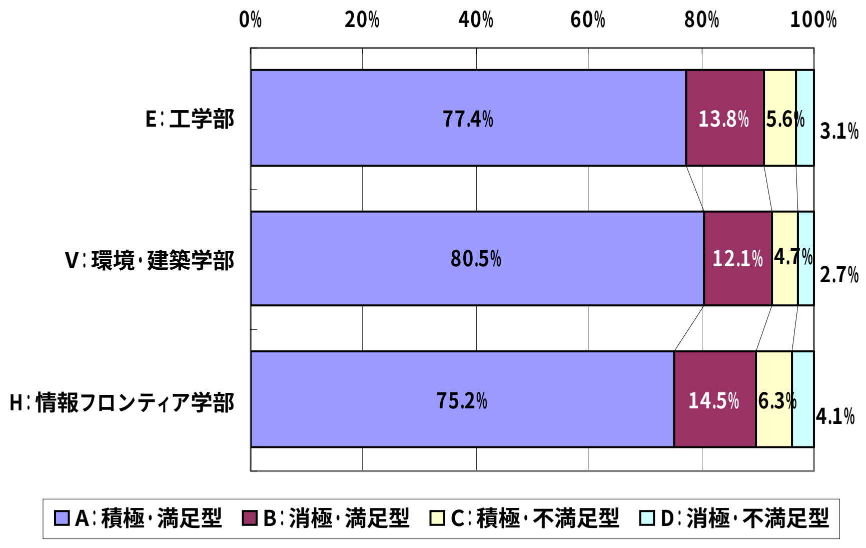
- 積極性と満足度の指標を年度別に比較したところ、「A：積極・満足型」はH17よりも2.1ポイント増加しており、わずかではあるが良い状態の学生が増加していると言える。
- そして、「B：消極・満足型」はマイナス0.8ポイント、「C：積極・不満足型」はマイナス0.8ポイント、「D：消極・不満足型」はマイナス0.5ポイントと全て減少していた。
- 学年別の比較では、明らかに高学年ほど「A：積極・満足型」が多くなる傾向がうかがえ、高学年ほど良い状態にあると言える。
- そして、「B：消極・満足型」は高学年ほど減少しており、「C：積極・不満足型」「D：消極・不満足型」は学年が異なっても割合がほとんど変わらず、これらのグループは一定の割合を占めていることが分かった。



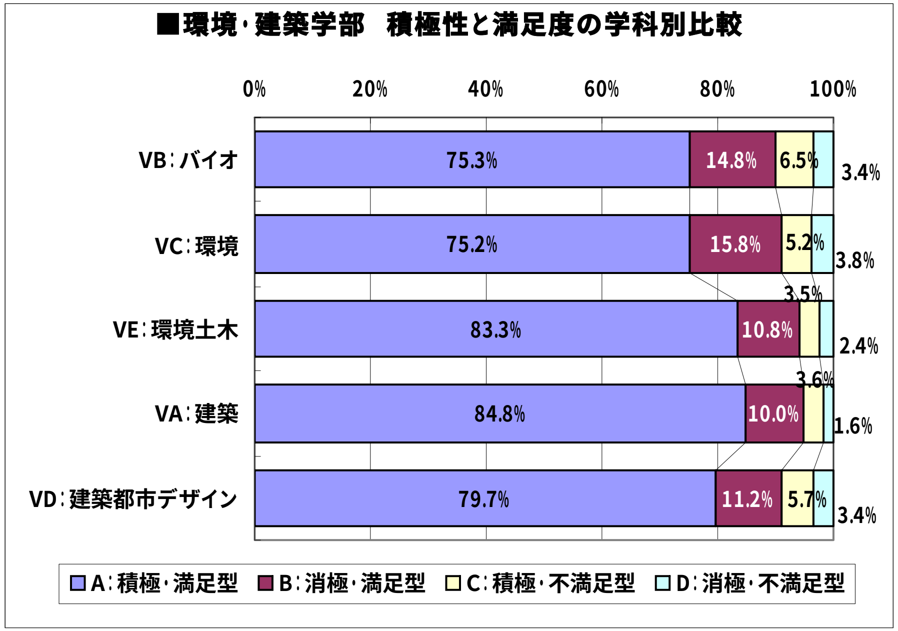


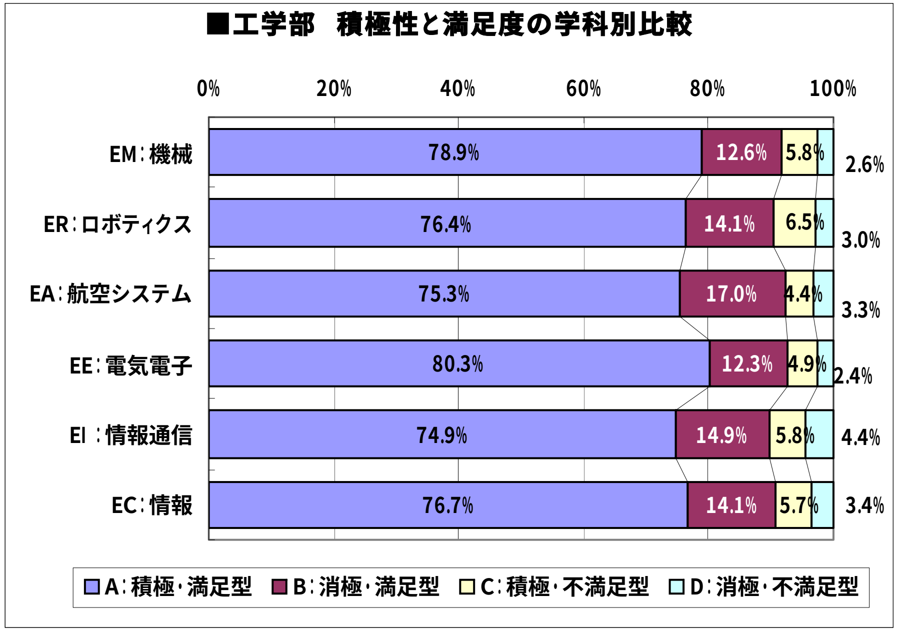
- 学部別の比較は、新しい学部構成である1～3年次生を対象として比較した。
- 「A：積極・満足型」は「V：環境・建築学部」で80.5%と最も多く、次いで「E：工学部（77.4%）」「H：情報フロンティア学部（75.2%）」の順となっており、この順序が学生の充実度合いの順序と言える。
- そして、「B：消極・満足型」「C：積極・不満足型」「D：消極・不満足型」は全て「H：情報フロンティア学部」が最も多く、「E：工学部」「V：環境・建築学部」の順で減少していた。

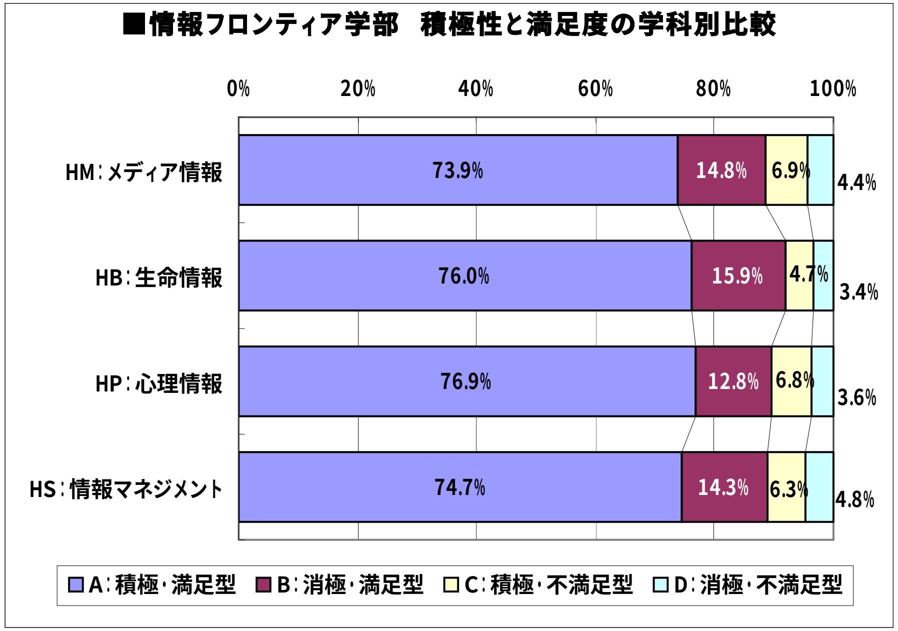
■1～3年次生　積極性と満足度の学部別比較



- 学科別の比較は、学部単位で分析を行った。
- 「E：工学部」で「A：積極・満足型」が最も多かったのは「EE：電気電子」であり、次いで「EM：機械」「EC：情報」という順であり、最も少なかったのは「EI：情報通信」であった。
- そして目についたのは、「EA：航空システム」の「B：消極・満足型」が17.0%と多かった点であり、これは全学科の中でも最も多かった。
- 「V：環境・建築学部」は前出のように全体的に良い状態であったが、その中で最も良かったのは「VA：建築」であり、「A：積極・満足型」が84.8%と、全体の中でも最も多かった。一方、「VC：環境」「VB：バイオ」は「A：積極・満足型」が少なく、「VB：バイオ」は「C：積極・不満足型」が多く、課題がありそうであった。
- 「H：情報フロンティア学部」では学科の差が少なく、「A：積極・満足型」は「HP：心理情報」「HB：生命情報」がやや多めであった。また、「HB：生命情報」では「B：消極・満足型」が15.9%とやや多めであり、「HP：心理情報」では12.8%と少なめであった。

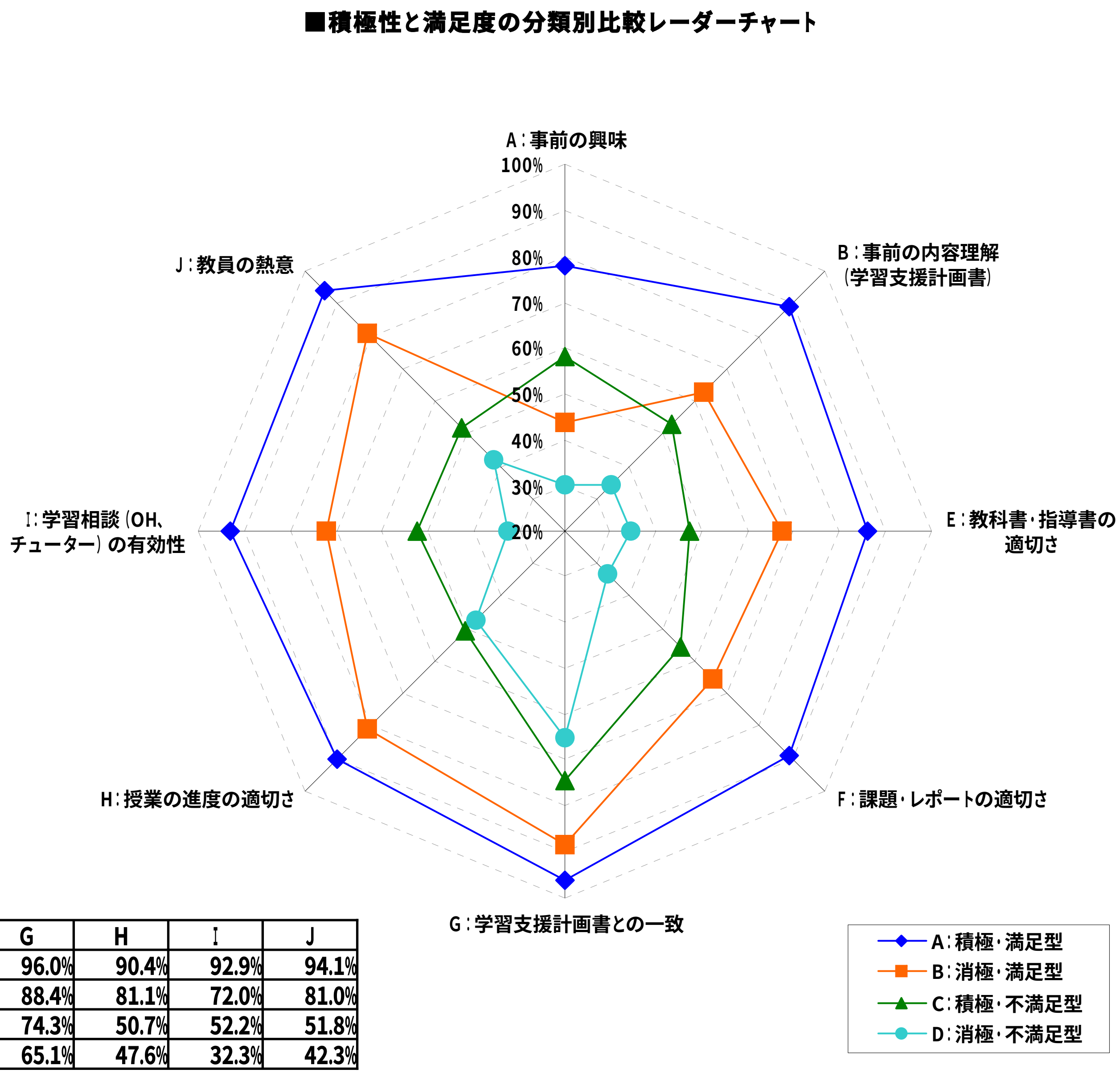






＜7-2＞レーダーチャートによる授業への取り組み姿勢比較

- 積極性と満足度の指標によるグループ毎に、他の設問にはどのように答えているかを確認した。
- 当然の結果ではあるが、「A：積極・満足型」は全ての項目で最も肯定的な意見が多く、その割合も非常に高かった。「A：事前の興味」があったと答えたのは8割弱であったが、他の項目の評価は9割からそれ以上であり、このグループの学生は「K：満足度」だけでなく、授業の内容や支援などを含めて全体的に満足していることが分かる。
- その他のグループを見ると、「B：消極・満足型」「C：積極・不満足型」「D：消極・不満足型」の順で各項目の評価が下がってきており、授業に対する積極性よりも満足度の方が授業の評価に強い影響を持っていることが分かった。
- しかし、「A：事前の興味」では「B：消極・満足型」と「C：積極・不満足型」の評価の逆転が見られた。これを見ると「授業に対する事前の興味の有無は、授業に対する積極性に大きな影響を与えている」ということができ、積極性を持たせるには事前に興味を持たせる工夫が必要と言えそうであった。



■積極性と満足度による比較

	A	B	E	F	G	H	I	J
A：積極・満足型	77.9%	89.1%	85.9%	89.3%	96.0%	90.4%	92.9%	94.1%
B：消極・満足型	43.8%	62.6%	67.6%	65.4%	88.4%	81.1%	72.0%	81.0%
C：積極・不満足型	58.0%	52.9%	47.1%	55.7%	74.3%	50.7%	52.2%	51.8%
D：消極・不満足型	30.2%	34.4%	34.3%	33.3%	65.1%	47.6%	32.3%	42.3%

＜8＞全体のまとめ

＜8-1＞基本的な分析で分かったこと

全項目の基本的な分析と経年変化から分かったことをまとめると下記のようになる。

【学生自身の姿勢】

- 70.6%は受講前に授業に興味を持っていた。
- 81.8%は熱意を持って努力していた。
- 予習・復習などに2時間以上かけている学生は10.0%、1～2時間が22.4%であった。
- 21.7%の学生は予習・復習などをしていない。
- 最終的には90.5%が授業に満足している。
- 全ての項目で昨年度より良くなってきており、満足度は4年連続で向上している。

「学習相談」の利用者はやや少ないものの、事前の内容把握、授業ツール類の評価は高かった。

【授業支援の状況】

- 81.7%は学習支援計画書などで事前に授業内容や進め方を把握していた。
- 79.5%は「教科書・指導書」が適切だと答えており、82.3%は「課題・レポート」が適切だと感じていた。
- 「学習相談」を利用した学生は35.6%とやや少なかったが、利用者の88.0%は有効だと感じていた。
- 全ての項目で昨年度より評価が上がっていた。

内容、進度共に評価は高く、教員の熱意も伝わっていると言える。

【授業の内容・教員の評価】

- 92.5%は授業の内容が学習支援計画書に沿っていたと評価していた。
- 85.5%は進度は適切だと感じていた。
- 88.2%は教員の熱意を感じることができたと答えていた。
- 全ての項目で昨年度より評価が上がっていた。

- 受講前には3割の学生は授業に興味を持てていないが、8割は熱意を持って授業に取り組んでおり、結果として9割の学生が「満足した」と答えていた。
- 最終的には科目の種類で考えるべきであるが、全体の2割は予習・復習などをしておらず、6.5割は「学習相談」を活用していなかった。フォローが必要な学生には利用を促すなどの指導も必要と言える。
- 学習支援の状況、授業の内容にも大きな課題は見られず、9割は教員の熱意を感じているなど、これらの数値を見る限りは緊急に対処すべき課題は見られない。

＜8-2＞学年別･学期別分析で分かったこと

学年別分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

学年	学生自身の姿勢	授業支援の状況	授業の内容･教員の評価
学年別比較	◆ 事前の興味は学年による差が大きく、高学年ほど高いが、3年次生で急速に増す傾向が見られた。 ◆ 授業に対する熱意は2年次生がやや弱めであり、それを除くと高学年ほど熱意を持って取り組んでいる。 ◆ 予習･復習には3年次生が最も時間を充てている。 ◆ 授業の満足度は学年による差が少なく、どの学年でも9割は満足していた。特に1年次生とSクラスが大きな満足感を感じていた。	◆ 事前の授業内容理解は高学年ほど高いが、学習支援計画書の見方に慣れるなどの要因があると思われる。 ◆ 教科書･指導書や課題･レポートの評価は1年次生から3年次生ではそれほど大きな差はなく、Sクラスが良い評価をしていた。 ◆ 高学年ほど「学習相談」を利用しており、利用者からの評価はどの学年も高かった。	◆ ほとんどの科目はしっかりと学習支援計画書に沿っているが、2年次生、3年次生は少し厳しい評価をしていた。応用が増えるなど、科目の内容によるところも大きいと思われる。 ◆ 授業の進度の評価も学年による差はほとんどなかったが、2年次生、3年次生が少し厳しい評価をしていた。 ◆ 2年次生はやや弱かったものの、高学年ほど教員の熱意を感じており、Sクラスは特に強く感じていた。
学期別比較	◆ 事前の興味は学期による変化が最も大きく、学期が進むほど急に興味が増す傾向が見られた。 ◆ 授業に対する熱意、満足度も学期が進むほど増していたが、それほど急な変化は見られなかった。 ◆ Sクラスは対象者が少なかったが、学期が進むと興味、満足度が低下する傾向が見られた。	◆ 「学習相談」の有効性は学期が進むほど感じていた。 ◆ 事前の授業内容理解は2年次生、3年次生では学期が進むとやや高まっていたが、学期によってそれほど大きな差ではなかった。 ◆ 2年次生と3年次生で教科書･指導書の評価が冬学期に大きく低下する傾向が見られた。	◆ 学習支援計画書との一致や授業の進度など、進め方に関しては基本的には学期が進むほどわずかではあるが評価が上がる傾向が見られた。ただし、1年次生、Sクラスでは秋学期に落ち込みが見られた。 ◆ 教員の熱意に関しては、ほとんどの学生が学期が進むほど強く感じていたが、Sクラスでは冬学期に大きな落ち込みが見られた。

- ❖ 授業アンケートのほとんどの項目は高学年ほど上がる傾向が見られた。また、基本的には学期が進むほど上がる傾向が見られた。ただし、2年次生の段階でやや厳しい評価も見られ、中休みしている状況があるのではないかと思われる。
- ❖ 興味の変動は非常に大きく、高学年ほど、学期が進むほど確実に興味が増す傾向が見られ、特に3年次生で急速に大きくなっていた。一方、満足度も学年、学期が進むほど増す傾向は見られたが、興味の変化ほど大きなものではなかった。
- ❖ 学習相談の利用率も高学年ほど高かったが、低学年では利用の仕方が身についていないのではないかと思われる。同様に、学習支援、授業内容に関しても、学年が上がるほど大学の進め方に慣れてくるために評価が上がっているのではないかと思われる。
- ❖ 低学年では興味がないまま受講して、最初のうちは熱意を持てず、満足感も得られない学生がいるようであった。この悪循環を防ぐには、受講前に内容をしっかりと理解させて興味を持たせるといった工夫が必要だと言える。

＜8-3＞学部・学科別分析で分かったこと

学部・学科別分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

【学部別の特徴】

全ての項目で「V：環境・建築学部」のスコアが最も高く
次いで「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」の順であった。

- ◆ 差はそれほど大きくないが、全ての設問で「V：環境・建築学部」のスコアが最も高く、自分自身は充実しており、学習支援や学習内容の評価も高く、教員の熱意も感じていた。
- ◆ 次いで「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」の順であった。
- ◆ 事前の興味と教科書・指導書の評価は学部によって少し差が大きかった。一方、満足度などは学部による差が小さかった。

【V：環境・建築学部の特徴】

興味、事前の理解、自分の熱意などの評価で学科による差が大きく、
学科としては「VA：建築」の高さが目立っていた。

- ◆ 学科による差はやや大きめであり、事前の興味、事前の内容理解、自分の熱意と努力、教科書・指導書、課題・レポートの適切さでは学科による差が大きかった。
- ◆ 全体的に高めであったのは「VA：建築」であり、「A：事前の興味」「H：授業の進度の適切さ」の2項目を除く全ての項目で最もスコアが高かった。次いで「VE：環境土木」「VD：建築都市デザイン」が続いていた。
- ◆ 低めであったのは「VB：バイオ」「VC：環境」などであり、「A：事前の興味」「F：課題・レポートの適切さ」などは他の学科と大きな差がついていた。

【E：工学部の特徴】

他の学部と比べると学科による評価の差が小さく、
「EE：電気電子」がやや高めであった。

- ◆ 他の2学部と比較すると学科による差がそれほど大きくなかった。
- ◆ 「EE：電気電子」が全般的に高く、「A：事前の興味」では他の学科より3ポイントほど高く、興味を持って授業を受けているようであった。
- ◆ そして、「EM：機械」「ER：ロボティクス」「EA：航空システム」などがやや高めであった。
- ◆ 一方、低めであったのは「EC：情報」であり、「F：課題・レポートの適切さ」「I：学習相談の有効性」などでは厳しい評価をしていた。

【H：情報フロンティア学部の特徴】

進度、学習相談、教員の熱意などで学科による差が大きく、
「HB：生命情報」の高さが目立っていた。

- ◆ 学科によって評価に差が見られたのは「H：授業の進度の適切さ」「I：学習相談の有効性」「J：教員の熱意」などであり、「V：環境・建築学部」の結果と異なる結果であった。
- ◆ 学科別に見て高めであったのは「HB：生命情報」「HP：心理情報」などであり、「HB：生命情報」は満足度が最も高く、「A：事前の興味」「B：事前の内容理解」も最も高かった。
- ◆ 全体的に低かったのは「HM：メディア情報」であり、「A：事前の興味」「H：授業の進度の適切さ」「I：学習相談の有効性」の低さが目立っていた。

＜8-4＞科目区分別分析で分かったこと

科目区分別分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

	学生自身の姿勢	授業支援の状況	授業の内容･教員の評価
評価の高かった科目	◆「専門プロジェクト」「進路セミナー」「生涯スポーツ」への興味が強く、その他では専門系の科目に強い興味を持っている。 ◆ 自分自身の熱意は「専門プロジェクト」「生涯スポーツ」で突出しており、意気込みが感じられた。 ◆「工学基礎実技科目」」「専門基礎科目」では予習･復習に多くの時間がかけられていた。 ◆「専門プロジェクト」の満足度が最も高く、一般系の満足度がやや高めであった。	◆「専門プロジェクト」「進路セミナー」「生涯スポーツ」の事前理解がやや高かった。 ◆ 教科書･指導書では「外国語科目」「工学基礎実技科目」「人文社会科学」の評価が高かった。 ◆ 課題･レポートは「専門プロジェクト」「外国語科目」で評価が高かった。 ◆「工学基礎実技科目」「専門プロジェクト」では「学習相談」が非常に活用されており、有効性も認められていた。	◆ 学習支援計画書との一致では「外国語科目」「工学基礎実技科目」「修学基礎科目」の評価が高く、一般系の科目が高かった。 ◆「人文社会科学」「外国語科目」など、一般系の科目で進度は適切だという意見が多かった。 ◆「外国語科目」「生涯スポーツ」など、一般系の科目で教員の熱意を感じることが多いようであった。 ◆ また、専門系であるが「専門プロジェクト」の教員には強い熱意を感じていた。
評価の低かった科目	◆「修学基礎科目」への興味が最も低く、「工学基礎科目」「外国語科目」への興味も低めであった。 ◆ 科目の特性によるが、「進路セミナー」に対する熱意が低く、「工学基礎科目」もやや低めであった。 ◆ 専門系の科目の満足度がやや低めであったが、「工学基礎実技科目」は高めであった。	◆「工学基礎科目」「専門基礎科目」の事前の理解がやや低い傾向が見られた。 ◆ 教科書･指導書では「専門コア科目」「工学基礎科目」の評価が低めであった。 ◆ 課題･レポートは「進路セミナー」「専門コア科目」「専門基礎科目」で評価が低かった。	◆ 学習支援計画書との一致では「専門コア科目」「工学基礎科目」「専門基礎科目」などがやや低めであり、応用が多く専門性の高い科目であるためだと思われる。 ◆「工学基礎科目」「専門基礎科目」など専門系の科目は進度が速いという意見が多かった。 ◆「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目で教員の熱意が感じられないようであった。特に「工学基礎科目」で評価が低めであった。

❖ 専門系の科目には強い興味と熱意を持って取り組んでいるが、内容が難しいためか進度が速いと感じており、教科書･指導書、課題･レポートの評価も厳しく満足度も低かった。また、理解が追いつかないためか、教員の熱意も感じないようであった。

❖「専門プロジェクト」にも強い興味と熱意を持って取り組んでおり、「学習相談」も有効活用している。そして、理解が追いついているためか満足度は非常に高く、教員の熱意も感じており、全科目の中で最も評価が高いと言える。

❖ 一般科目に対しては当初の興味は低いが、教材類の評価は高く、進度も適切であり、学習支援計画書にもよく一致していると感じている。そして、教員の熱意も感じており、結果として満足度が高いという傾向が見られた。

＜8-5＞授業の満足度と取り組み姿勢の分析で分かったこと

満足度と取り組み姿勢の分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

【全体傾向】

全体の8割は授業に積極的で結果として満足感も感じているが、2割は問題を抱えており、実態を把握してフォローが必要と言える。

- ◆「A：積極・満足型」で最も良い状態にある学生は全体の77.9%を占めており、この結果を見る限り8割の学生は非常に良い状態にあると言える。
- ◆「B：消極・満足型」は13.4%で、このグループは「教員に引っぱられて何とか授業についていっている」といった状況が考えられる。
- ◆「C：積極・不満足型」（5.5%）」は頑張っているにもかかわらず満足が得られず、そのままでは積極性も失う可能性があるため注意が必要である。
- ◆「D：消極・不満足型」（3.2%）」はやる気を出しておらず、サポートにもついていこうとしていないグループであり、根本的な対策が必要と言える。

【学部・学科別比較】

「環境・建築学部」が最も良い状態で、中でも「建築」が良い状態であった。次いで、「工学部」「情報フロンティア学部」の順であった。

- ◆「A：積極・満足型」は「環境・建築学部」で80.5%と最も多く、次いで「工学部（77.4%）」「情報フロンティア学部（75.2%）」の順であった。
- ◆「工学部」では「EE：電気電子」で「A：積極・満足型」が最も多く、次いで「EM：機械」「EC：情報」という順であり、「EI：情報通信」が最も少なかった。
- ◆「V：環境・建築学部」で最も良かったのは「VA：建築」であり、「A：積極・満足型」が84.8%と、全体の中でも最も多かった。「VB：バイオ」は「C：積極・不満足型」が多く、課題がありそうであった。
- ◆「情報フロンティア学部」では学科の差が少なく、「A：積極・満足型」は「HP：心理情報」「HB：生命情報」がやや多めであった。

【年度別・学年別比較】

昨年度よりも「A：積極・満足型」が増加して良い状態となっており、学年別には高学年ほど良い状態にあると言える。

- ◆ 年度別に比較したところ、「A：積極・満足型」はH17よりも2.1ポイント増加しており、わずかではあるが良い状態の学生が増加していると言える。
- ◆「B：消極・満足型」は▲0.8ポイント、「C：積極・不満足型」は▲0.8ポイント、「D：消極・不満足型」は▲0.5ポイントと全て減少していた。
- ◆ 学年別の比較では、明らかに高学年ほど「A：積極・満足型」が多くなる傾向がうかがえ、高学年ほど良い状態にあると言える。
- ◆「C：積極・不満足型」「D：消極・不満足型」は学年が異なっても割合がほとんど変わらず、これらは一定の割合を占めていると言える。

【レーダーチャート比較】

授業への興味は他の項目に大きな影響を与えており、積極性を持たせるには事前に興味を持たせる工夫が必要と言える。

- ◆「A：積極・満足型」で「A：事前の興味」があったと答えたのは8割程度であり、このグループの学生は「K：満足度」だけでなく、授業の内容や支援などを含めて全体的に満足しているようであった。
- ◆ その他を見ると「B：消極・満足型」「C：積極・不満足型」「D：消極・不満足型」の順で各項目の評価が下がってきていた。
- ◆「A：事前の興味」では「B：消極・満足型」と「C：積極・不満足型」の評価の逆転が見られた。これを見ると「授業に対する事前の興味の有無は、授業に対する積極性に大きな影響を与えている」ということができる。

＜8-6＞全体のサマリー

今回の授業調査をまとめると学生の現状は下記のようにまとめることができる。

《 学年別・学期別の状況 》

- 2年生でやや低下するものの、高学年ほど、また学期が進むほど興味や満足度、授業支援、授業内容の評価が上がる傾向が見られた。
- 授業への興味の変動は非常に大きく、3年次生で急速に大きくなっていた。
- 低学年は「学習相談」をうまく活用できていないのではないかと思われる。
- 低学年では興味がないまま受講して、結果的に満足度が低い学生がいる。

《 科目区分別の状況 》

- 専門系の科目には強い興味と熱意を持って取り組んでいる。しかし、内容が難しいためか進度が速いと感じており、授業の進め方、教員の熱意の評価も厳しく満足度も低い。
- 「専門プロジェクト」にも強い興味と熱意を持って取り組んでいる。そして、理解が追いついているためか満足度は非常に高く、教員の熱意も感じており、全科目の中で最も評価が高い。
- 一般科目に対しては当初の興味は低いが、教材や進め方の評価は高い。そして、教員の熱意も感じており、結果として満足度は高かった。

【学生の状況】

- □ 7割の学生は興味を持って授業に取り組んでおり、最終的に9割の学生が授業に満足している。
- □ 学習支援、授業内容にも大きな課題は見られず、9割は教員の熱意を感じているなど、数値からは緊急で対処すべき課題は見られない。
- □ 約65%の学生は「学習相談」を有効活用しておらず、この利用促進は1つの課題と言える。

《 学部・学科別の状況 》

- 全ての項目で「V：環境・建築学部」のスコアが最も高く、次いで「E：工学部」「H：情報フロンティア学部」の順であった。
- 「E：工学部」では他の学部と比べると学科による評価の差が小さく、「EE：電気電子」がやや高めであった。
- 「V：環境・建築学部」では、興味、事前の理解、自分の熱意などの評価で学科による差が大きく、学科としては「VA：建築」の高さが目立っていた。
- 「H：情報フロンティア学部」では進度、学習相談、教員の熱意などで学科による差が大きく、「HB：生命情報」の高さが目立っていた。

《 積極性と満足度の状況 》

- 全体の8割は授業に積極的で満足感も感じているが、2割には課題がありそうであった。
- 昨年度よりも「A：積極・満足型」が増加して良い状態となっており、学年別には高学年ほど良い状態にあると言える。
- 「V：環境・建築学部」が最も良い状態で、中でも「VA：建築学科」が良い状態であった。
- 授業への興味は他の項目に大きな影響を与えており、積極性を持たせるには事前に興味を持たせる工夫が必要と言える。

＜8-7＞今後の展開の方向性

今回のサマリーより、今後の改善の方向性として下記のようなものが考えられる。

改善案・方向性	内容
学生（特に低学年）に 「事前に興味を持たせる」ための 施策を実施する。	◆ 「事前の興味」が熱意や満足度、授業の評価に大きな影響を与えていることが数値から分かった。これに対応するため、授業に「興味」を持たせる施策を検討する。 ◆ 「学習支援計画書」と授業はよく一致していると評価されており、大きな問題はないと思われるが、「興味を持たせる」という観点での見直しの可能性を探り、受講前の情報提供の充実を図る。 ◆ 低学年は「入学パンフレットで見た最先端のカリキュラム」と「入学直後に受ける基礎的な授業」との間にギャップや期待はずれ感を感じていることも考えられる。これは更に詳細を把握する必要があるが、このギャップを埋めるための「学習支援計画書」や「セミナー」などを考える必要もあると思われる。
良い状態にある事例 （科目では専門プロジェクト、学科では建築など） の詳細を研究することで、 改善のヒントを探し出す。	◆ 「専門プロジェクト」は興味、熱意、満足度、授業支援・内容のいずれの面でもスコアが高く、学生が非常に満足しており、何らかの要因があるものと思われる。 ◆ また、学部では「環境・建築学部」、学科では「建築学科」が良い状態にあるようであり、より詳細に実態を把握することで、興味を持たせる方法や満足度を上げるヒントが見つかるのではないかと思われる。
「学習相談」の利用度を上げる。 特に低学年での利用促進策を検討する。	◆ 約65％の学生はオフィスアワーやチューターなどの「学習相談」を利用していなかった。「専門プロジェクト」では「学習相談」を利用した学生のほぼ100％が有効性を感じており満足度が高かった。カリキュラムの特性によって有効性や必要性は変わると思われるが、利用促進をしても良いのではないかと思われる。 ◆ 低学年で特に利用率が低かったが、気軽に利用することに慣れていなかったり、有効性に気がついていないケースもあると思われるため、より利用しやすくする工夫し、しっかりと広報することも必要だと思われる。
課題を抱えていると思われる約2割の 学生の実態を把握・分析し、 改善に結びつけるという PDCAサイクルを構築する。	◆ 3割は授業に興味を持てず、2割は予習・復習をしていなかった。また、1割が授業に満足しておらず、2割は積極性と満足度から見て課題を抱えていそうであった。これらを見ると恐らく全体の2割程度の学生が課題を抱えていると思われる。 ◆ インタビューなどによってこの2割の学生の状況を更に詳細に把握し、課題を抽出し、授業や授業支援などに役立てるというPDCAサイクルを構築する。